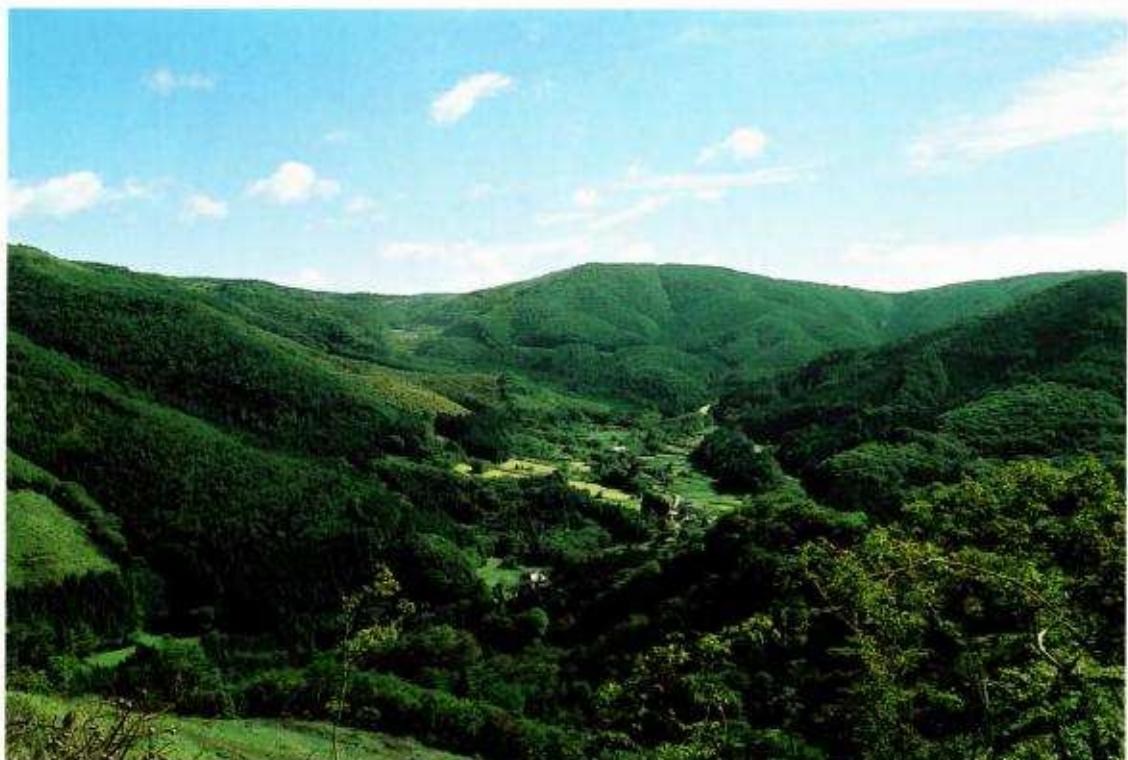


岩手の製鉄遺跡



平成18年3月

岩手県教育委員会

岩手の製鉄遺跡

平成18年3月

岩手県教育委員会

序 文

当教育委員会では、私達の祖先より受け継いできた貴重な歴史遺産である埋蔵文化財を保護するため、各種開発事業との調整を日常的に行っておりますが、埋蔵文化財包蔵地の中には特殊な性格や意味・内容を持つものがあり、それらは、可能な限り現状で保存するべきであると考えております。そのためには、その位置と範囲について、十分に関係機関に周知しておく必要があります。

ところが、埋蔵文化財包蔵地の中には特殊な性格や意味・内容を持つものがあり、それは、可能な限り現状で保存するべきであると考えております。したがって、その位置と範囲について十分に関係機関に周知しておく必要があります。

このような趣旨にのっとり、当教育委員会では、これまで、中世城館、貝塚、洞穴遺跡の分布調査を実施し、報告書を刊行してまいりました。今回の製鉄遺跡調査事業は、これらに続くものであります。

当事業においては、平成14年度より3カ年計画で詳細分布調査を実施し、新に多くの製鉄関連遺跡を発見・確認することができましたが、その大半が山間部に所在していることから、位置や範囲を正確に把握することが難しい箇所が多くありました。また、製鉄関連遺跡のみならず、遺跡から出土する様々な遺物は、過去の日常生活を復元するための有効な手がかりとして、極めて重要な意味を持っています。

本報告書は、3カ年の調査成果をまとめたもので、従来周知されていた製鉄関連遺跡の他に、今回新たに遺跡として登録したもの等を含んでおります。本報告書が活用されることで、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位からご協力・ご指導を賜りましたことに対し、心より感謝申しあげます。

平成18年3月

岩手県教育委員会
教育長 照井 崇

例　言

1 本書は岩手県教育委員会が平成14年度から平成16年度にかけて実施した県内製鉄関連遺跡調査事業に係わる調査結果の報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。事業額は以下のとおりである。

| | | | |
|--------|------------|--------|----------|
| 平成14年度 | 621,720円 | 平成16年度 | 566,673円 |
| 平成15年度 | 1,369,215円 | 平成17年度 | 報告書刊行 |

2 本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県教育委員会が委嘱した製鉄調査員が主として現地調査を行い、関係市町村教育委員会の協力を得ながら実施している。委嘱した調査員は次のとおりである。

| | | |
|-----------|--------|---------------------------|
| 全県担当 | 佐々木 清文 | (財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター) |
| | 濱田 宏 | (財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター) |
| | 阿部 勝則 | (財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター) |
| 岩手・盛岡地区担当 | 佐々木清文 | (財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター) |
| 紫波・稗貫地区担当 | " | |
| 和賀・胆江地区担当 | 佐藤 良和 | (財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター) |
| 両磐地区担当 | 後藤 円 | (花泉町教育委員会) |
| 気仙地区担当 | 遠藤 勝博 | (陸前高田市教育委員会) |
| 上閉伊地区担当 | 花石 公夫 | |
| 下閉伊地区担当 | 佐々木 健 | |
| 九戸・二戸地区担当 | 大畠 英明 | (九戸村教育委員会) |

3 地区概観は、各地区の歴史的背景と、製鉄遺跡の分布状況について略述している。各地区分は教育事務所の所在地区によるもので、これは歴史的背景と大略一致する区分である。

4 製鉄遺跡位置図は国土地理院発行の1/50000地形図を原図として使用した。

5 本調査で対象とした製鉄遺跡については近世・近代までの時代に属するものである。

6 製鉄遺跡の名称については、周知の遺跡については基本的に岩手県遺跡基本台帳によっているが、一部変更したものもある。その場合、本報告書記載の名称等を正しいものとし、岩手県遺跡基本台帳についてはおって改訂することとする。新規発見の遺跡については地名・文献資料に載っている名称等を使用している。

7 各地区的市町村の名称は平成17年4月1日現在のものとする。(製鉄遺跡一覧表には平成18年3月31日現在の新市町村名欄を設けている。)

8 本事業の報告書編集等は、平成14年度～平成16年度までは岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の日下和寿専門学芸員、平成17年度は溜浩二郎文化財行政研究員が担当した。

なお、調査及び整理については下記の方々のご協力をいただいた。

県内各市町村教育委員会、財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、八木光則(盛岡市中央公民館)、酒井久男(種市町図書館、歴史民俗資料館長)

9 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

目 次

序文

例言

| | |
|------------------------|----|
| 第1章 岩手県における製鉄遺跡研究史 | 1 |
| 第2章 岩手県内製鉄遺跡の概要 | 3 |
| (1) 全体概要 | 3 |
| (2) 盛岡・岩手地区の概要 | 3 |
| (3) 紫波・稗貫地区の概要 | 5 |
| (4) 和賀・胆江地区の概要 | 6 |
| (5) 両磐地区の概要 | 7 |
| (6) 気仙地区の概要 | 7 |
| (7) 上閉伊地区の概要 | 9 |
| (8) 下閉伊地区の概要 | 10 |
| (9) 九戸・二戸地区の概要 | 10 |
| 第3章 調査結果から見た岩手県の製鉄関連遺跡 | 60 |
| 第4章 製鉄遺跡調査のまとめ | 63 |

図版目次

| | | | |
|--------------------|----|--------------------|-------|
| 第1図 岩手県内製鉄遺跡分布図 | 22 | 第12図 岩手県内製鉄遺跡位置図11 | 33 |
| 第2図 岩手県内製鉄遺跡位置図1 | 23 | 第13図 岩手県内製鉄遺跡位置図12 | 34 |
| 第3図 岩手県内製鉄遺跡位置図2 | 24 | 第14図 岩手県内製鉄遺跡位置図13 | 35 |
| 第4図 岩手県内製鉄遺跡位置図3 | 25 | 第15図 岩手県内製鉄遺跡位置図14 | 36 |
| 第5図 岩手県内製鉄遺跡位置図4 | 26 | 第16図 岩手県内製鉄遺跡位置図15 | 37 |
| 第6図 岩手県内製鉄遺跡位置図5 | 27 | 第17図 岩手県内製鉄遺跡位置図16 | 38 |
| 第7図 岩手県内製鉄遺跡位置図6 | 28 | 第18図 岩手県内製鉄遺跡位置図17 | 39 |
| 第8図 岩手県内製鉄遺跡位置図7 | 29 | 第19図 岩手県内製鉄遺跡位置図18 | 40 |
| 第9図 岩手県内製鉄遺跡位置図8 | 30 | 第20図 岩手県内製鉄遺跡位置図19 | 41 |
| 第10図 岩手県内製鉄遺跡位置図9 | 31 | 第21図 岩手県内製鉄遺跡位置図20 | 42 |
| 第11図 岩手県内製鉄遺跡位置図10 | 32 | | |
| 写真図版 | | | 66～69 |

表目次

| | | | |
|--------------------|----|-------------------------|----|
| 第1表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(1) | 12 | 第7表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(7) | 18 |
| 第2表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(2) | 13 | 第8表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(8) | 19 |
| 第3表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(3) | 14 | 第9表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(9) | 20 |
| 第4表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(4) | 15 | 第10表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(10) | 21 |
| 第5表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(5) | 16 | 第11表 岩手県内製鉄遺跡関連文献一覧表(1) | 64 |
| 第6表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(6) | 17 | 第12表 岩手県内製鉄遺跡関連文献一覧表(2) | 65 |

第1章 岩手における製鉄遺跡研究史

北上山地は近世後半に東日本最大の鉄生産地となり、江戸時代の産業を支える大きな役割を果してきた。その後、安政四年（1857）12月1日に鉄鉱石利用の洋式高炉の操業に我が国初の成功を収めた。それから今日まで僅か1世紀半しか経過していない。我々の4～5世代前のことであるが、新しい情報があふれる現代社会では、1～2世代前の記憶も途絶えつつあり、記録も十分に残されている状況にはない。まして、江戸時代前期や中世・古代に遡ると手がかりは極端に少ない。

しかし、いつの時代でも、先人の業績を研究し、伝える努力をした人がおり、その成果のいくつかは研究報告や市町村史等の発刊事業などに利用されている。また、活字印刷物としての記録は残されていなくても石碑や伝承が残っており、先人の熱意と努力に敬意を表する。1950年代から各方面の研究活動も復興し、考古学の分野でも製塙遺跡や窯跡などの生産遺跡調査も全国的に盛んに行なわれ始め、現在では多くの学問が交流協力して大きな成果を上げている。そういう流れの中で、岩手県の鉄の生産に関連した研究活動は概ね以下になると思われる。

新日本製鐵所釜石製鐵所の前身富士製鐵や釜石市の職員が、近代製鐵開始100年を記念して釜石市橋野高炉を国指定史跡にするという計画をたて、実施された総合調査は、森嘉兵衛・板橋源・田中喜多見各氏の協力と、さらには日本鉄鋼連盟の後援を得て行われた。発掘調査は昭和30（1955）年11月～31年9月まで数次に亘り行われた。その報告が昭和32年に刊行され、橋野高炉跡は、昭和32（1957）年6月3日に国指定史跡となった。その年には鉄の記念日が12月1日に制定され、記念切手も発行された。

報告書は考古学・歴史学が協力してできたすばらしい内容で、高く評価された。東北地方の鉄産業の歴史を遡り、釜石に橋野高炉ができる以前から北上山地に製鐵業が栄えており、その基盤の上に高炉による製鉄が成り立ったことが明らかにされた。橋野高炉は、この発掘のほぼ70年前の1894（明治27年）まで操業されていたことを思えば、記録・記憶がいくらかでも残っているうちに検証し、評価され、史跡として現在に形を留めることになり、関係者の努力に改めて敬服する。

森・板橋両氏は、その後1959年に栗林銭座の調査を行い、高炉銑による鋳銭事業や遺跡状況を明らかにした。板橋氏はその後も仙台藩の製鐵遺跡である文久山鉄山や舞草製鐵遺跡の発掘調査等も行っている。一方、森氏は県内各地に残る古文書を調査し、江戸時代の産業・経済、中でも北上山地北部および仙台藩の製鐵産業のもたらした商業経済の発達、生活構造の大きな変革などを明らかにした。

1950年代頃から全国的に各学会の研究活動も復興し、岩手県内でも多くの研究発表が報告されるようになる。いくつか例を挙げると、新渡戸仙岳氏の密鋳銭遺跡の研究、伊藤清司氏の近世鉱山経営における木炭の研究、伊東信雄・昆勇郎氏等による大槌町ヤグラ沢・門脇沢遺跡の調査、千葉房夫氏の旧仙台藩領の製鐵に関する研究発表など県内各地で研究が行われている。

1960年代以降になると、たたら研究誌上（たたら研究会は1958年結成）などに文献や現地踏査を通じての研究成果が多く発表されるようになり、製鐵関連の研究者の増加が伺える。特に東北大学岡田廣吉氏による調査研究は、遠野市佐比内高炉の発掘調査を含め、原料鉱石から製鐵技術、歴史的背景など多岐に亘り、砂鉄から鉄鉱石利用の製鐵の実態を明らかにしている。

ほかにも文献研究のみにとどまらず、現地調査や復元実験を積極的に行った人も多い。八戸藩の製鐵史を追跡した斎藤潔氏、気仙郡の製鐵遺跡をまとめた梅木卓二氏、東磐井郡の製鐵史を研究し

ている芦丈八郎氏、県内全域ならず隣接県まで足跡を残した菊池春雄・萩野馨両氏、久慈砂鉄の開発史を追究した田村栄一郎氏、磁鐵鉱の一種餅鉄を刀剣材料とする研究をした新沼鐵夫氏など、ほかにも多くの方々が様々な形で鉄に関連した研究に取り組み、現在に至っている。

1970年代以降は公共事業に伴う発掘調査により鉄の生産加工に関わる遺跡の調査も増加し、踏査だけではわからなかった遺跡の具体的な内容も明らかになってきた。東北縦貫自動車道の関連で、志波城の所在が明らかになり、石鳥谷町大瀬川A遺跡では古代製鉄炉が検出されるなど、9世紀代には内陸部でも大規模な鉄の生産加工の痕跡が確認されている。一方、三陸沿岸でも宅地開発や道路建設などの大規模開発に伴い、古代の遺跡調査が増加し、8世紀代から始まり10世紀に最盛期を迎える製鉄関連遺跡の実態が明らかになってきている。

近世東日本を代表する製鉄地である八戸藩の玉山鉄山や盛岡藩の江川鉄山、また伊達藩領のドウメキ沢鉄山の操業や生活の具体的な内容が明らかになってきた。赤沼英男氏も科学分析による鉄素材の原料や加工技術・遺物の保存処理技術などの研究を進めている。こうした中で1990年には岩手県立博物館開館10周年記念事業として「北の鉄文化展」が開催され、鉄に関する各方面的研究成果が総合的に示された。

その後も開発に伴う発掘調査の事例が追加され、また、市町村教育委員会でも詳細分布調査等を実施し、古代から現代に至る多くの遺跡が確認されている。特に下閉伊地方では500箇所を超す遺跡の存在が明らかになった。東磐井地方では鉄穴流しやスガネ道の調査もされている。また鉄製品の形状分析や編年研究も進んでいる。このように調査資料や調査方法の充実に伴い、研究会活動も盛んに開催され、製鉄史の実態解明の体制も整いつつある。

この製鉄関連遺跡悉皆調査により、遺跡の現状を把握し、今後の調査研究基本資料が整理されることになる。今後も発掘調査例の増加や分析調査の研究手法が多彩になり、鉄の生産加工の状況がより具体的に明らかになると思われる。なかでも、三陸地方古代の製鉄炉のルーツや伝搬経路、そして中世の鉄生産の状況が、その背景となっている歴史とともに解明されることが期待される。

第2章 岩手県内製鉄関連遺跡の概要

(1) 全体概要

先に事業の概要及び本報告書の作成要項について述べておく。

本事業は、岩手県内の製鉄関連遺跡の周知を目的とした、野外分布調査を行ったもので、調査は平成14年～平成16年度まで3カ年にわたり実施し、整理は調査と平行し、平成17年度まで行った。

野外分布調査の対象は、古代から近代とし、周知の製鉄関連遺跡の現況及び、遺跡の可能性の高い、あるいは近い将来、開発による破壊を受ける可能性のある箇所を調査した。

実際の調査では、周知の製鉄関連遺跡以外は、文献資料等などをもとに遺跡のある箇所を調査した。

野外分布調査は、県教育委員会が委託した製鉄関連遺跡調査員が主として行った。調査員は、例言に示したように各地区ごとに任命し、1カ所につき1～3回の踏査を行い、計400に近い数の場所で調査を実施した。

調査員には、事前に調査計画書を、終了後は調査日誌、調査カード、撮影したフィルムを提出してもらった。調査の際は複数行動を基本とし、写真は35mmカラーフィルムを使用した。

調査カードはA4版両面刷りで、表面は文章記載、裏面は図(1/25,000位置図、遺跡までの略図、平面模式図)を貼付するようになっている。表面に記載した調査項目は、43頁以下の表に掲げたものに加え、土地所有者、周囲の状況である。

報告書の主体をなす本章の遺跡表は、上記の調査カードに基づいて事務局が作成した。その他の章は、基本的に各担当者が執筆した。遺跡表は、今回分布調査を行ったすべての箇所を掲載した一覧表と、別に遺物の出土量や遺跡の特徴などから取り上げた表とを作成した。

製鉄関連遺跡は山間部や急斜面地形に存在することが多く、今回行った調査で多くの新規遺跡を発見できたことは1つの成果ではあるが、一方で未発見の製鉄関連遺跡が多く存在する可能性は大きく、今後継続した調査が必要であろう。

次に本書で報告する製鉄関連遺跡は全部で386箇所である。県内に存在する製鉄関連遺跡の一部と考えられる。なお、第1～10表に記載したものについては周知の遺跡以外にも遺跡隣接地や新規発見となったものもあり、遺跡名のないものについてはコード名で示した。

今回の報告を地区別にみると盛岡・岩手地区4、紫波・稗貫地区3、和賀・胆江地区45、両磐地区47、気仙地区63、上閉伊地区58、下閉伊地区73、九戸・二戸地区93となり九戸・二戸地区が最も多い。

(2) 盛岡・岩手地区的概要

盛岡・岩手地区は、岩手県中央部北部に位置し、盛岡市・雫石町・滝沢村・玉山村・岩手町・西根町・松尾村・安代町・葛巻町の1市5町3村からなり、面積は約3,466.69km²で県土の約22.7%を占める。

盛岡市永福寺山遺跡の縄繩文時代の土壙墓から出土した鎌・刀子から3～4世紀に鉄の文化に接したことがわかる。それに続く盛岡市薬師社脇遺跡からも5～6世紀の遺跡とともに斧・鎌・鎌などが検出されるなど、縄繩文時代・古代遺跡の調査例の増加とともに鉄製品が急速に普及していく状況がわかる。

7～8世紀の古墳や集落遺跡からは、砥石だけでなく、鍛冶滓が検出されることもあり、研磨加工だけでなく鍛冶加工が行われていた可能性がある。鉄を加工した明らかな痕跡が現れるのは9世紀初頭の城柵官衙遺跡である志波城が築かれてからである。

志波城跡からは、鍛冶工房や鋳造工房の一部と見られる溶解炉の一部が見つかっている。志波城という駐屯地には政府から派遣された多くの技術者がおり、その技術が周辺住民の生活や開拓事業にも大きな役割を果たしたと思われる。中でも鉄の加工技術は重要で、轆を使い加熱して鍛打加工する鍛冶技術は急速に広がったものと思われ、9世紀以降、楕円形鉄滓や羽口片が出土する遺跡が増加している。矢巾町徳丹城からも鉄製品は出土しているが、志波城のように積極的に鉄の加工を行った痕跡は今のところ見られない。

製鉄についても石鳥谷町大瀬川A遺跡で9世紀前半の製鉄炉が検出されている。旧都南村羽場遺跡でも1トン近い鉄滓が出土したといわれ、製鉄が行われた可能性がある。炉の形状は不明瞭であるが、長円形の炉跡のような報告から長方形箱形炉の可能性がある。しかし、送風装置や作業場の構造などは不明である。沿岸部で多く確認されている小型の堅形炉とは異なり、中央の技術者による官製の製鉄技術の可能性も考えられる。

鉄の素材となる砂鉄は花崗岩の風化地帯に多いが、非花崗岩地帯でも砂鉄は存在し、ある程度の量であれば、条件の良い場所では容易に採集できる。しかし、大瀬川A遺跡や羽場遺跡では、その後も積極的に製鉄を行った痕跡はみられないので、十分な砂鉄の継続確保はできないなど別の要因があったようである。

9～10世紀になると、安代町関沢口遺跡などのように集落ごとに鍛冶加工を専門に行った遺構が現れる。村はずれの鍛冶屋のような存在である。10世紀末の西根町暮坪遺跡や子飼沢山遺跡など山上に築かれる集落にも鉄製品が残されることがあるが、定住期間が短いせいか、鉄加工の痕跡は見られない。西根町荒木田山には沢沿いにガラス質の滓と炉壁が散在する遺跡があり、金属加工の工房跡と思われるが、時代や業種を特定できる資料が伴出していない。

前九年の役・後三年の役・藤原氏の時代と鉄製品の需要が急速に増大し、素材・製品の流通とともに高度な加工技術も確立されたことは、すぐれた刀剣類や祭祀具等が多く残存することから明らかである。紫波町比爪館からは羽口片など鍛冶工房に関する遺物も出土している。

製鉄地と離れたところに鍛冶加工あるいは鋳造加工の工房が分離し、それぞれ専門の製品を生産していたと思われるが、工房群の発掘例は乏しく、工房は必ずしも密集して営まれていなかったようである。また、鉄製品は貴重品でもあり、古鉄のリサイクルが当然の時代でもあり、鍛造・鋳造を問わず破損した製品の残存状況は少ない。また鉄床や鉄鉄・鉄槌などの加工道具の残存例も少ない。

盛岡城築城やその他の城下の整備に関しても多量の鉄製品が使用されている。美術品にしても、鍛造・鋳造ともに優れた作品を今に伝えている。近世の製鉄の中心地は九戸地方と下閉伊地方であるが、その中の八戸藩の大野六カ鉄山のひとつに数えられた平庭鉄山が葛巻町に存在する。鉄山では鉄素材である粗鉄(銑鉄) やシナ鉄を生産するだけでなく、延鉄(軟鉄) や刃金も作っている。延鉄は大鍛冶場で作られ、大鍛冶場は鉄山内にある場合が多い。葛巻町三浦家では鉄の流通業を営んだだけではなく、鎌などの加工職人を雇い、製品の製作販売も行っている。城下町には職人がまとまって居住していたことが町名に残っている。

江戸後期に銅が海外に多量に流出したことにより銅不足に陥った幕府は、元文四年(1739) から鉄錢の鋳造を始める。岩手県でも慶応二年(1866) に大迫錢座が許可され、釜石の銑鉄を使用して

鉄錢の鋳造を行う。賈金作りはお金の誕生とともに始まったといわれるが、密鋳錢の製作は鉄錢の流通とともに増加し、岩手県にも製鉄地帯に近い軽米町や岩泉町・住田町等でいくつかの工房跡が知られている。岩手郡内では零石町高松沢や葛巻町鷹巣に私炉があったことが有名で、ほかにも多くの製作工房があったようである。

近世以降、鉄製品の需要はさらに高まり、また、鉄道開通後は素材・製品とも輸送能力が高まり、市場が拡大し、鋳造鉄器・鍛造鉄器とも民生用だけではなく工業用製品も増産されたが、現在ではその工房や遺跡の残存は極めて少ない。

(3) 紫波・稗貫地区の概要

紫波・稗貫地区は岩手県のほぼ中央に位置し、紫波地区は紫波町・矢巾町の2町、稗貫地区は花巻市・石鳥谷町・大迫町・東和町の1市3町からなり、面積は約1,214.63km²で県土の約7.9%を占める。南に隣接する北上市岩崎台地遺跡群の続縄文時代の墳墓から刀子・鉄鏃・砥石などが出土したほか、和賀川流域江釣子古墳群や豊沢川流域の熊堂古墳群などから刀劍類や馬具類など多くの鉄製品が出土している。7・8世紀の周辺の集落からも鉄製品や砥石の出土が確認され、鉄製品の普及が伺える。

9世紀前半の石鳥谷町大瀬川A遺跡からは、大量の鉄滓とともに箱型炉と思われる製鉄炉の痕跡が確認されている。高地開拓の道具等に使用する大量の鉄を自前で生産することを目論んだと思われるが、砂鉄の供給等に難があったのか、継続操業されていない。

古代の集落である北上市本宿遺跡からは鍛冶工房跡が検出されている。また北上南部工業団地遺跡からは製炭用穴窓が数基確認されており、大量の木炭を生産していたことがわかる。

筈間館跡など中世城館遺跡からは多種多量の鉄製品が出土しており、製作技術の向上と製品の流通量の増加が垣間見える。

近世になり九戸・下閉伊地方の製鉄が盛んになると、火の神や鉱山の神を祀る神社に鉄山の繁栄を願って初湯の奉納等が行われるところも出てくる。東和町丹内山神社などにもその扁額が奉納されているが、地元あるいは近隣の鉄山のものではない。

一方、大迫町内川目には、慶応2年(1866)に盛岡藩で初めて公式に鉄錢鋳造所として開設された大迫錢座跡がある。釜石橋野高炉で生産された銑鉄を利用して生産を行ったが、5年後に焼き討ちにあい壊滅した。遺跡にはおびただしい鉄滓とともに煉瓦の破片もあり、橋野高炉同様に近代化した生産施設が整備されていたことを裏付けている。

近世後半には無許可の鉄錢の鋳造も行われ、湯田町湯草沢などでは打ち壊しなどが行われたことが湯田町史にも記載されている。西和賀地方は藩政時代以前から鉱山開発が盛んに行われ、金や銅などが主に生産されたが、砂鉄や鉄鉱石の開発も行われている。

明治時代に操業された和賀仙人鉱山は、明治33年(1900)に12トン高炉を築き、大正9年(1920)まで木炭で低リン銑を生産して、釜石鉱山・栗木鉄山に次ぐ民間の製鉄所として栄えた。当時の写真等を見ると高炉の位置は、日本重化学工業の高炉付近にあたり、昭和13年の日本重化学工業の高炉建設の際に破壊されたようである。高炉西側の敷地は排滓場を整地したようで、鉄滓が散在している。川岸の斜面には、木の根に巻き込まれた鉄滓や煉瓦が認められる。

そのほかに次代は不明であるが、東和町向田瀬の田瀬湖畔に鍛冶炉跡の存在や、紫波町土館の新山神社にも周辺から出土した鉄滓が祀られているなど、認知されていない遺跡もある。

(4) 和賀・胆江地区の概要

和賀・胆江地区は岩手県南部に位置し、和賀地区は北上市・湯田町・沢内村の3市町村、胆江地区は水沢市・江刺市・金ヶ崎町・前沢町・胆沢町・衣川村の2市3町1村からなり、面積は約2,201.45km²で県土の約14.4%を占める。西を奥羽山脈、東を北上山地に挟まれている。北上地方は北上川を挟んで西部の扇状地性台地群と、東部の小起伏山地を含む丘陵地域とに分かれる。西部は扇状地や北上川の旧河床が段丘化したもので、和賀川等の東流する河川によって刻まれている。胆江地方は胆沢町市野々を扇頂とする扇状地に広がる。北を胆沢川、南を北股川、東を北上川に接する。北上川東岸は北上川によって形成された沖積平野と北上川支流沿岸に広がる盆地状地形からなる。

和賀・胆江の両地区ともに、製鉄遺跡は現在までの調査からは確認されてはいない。江戸時代末期、東磐井郡京津畠に開いた製鉄所が明治2年に北上山地域の江刺郡米里字古歌葉に移転し、明治18年に同郡栗木沢（後の栗木鉄山）に移転した記録がある。古歌葉については現地踏査を実施したが、明確な遺構は存在せず、現地の方からいただいた情報をもとに写真撮影をしたのみであった。周辺には赤金鉱山の坑道（試掘坑か？）や金の採掘跡など他の鉱山跡も存在する。

一方奥羽山系では、北上市和賀町仙人に明治27年仙人鉱山が操業を開始、同31年には精錬を開始した。これ以前の製鉄遺跡は確認できなかった。

近世以前で和賀・胆江地区で主に確認される製鉄関連遺跡は鍛冶、鋳物に関する遺構・遺物である。鍛冶関連遺物の最も古い事例は7世紀代まで遡ることができる。北上市猫谷地遺跡の竪穴住居跡から、少量の鉄滓が出土している。8世紀後半頃になると水沢市熊野堂遺跡の竪穴住居跡からは先端にノロが付着した羽口片が出土している。遺物の出土が極少量のことから、集落内鍛冶の可能性を考えられる。

平安時代になり胆沢城が成立すると、胆沢城内はもとより、鍛冶関連の遺物が出土する遺跡が拡大する。水沢市域で2遺跡、北上市域で9遺跡、江刺市域で7遺跡である。そのうち、工房跡と思われる遺構が見つかっているのが、水沢市の伯済寺遺跡、北上市の上鬼柳Ⅲ遺跡、同市上川岸Ⅱ遺跡である。他の遺跡からは住居跡の埋土から鉄滓や羽口、椀形滓、鉄床石等が出土するのみで、はっきりとした炉跡、工房の確認はされていない。

中世から近世では江刺市の岩谷堂城跡や水沢市の鹿野遺跡、衣川村の鍛冶屋敷跡、前沢町の田高Ⅱ遺跡などから関連遺物が出土している。江刺市寺田遺跡から南の羽田町にかけて鉄滓を探取できる地域が点在しているが、発掘調査がなされていないため時期は特定できない。水沢市史（近世下）には「口碑によると田茂山鉱山業は、江刺郡岩谷堂寺田部落松ノ木に起源し、羽黒堂村を経て田茂山村に移ったことを伝えている。」「それを始めたのは平安末期豊田館主藤原清衡で、江州から職人を呼び鑄造させたというが、それを証する資料はない。」「年代等は不明であるが、この地方に鋳物場があったことは、認めなければならない。」と記されている。

近代になると羽田町での鋳物生産が定着し、現代にまで至ることとなる。定着の礎となったのは栗木鉄山、仙人鉱山から供給される原鉄であった。

発掘調査で得られた製鉄、鍛冶関連遺物のほとんどは鉄滓で共伴遺物が少なく、時期を特定できていないのが現状である。北上市2遺跡、水沢市4遺跡、江刺市3遺跡、前沢町1遺跡を数える。鉄滓の出土量が非常に少ないと製鉄というよりも、精錬を含めた鍛冶遺構の可能性が高いであろう。

(5) 両磐地区の概要

両磐地区は岩手県の南端に位置し、秋田、宮城両県に隣接し、1市6町2村（一関市、花泉町、平泉町、大東町、藤沢町、千厩町、東山町、室根村、川崎村）で構成する。同地区は北上川中～下流域に所属し、面積は約1,319.6km²で県土の約8.6%を占める。

当地区磐井郡の製鉄関連遺跡の分布は、北上川を境にその東側（東磐井郡、北上山地）に非常に多く、西側（西磐井郡）にはほとんど見当たらない。これらの遺跡の発掘調査は、ほとんど行われていないため、その時代や内容についてほとんど分かっていないが、文献等により、その多くは仙台藩の「焗屋」・製鉄の操業地跡と見られている。藤沢町大籠は、隣の宮城県本吉町馬籠とともにこの地方における「焗屋」・製鉄の始まりの地とされており、藤沢町、千厩町、大東町、室根村には多くの製鉄関連遺跡が分布する。これらの遺跡地では、鉄滓がほとんど露出した状態で堆積・散乱している所が少なくない。また、室根村では30ヶ所余りの砂鉄山（砂鉄生産地）も知られている。製鉄の原料は砂鉄であるが、その供給源は花崗岩であり、東磐井郡には前期白亜紀花崗岩類の大小の岩体が存在する。千厩町から大東町にかけて千厩岩体が、室根村に折壁岩体があり、また内野岩体、東福岩体の小岩体もある。多くの製鉄関連遺跡はこれらの岩体におよそ重なるように分布している。

これまで、磐井郡では2ヶ所で製鉄遺跡の調査が行われた。ドウメキ沢製鉄遺跡（藤沢町大籠）の発掘調査は1980年に行われた。その結果、製鉄炉地下構造の本床（内面3.3×1.6m、深さ1.0m、楕円形）とそのすぐ北側に溝5列（排水施設）が確認された。出土遺物の磁器碗の破片と寛永通宝により、江戸時代後期と報告されている。また、寺沢遺跡（花泉町老松字寺沢）の発掘調査は1997年に行われた。その結果、製鉄炉地下構造の本床（2.7×2.6m、深さ0.5m以上、方形）と石組排水路、溝3列（石組排水路から施設外へ続く1列とその両側に2列）が確認された。出土遺物の陶器片と出土炭化材の¹⁴C年代測定により、江戸時代中期と報告されている。

(6) 気仙地区の概要

1 時期

気仙地区は本県南東部に位置し、太平洋に面する大船渡市、陸前高田市と内陸に位置する住田町の2市1町からなり、合計面積は890.18km²で県土の約5.8%を占める。

気仙地区では、古代から中世にかけての製鉄関連遺跡の存在はまだ確認されていない。しかし、上閉伊地区で近年続々発見された古代の製鉄遺跡の存在を考慮すると、当地区にも中世以前に遡る時期に製鉄事業が存在した可能性は十分考えられる。また、陸前高田市高田町中和野にある貝塚の平安時代住居跡で、小鍛冶の痕跡と思われるものが確認されている。

今のところ、文献や伝承によって製鉄の存在がほぼ確実と思われるのは、江戸時代初期、17世紀前半からである。すなわち、寛永10（1633）年、幕府巡見使による大股（住田町世田米）での荒鉄吹方の視察の記録と、寛永から延宝年間（1624～1680）に中里（陸前高田市小友町）で藤原治平・治五平父子が製鉄を行ったという伝承と関連遺物の存在などが最古の例である。以後、盛衰はあったものの、江戸時代を通じ気仙地区の各地で製鉄事業が断続的に行われている。

17世紀前半、大股で始まった製鉄は、南に隣接する生出（陸前高田市矢作町）にも広まった。一方、大股・生出から離れている中里でも製鉄が行われたが、40年間操業しただけで後を絶った。17世紀後半、住田町西部の種山に当時の製鉄業先進地である馬籠（宮城県本吉郡本吉町）や大籠（岩手県東磐井郡藤沢町）などから多数の製鉄業先達が入って盛んに製鉄が行われ、生産量の急増と共に技術革新が進行し、地元への技術移転も進んだ。日頃市村（大船渡市日頃市町）ではこの時期に

製鉄業が最盛期を迎えていた。さらに、飯森山（陸前高田市矢作町の南部）や小坪山（陸前高田市横田町）でも製鉄が始まった。

18世紀前半、砂鉄資源が枯渇した日頃市の生産が衰退し、生出が、隣接する種山と並び、気仙地区製鉄業の中心地として繁栄した。なお、世田米村（住田町世田米）の製鉄地は西部の種山から東の方へ広がり、嘉（加）勞山、折壁、さらに下有庄村（住田町下有住）金沢山でも製鉄が始まった。

18世紀後半、前期から栄えていた種山、生出地区で木炭原木の枯渇が進み、気仙全体の製鉄産業が一時衰退した。一方では、生出地区の南に隣接する黒森山、小黒山、宝鏡山などで製鉄が盛んになった。また、千歳（大船渡市三陸町吉浜）や毛無森山（大船渡市立根町）など、飛び地のような場所においてもごく短期間製鉄が行われた。なお、製鉄が主要産業となっていた矢作村では、仏像や梵鐘などの铸造も盛んであった。19世紀前半、生出に仙台藩直営の宝勝山製鉄所や峠山精錬所、飯森に飯森山精錬所が設置されるとともに、生出から黒森山、宝鏡山、飯森山にかけて民間の製鉄が引き続き盛んに行われた。また、篠倉山（住田町世田米）、小松峠山（住田町上有住）などでも製鉄が行われた。19世紀後半は幕末から明治にいたる大変革期であるが、気仙地区の製鉄業にも大変動が起きている。従来の技法による製鉄が続く中、慶応元（1865）年、子飼沢（住田町世田米）に京津畑（東磐井郡大東町中川）から高炉が移築され操業を始めた。他に、実現はしなかったが、峠の沢（陸前高田市矢作町生出）に高炉建設計画があった。子飼沢高炉は移設後まもなく廃山となつたが、翌年藩直営となり、さらに明治2（1869）年、古歌葉（江刺市米里）に移築。さらに、明治18（1885）年頃種山（住田町世田米）に移動した。この年、小牧倉（住田町世田米）に別の高炉が開業した。気仙の製鉄業は、小規模で断続的なたら製鉄から、高炉による大規模で連続的な近代工業へと飛躍したのである。なお、栗木沢高炉は、大正7（1918）年に最盛期を迎えたが、大正11（1922）年、鉄価暴落を契機に休廃業に追い込まれた。

2 立地

気仙地区は、地形（水系）上大きく三分される。西側にはほぼ南流する気仙川があり、中央には南東流する盛川がある。東側には、北から南に並びいずれも東に開口する、吉浜湾、越喜来湾、綾里湾に西から流入する小河川がある。気仙川の流域は広く、地区全体の約6割を占める。残りの4割ほどの面積の半分位ずつを盛川と三陸地区の小河川の流域が占める。気仙川流域は、現在行政上、上流側約6割が住田町、下流側約4割が陸前高田市である。盛川流域と三陸地区の小河川の流域は大船渡市である。

気仙地区で現在確認されている60余ヶ所の製鉄関連遺跡の大部分は、気仙川流域にある。盛川流域には10余ヶ所、三陸地区にはわずかに2ヶ所だけである。気仙川流域では、下流側の陸前高田市に30余ヶ所余り、上流側の住田町に20余ヶ所弱と、面積比とは逆になっている。遺跡の分布状況を概観すると、地区の南西部（住田町の気仙川支流大股川流域と陸前高田市の気仙川支流矢作川流域）、北西部（住田町の気仙川支流新切川流域）、中心から東に寄った部分（盛川上流部）の3ヶ所に集中している。

遺跡の集中・偏在の要因として、木炭原木山林と鉄資源の2つがある。気仙地区は、豊かな山林に加え、かなり広範囲にわたって石灰岩と並び花崗岩層が分布しており、鉄資源にも恵まれている。だが、鉄資源（主として砂鉄）は、埋蔵量の多寡と輸送距離に加え、いわゆる公害問題の有無が利用の可否を決めた。気仙地区南西部の種山から原台山にかけて広がる奥深い山林一帯は、隣接する内野（東磐井郡大東町大原）の砂鉄資源と結びついて、気仙地区の製鉄業の中心地帯として、江戸

時代全般にわたって繁栄した。内野の砂鉄は風化花崗岩の残留砂鉄鉱床から採取されていたが、埋蔵量は膨大で、16世紀後半から19世紀後半まで、岩手県南部から宮城県北部にかけて供給され続けていた。盛川上流部は、元禄期に27ヶ所の鉄山が繁栄していたとされるが、ここでは現地の砂鉄に加え、三陸地区大窪山産の砂鉄を使用している。しかし砂鉄資源が枯渇したため18世紀に入ると衰退した。気仙川上流部（住田町下有住）の製鉄は、現地の荒川山産砂鉄を使用していたが、河川に濁水が流入するため江戸時代からしばしば紛争の種になつておる、明治、大正期にも大騒動が起つてゐる。このほかに、小坪沢（陸前高田市横田町、17世紀末頃）と吉ヶ沢（同前、18世紀前半）の砂鉄も短期であったが利用された。また、大船渡市日頃市町坂本沢、住田町世田米合地沢、陸前高田市矢作町生出仏地野沢、陸前高田市矢作町飯森磯積沢では、鉄鉱石の使用の伝承や岩片が残されている。

砂鉄原料产地から製鉄炉までの距離についてみると、内野からは10km内外の範囲に種山（大股）から、生出、黒森、飯森などが入る。荒川山の場合は、5km圏内に下有住の製鉄炉がほぼ入る。大窪山では、10km少々の中に日頃市の製鉄炉群が収まる。

製鉄遺跡の多くは、河川の傍らに立地している。沢の合流点に多く見られるが、製鉄用水の確保と交通の便から当然の選択である。しかし、中には、山奥深すぎたり、沢から離れた、悪条件の場所を選んでいる例も数ヵ所ある。このような遺跡には密鉄、密銭の伝承を伴うことがある。

（7）上閉伊地区の概要

上閉伊地区は釜石市、遠野市、大槌町、宮守村の2市1町1村で構成され、総面積は1,467km²で県土の約9.6%を占めている。この地区はほぼ中央に遠野・栗橋岩体、下閉伊方面から延びて海岸部を占める田野畑・宮古岩体、そして五葉山の岩体などと帶磁率の非常に高い北上山地の白亜紀花崗岩が露出していて、かつそれらは風化が進んだならかな山容を呈していることが多い。

岩手県内、特に南部の古代から近世までの製鉄産業は、主としてこの風化花崗岩帯のなかや、そこから流下して堆積した河川や海浜の砂鉄（マサ）堆積層をめぐっておこなわれてきたと考えられる。たとえば釜石市の和山高原から大槌町の新山高原にかけて、「七カ山」と呼ばれる規模の大きな製鉄遺跡が存在するとされ、それらの幾箇所かについては、いま確認・特定されつつある。

一方、釜石市の大橋・栗橋一帯にかけては、富溢な磁鐵鉱床が存在して、それはあるいは露頭となり、あるいは餅鉄（べえでつ）となって渓間に漂積した。これらいわゆる岩鉄についても、初めは旧式の製鉄炉（たたら）を用いて製錬しようとしたという。

以上のような、当地方に継続して培われてきた製鉄技術と、富溢な資源とが、やがて釜石における高炉製鉄の確立、いわば近代日本の産業基盤をなすことになったと理解されている。

県内の製鉄遺跡の発掘をともなった調査は、まず昭和27（1952）年に大槌町櫛沢遺跡でおこなわれていた。奥羽史料調査部（東北大学伊東信雄教授）によるもので、製鉄炉は三分の一ほどが遺存しており、祝部（須恵器）・土師器を伴つて、奈良から平安初期頃のものであると、岩手日報紙には掲載されていた。（調査報告書は刊行されていない）。

次いでその3年後には、同町史談会が門脇沢遺跡を調査していた。

その後、夏本（1987大槌町）・沢田Ⅱ（2000釜石市）・川原（2002同）・室浜（2002、3同）など各遺跡調査において鉄生産関連遺構が相次いで検出されるなど、調査例は急速に増加しつつある。

一方、近世末から近代初頭にかけて、鉄鉱石を原料とし溶鉱炉（高炉）を用いるようになっていった、いわゆる近代製鉄業への転換期の遺跡群については、板橋源氏によって釜石市の橋野高炉跡（そ

の後国史跡に指定）が昭和31（1956）年に、栗林高炉跡（錢座跡）が同34年に調査され、遠野市の佐比内高炉跡は岡田広吉氏によって同57、58年に調査されている。

今回の調査では、沿岸部の釜石市・大槌町において、遺跡確認数の増加が顕著であった。この地域では、今後も各種調査のなかで、あるいは「開発」行為のなかでも、遺跡数はさらに増加していくことが確実と思われる。

他方遠野市については、旧調査資料がなかったわけではなく、それらに依拠しつつ相当なヒヤリング・踏査をおこなった。しかし規模の大きな「上の山」、中程度と思われる「張山」のほかには2～3箇所の遺跡を確認できたに過ぎなかった。この地域の鉄需要は、前記の「七カ山」や盛行する沿岸部の鉄生産・加工産業に、伝統的に依存してきたというのであろうか。今後の調査に期待したい。

宮守村については、鉄滓散布地（内東木崎付近）のことが伝えられており、また大正7（1918）年の岩手製鉄株式会社創立のことなどもありながら、今回調査の及ばなかったことは、遺憾なことであった。

（8）下閉伊地区の概要

下閉伊地区は岩手県沿岸の中央部に位置し、北から田野畠村、岩泉町、田老町、宮古市、新里村、川井村、山田町の7市町村からなり、総面積が約2,400km²にもおよび、岩手県全体の面積の約15%を占める。2005（平成17）年度1月末現在の下閉伊郡宮古地区における製鉄関連遺跡は548で、時代区分別の内訳は古代60・中世12・近世32・不明444であった。

立地は宮古花崗岩層と田野畠花崗岩層およびその辺縁に属す525遺跡が95.8%の高率を占め、さらに大浦花崗岩層の7遺跡、その他の地層に団塊状に分布する花崗岩の辺縁に立地する岩泉4遺跡・新里村の6遺跡を含めた花崗岩にかかる遺跡総数は542遺跡に達している。田野畠花崗岩層とその辺縁岩泉帯に立地する24遺跡はすべてが文献資料のある近世鉄山（岩泉町15・田野畠村9）であり、宮古花崗岩層の時代区分がなされた78遺跡では、古代58（宮古市43・山田15）中世12（宮古市5・山田町6・岩泉町1）近世8（宮古市4・岩泉町4）と分散する。

時代区分については確認できない444遺跡があり、遺跡分布とその性格などの考察は更なる調査の進展を待たなければならない。

区分された僅少資料から見る下閉伊郡宮古地方の動向としては、南部宮古花崗岩層に立地して古代中世の産鉄が発達し、北部田野畠花崗岩層に江戸時代中期以降の近世大規模鉄山が発達したのではないかと、一応は考えられる。

（9）九戸・二戸地区の概要

岩手県北部に位置する九戸・二戸地区は2市4町5村（九戸地区：久慈市・種市町・大野村・山形村・野田村・普代村　二戸地区：二戸市・一戸町・浄法寺町・軽米町・九戸村）で構成されている。両地区の面積は2,176.972km²で県土の約14.2%を占めている。

製鉄関連遺跡は九戸地区及び軽米町に多く分布しており、軽米町教育委員会による分布調査（1996～2000年）において48ヶ所、田村栄一郎氏の調査（1986年）によると、種市町15・大野村41・山形村51・久慈市42・野田村7・普代村10の166ヶ所になっている。そして特に軽米町、山形村、大野村の境界付近に遺跡が集中している。これらの製鉄関連遺跡は製鉄遺跡と鍛冶遺跡、鋳物鍛冶遺跡と分けられるが、なかでも製鉄遺跡は他の遺跡に比べて規模が大きく、大量の鉄滓や炉壁

が残されている。

八戸藩政期に「大野六カ鉄山」として知られる玉川鉄山（軽米町）、葛巻鉄山（軽米町）、大谷鉄山（種市町）、水沢鉄山（大野村）、金取鉄山（山形村）、滝山鉄山（久慈市）は、八戸藩内鉄山経営の核であった大野村を中心とするこの地域に存在していた。

この地域は山林が広がり燃料となる木炭生産に適した場所であり、また洪積世の段丘砂鉄（山砂鉄）が豊富に埋蔵されている。また鉄山経営に関しては「砂鉄七里に木炭三里」と言われているとおり、基本的にこれら原料が確保できる場所に立地していることが分かる。

つぎに九戸・二戸地区製鉄関連遺跡の発掘調査状況であるが、二戸地区では、一戸町の大平遺跡（1994年）発掘調査で、平安時代の半地下式堅型炉が検出されている。

軽米町の近世たら製鉄跡玉川鉄山（1985～1991年）と梅の木沢遺跡（2001～2003年）の発掘調査では、高殿、製鉄炉、排滓場、湯溜跡等が確認されている。

なお検出された製鉄炉は、木炭充填のみで小船に相当するものを持たない地下構造となっている。

また同町駒板遺跡の発掘調査（1982～1983年）では鋳銭場跡と炭窯28基が検出され、近世の密銭鋳造遺跡であったことが確認されている。

九戸地区では、久慈市の大芦I遺跡の発掘調査（1997年）で近世の鍛冶炉が3基検出されており、また山形村の猪瀬鉄山の試掘調査（1990年）では、明治初期の水車フイゴを使用した製鉄炉が確認されている。

遺跡表凡例

12頁以下の表に記載された遺跡については、第1図で大体の位置を確認し、第2図以下で遺跡の位置（ドットは地点を示し、範囲を表すものではない）を確認していただきたい。また、今回の調査で遺跡の位置や状況の詳細を確認できず、再度調査を必要とするものについては、第10表のとおりで、図中では番号丸印いで区別している。なお、43～59頁に記載した遺跡の概要については以下のとおりである。

- No. ; 今回調査を行った岩手県内製鉄関連遺跡の通し番号。第1～10表の番号と同じ。
- 遺 跡 名；岩手県遺跡基本台帳に登録されている遺跡名。遺跡名の次にある()内はよみがな。
- 遺 跡 コ ード；岩手県遺跡基本台帳に登録されているコード名。〔 〕内に記載。
- 遺 跡 位 置；岩手県遺跡情報検索システムにおける位置情報。< >内に記載。
- 別 称；遺跡名としたもの以外の呼び方。
- 所 在 地；遺跡の所在する市町村字名地番等。市町村名は平成17年4月現在の名称によるものである。
- 図 幅；国土地理院発行1/25000地形図番号。
- 標 高；遺跡範囲における海拔高度。
- 立 地 ・ 目 印；河川、沢などを中心とした立地条件。目的地点までのルート・標識など。
- 時 期；製鉄関連の遺構・遺物の時期。
- 残 存 状 況；良好、一部破壊、壊滅に区分して記載。
- 遺 構；過去の調査および今回の調査で確認された遺構を記載。
- 遺 物；過去の調査および今回の調査で確認された遺物を記載。
- 文 献；関連文献を、巻末の文献一覧表の番号で記載。
- 備 考；他の欄に入れられなかつたことで、特筆すべき事項を記載。

第1表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(1)

| No | 遺跡名 | よみがな | 県道跡コード・位置コード() | 所 在 地 | 新市町村名 | 現 態 | 時 代 | 遺構・遺物 | 新規・周知の区別 |
|----|-------------|-------------------|------------------------|----------------------------|-------|--------|------------|-------------------|--------------------|
| 1 | 西巣鉄山 | にしだけてつざん | (JE68-0293) | 二戸郡一戸町小巣下田子ぬかり沢 | 変更なし | 原野、道路 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 2 | 淨法寺山内銳座(付近) | じょうほうじきんないせにざ | (JE44-1376) | 二戸郡淨法寺町大清水湯沢 | 二戸市 | 原野、水田 | 近世 | 排滓場、鉄滓、羽口片、炉壁 | 新規 |
| 3 | 平庭鉄山 | ひらにわてつざん | (JP74-1169) | 岩手郡葛巻町江刈1地割 江刈川 | 変更なし | 山林 | 近世 | 排滓場、整地面、鉄滓、炉壁 | 新規 |
| 4 | レンタイ鉄山 | れんたいてつざん | (JF94-0169) | 岩手郡葛巻町押田内レンタイ | # | 荒地、原野 | 近世 | 鉄滓、炉跡 | 新規 |
| 5 | 罪石跡越場 | しずくいしいせんば | (LE61-1374) | 岩手郡罪石町南组レン瀬上流 | # | 一部道路 | 近世 | 鉄錢場跡、排滓場 | 新規 |
| 6 | 荒木田山製鉄 | あらきだやませいてつ | (JE94-1372) | 岩手郡西根町寺田字荒木田 | 八幡平市 | 山林 | 不明 | 排滓場、炉壁、鉄滓 | 新規 |
| 8 | 白山 | はくさん | LE99-2360 | 精賀郡大迫町大迫字向山根 | 花巻市 | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 9 | 田瀬湖鍛冶炉 | たせこかじろ | (MF50-1273) | 和賀郡東和町向田瀬 | # | ダム、人造湖 | 不明 | 炉跡、排滓場、鉄滓、羽口 | 新規 |
| 11 | 八木畑 | やぎはた | ME76-2003 | 北上市相去町字口ノ木27-1ほか | 変更なし | 一部新幹線 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 12 | 成沢 | なりさわ | ME74-1329 | 北上市相去町字下成沢54-1ほか | # | 一部道路 | 平安 | 羽口、炉壁 | 周知 |
| 13 | 北上南部工業団地内 | きたかみなんぶこうぎょうだんちない | ME75-1175 ME75-1278 | 北上市相去町字高前壇ほか | # | 工場 | 平安 | 槐形萍、堆場、羽口、鉄滓 | 周知 |
| 14 | 成沢Ⅱ | なりざわⅡ | ME75-1013 | 北上市相去町字中成沢26-1 | # | 住宅 | 平安 | 鉄床石 | 周知 |
| 15 | 西野 | にしの | ME76-0096 | 北上市相去町字西野12ほか | # | 一部新幹線 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 16 | 比久尼沢 | びくにさわ | ME75-1057 | 北上市相去町字比久尼沢 | # | 農業倉庫 | 平安 | 鉄滓 | 周知 |
| 17 | 森下 | もりした | ME45-0204 | 北上市飯豊町飯豊19地割 | # | 住宅 | 平安 | 羽口、鉄滓、砥石 | 周知 |
| 18 | 上鬼柳Ⅲ | かみおにやなぎⅢ | ME65-2066 | 北上市鬼柳町字上鬼柳第2地割90番地ほか | # | 一部道路 | 平安 | 羽口、鉄滓 | 周知 |
| 19 | 猫谷地古墳群 | ねこやちこふんぐん | ME65-0290 | 北上市上江釣子 | # | 一部道路 | 7世紀 | 鉄滓 | 周知 |
| 20 | 牡丹燒 | ぼたんばたけ | ME66-1222 | 北上市黒沢尻町字里分第7地割87-1ほか | # | 一部道路 | 平安 | 羽口 | 上川岸Ⅱ遺跡として過去に調査(周知) |
| 21 | 煤孫 | すすまご | ME63-2318 | 北上市煤孫5地割 | # | 一部道路 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 22 | 岩崎台地遺跡群 | いわさきだいちいせきぐん | ME65-2030 | 北上市和賀町岩崎第13地割29-1ほか | # | 一部道路 | 平安 | 羽口、槐形萍、鉄滓 | 周知 |
| 23 | 和賀仙人製鉄所 | わがせんにんせいてつしょ | (ME51-2221) | 北上市和賀町仙人2-14-1 | # | 工場 | 近代(19~20C) | 鉄滓、炉壁、耐火レンガ、レンガ | 新規 |
| 24 | 力石・菟Ⅰ | ちからいしうさぎⅠ | NE07-2273 | 江刺市愛宕字菟 | 奥州市 | 一部新幹線 | 平安 | 鉄滓、羽口 | 周知 |
| 25 | 落合Ⅰ | おちあいⅠ | NE07-1292 | 江刺市愛宕字落合 | # | 一部新幹線 | 不明 | 鉄滓、羽口 | 周知 |
| 26 | 宮地Ⅲ | みやじⅢ | NE07-1134 | 江刺市愛宕字觀音堂沖 | # | 住宅 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 27 | 宮地西 | みやじにし | NE07-1104 | 江刺市愛宕字觀音堂沖 | # | 住宅 | 平安 | 鉄滓 | 周知 |
| 28 | 宮地 | みやじ | NE07-1104 | 江刺市愛宕字觀音堂沖66 | # | 一部新幹線 | 平安 | 鉄滓 | 周知 |
| 29 | 未命名 | | (NE18-0031) | 江刺市愛宕字原石山 | # | 水田 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 30 | 力石Ⅱ | ちからいしⅡ | NE07-1134 | 江刺市愛宕字力石 | # | 一部新幹線 | 平安 | 鉄滓、羽口 | 周知 |
| 31 | 鴻ノ巣館 | こうのすだて | ME17-0215 | 江刺市愛宕字力石地内 | # | 一部新幹線 | 平安 | 鉄滓 | 周知 |
| 32 | 未命名 | | (NE17-1179) | 江刺市愛宕字二子町夕暮 | # | 水田 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 33 | 未命名 | | (NE17-0254) | 江刺市愛宕字二子町金谷 | # | 水田 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 34 | 庄岡前 | ひろおかまえ | ME96-0399 | 江刺市福澤字広岡前地内 | # | 一部道路 | 不明 | 羽口、鉄滓、鍛造鋳片 | 周知 |
| 35 | 岩谷堂城跡 | いわやどうじょうあと | ME97-2281 | 江刺市岩谷堂字細下 | # | 原野 | 中世・近世 | 地塁 | 周知 |
| 36 | 反町 | そりまち | ME16-1238 | 江刺市岩谷堂字反町 | # | 農協施設 | 平安 | 鉄滓 | 周知 |
| 37 | 寺田 | てらだ | ME97-1266 | 江刺市岩谷堂字寺田207 | # | 水田 | 近世 | 鳳、鍛型片、鉄滓、羽口 | 周知 |
| 38 | 松川下 | まつかわした | ME17-0329 | 江刺市田原字松川下 | # | 水田 | 平安 | 鉄滓 | 周知 |
| 39 | 吉原葉製鉄 | よしわらうせいいてつ | (MF91-2067) | 江刺市米里字吉原葉 | # | 山林 | 近世 | 炉壁、流出津 | 新規 |
| 40 | 重王安處道駿助 | じゅうおうおりどうさくどうえきあと | (MF01-0154) | 江刺市米里字重王堂 | # | 道路、水田 | 近代 | 軌道跡、鉄鎧石 | 新規 |
| 41 | 鍛冶屋敷跡 | かじやしきあと | ME53-0359 | 眉沢郡衣川村大字上衣川字下大森43、45、171-2 | # | 水田 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 42 | 田高Ⅲ | たこうⅢ | ME46-1375 | 眉沢郡前沢町白山字田高 | # | 一部施設 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 43 | 水ノ口 | みのくち | ME37-2033 | 眉沢郡前沢町白山字水ノ口57ほか | # | 水田 | 不明 | 羽口 | 周知 |
| 44 | 林前Ⅱ | はやしまえⅡ | ME27-2024 | 水沢市妹体町字林前地内 | # | 宅地 | 不明 | 羽口、槐形萍、鍛冶滓 | 周知 |
| 45 | 勝性 | せんしょう | ME06-1133 | 水沢市佐倉河字猪性地内 | # | 一部道路 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 46 | 中半入 | なかはんにゅう | ME15-0282 | 水沢市佐倉河字半入地内 | # | 水田 | 不明 | 鉄滓、羽口 | 周知 |
| 47 | 伯濟寺 | はくさいじ | ME06-1294 | 水沢市佐倉河字兼師堂67、68、69 | # | 宅地 | 平安 | 鉄塊、槐形鍛冶萍、鍛造鋳片、粒状萍 | 周知 |
| 48 | 施野堂 | くまのどう | ME27-0048 | 水沢市眞城字施野ノ葉47-2 | # | 住宅 | 奈良 | 羽口 | 周知 |
| 49 | 林前南館 | はやしまえみなみて | ME27-2202 | 水沢市眞城字向畠地内 | # | 道路、住宅 | 平安 | 羽口 | 周知 |

第2表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(2)

| No | 遺跡名 | よみがな | 県遺跡コード・位置コード() | 所 在 地 | 新市町村名 | 理 沈 | 時 代 | 遺 情・遺 物 | 新規、周知の区別 |
|----|-------------------|--------------|-----------------|----------------------|-------|-------------|-------|-------------------------|----------|
| 50 | 杉の堂 | すぎのどう | NE27-0100 | 水沢市神明町2-58-45ほか | 奥州市 | 道路・住宅 | 不明 | 羽口、椀形津 | 周知 |
| 51 | 鹿野 | かの | NE17-1360 | 水沢市羽田町字御山下196 | " | 一部道路 | 近世 | 熔解炉、羽口、鑄型 | 周知 |
| 52 | 末命名 | | (NE17-1285) | 水沢市羽田町字田茂山麦屋 | " | 水田 | 不明 | 鉛滓 | 新規 |
| 53 | 末命名 | | (NE17-1374) | 水沢市羽田町字羽黒堂岩脇 | " | 水田 | 不明 | 路轔 | 新規 |
| 54 | 末命名 | | (NE18-1013) | 水沢市羽田町字羽黒堂松原 | " | 水田 | 不明 | 鉛滓、鑄型 | 新規 |
| 55 | 天梅烟屋 | てんばいどうや | NF82-2315 | 東磐井郡千厩町奥王字川崎1-11 | 一関市 | 山林、原野 | 近世 | 高殿、排津場、流出津、炉壁 | 周知 |
| 56 | 愛知場鐵冶場 (鐵治屋遺跡) | かやかりばかじば | (NF82-2291) | 東磐井郡千厩町奥王字荒刈場100番地 | " | 荒地 | 近世、近代 | 荒神祭祀跡、鐵治洋 | 新規 |
| 57 | 小林ドウヤ | こばやしどうや | OF02-2280 | 東磐井郡千厩町小梨字小林 | " | 道路、水田 | | 鐵津 | 周知 |
| 58 | 又ヶ沢ドウヤ | またがさわどうやあと | OF12-1118 | 東磐井郡千厩町小梨7区又ヶ沢 | " | 山林、道路 | 近世 | 排津場、精鍊津 | 周知 |
| 59 | 尖ノ森烟屋 | とげのもりどうや | OF12-0148 | 東磐井郡千厩町小梨9区尖ノ森 | " | 山林 | 近世 | 精鍊津 | 周知 |
| 60 | 大登烟屋 | おののぼりどうや | (OF02-1108) | 東磐井郡千厩町小梨10区大登 | " | 山林 | 近世 | 高殿、排津場等、精鍊津 | 新規 |
| 61 | 折戸沢烟屋 | おっとざわどうや | (NF91-2167) | 東磐井郡千厩町千坂字上駒場折戸沢 | " | 山林、荒地 | 近世 | 排津場、整地面、祭祀路、鐵津 | 新規 |
| 62 | 闇上製鉄 | せきがみせいてつ | (NF80-2108) | 東磐井郡千厩町磐清水22区闇上 | " | 水田、道路 | 近世 | 精鍊津 | 新規 |
| 63 | 岩脇烟屋 | いわわきどうや | (NP52-1366) | 東磐井郡大東町大原字岩脇 | " | 住宅、水田 | 不明 | 鐵津、炉壁 | 新規 |
| 64 | 柳沢山烟屋 | とうさわやまとどうや | (NP52-0319) | 東磐井郡大東町大原字高森 | " | 住宅、水田 | 不明 | 鐵津、炉壁 | 新規 |
| 65 | 高森鐵治 | かたもりかじ | (NF43-2085) | 東磐井郡大東町大原字高森89番地 | " | 草地 | | 鐵治場跡? | 新規 |
| 66 | 当摩鐵治 | たいまかじ | (NF53-1174) | 東磐井郡大東町大原字当摩60番地 | " | 荒地、畑地 | 近世 | 鐵治場跡、碗形津、洞口片 | 新規 |
| 67 | 山口山焼屋I | やまぐちやまとどうやI | (NF63-1096) | 東磐井郡大東町大原字山口 | " | 山林 | 不明 | 排津場、平場、鐵津、炉壁 | 新規 |
| 68 | 山口山焼屋II | やまぐちやまとどうやII | (NF63-1085) | 東磐井郡大東町大原字山口 | " | 水田 | 不明 | 排津場、鐵津、羽口片 | 新規 |
| 69 | 霞沢烟屋 | かすみさわどうや | (NF51-2065) | 東磐井郡大東町霞沢 | " | 山林 | 不明 | 排津場、鐵津 | 新規 |
| 70 | 闇の沢烟屋 | せきのさわどうや | (NF21-0397) | 東磐井郡大東町中川字上ノ山 | " | 山林 | 不明 | 排津場、鐵津、流出津 | 新規 |
| 71 | 大林烟屋 | おおばやしどうや | (NF52-0101) | 東磐井郡大東町中川字清木 | " | 住宅、水田 | 不明 | 炉跡、排津場、鐵津 | 新規 |
| 72 | 右名沢鉄冶場 | うなぎわかじば | (OF42-2128) | 東磐井郡藤沢町大龍字右名沢 | 変更なし | 住宅、畠地、沢 | 近世 | 鐵治津、精鍊津 | 新規 |
| 73 | 沢入烟屋I | さわいりどうやI | OF42-1222 | 東磐井郡藤沢町大龍字大龍 | " | 山林 | 不明 | 排津場、石組遺構、鐵津 | 周知 |
| 74 | 沢入烟屋II | さわいりどうやII | (OF42-1211) | 東磐井郡藤沢町大龍字沢の入(沢、川梨?) | " | 原野 | 近世 | 高殿、排津場、石垣等、精鍊津 | 新規 |
| 75 | 大穴沢烟屋 | おおあなさわどうや | (OF32-2276) | 東磐井郡藤沢町大龍(大穴沢) | " | 一部道路 | 近世 | 排津場、鐵津、炉壁 | 新規 |
| 76 | 千松沢烟屋 | せんまつさわどうや | (OF42-0363) | 東磐井郡藤沢町大龍(千松沢) | " | 道路、水田 | 不明 | 排津場、鐵津、炉壁 | 新規 |
| 77 | 千松長崎焼屋 | せんまつながさきどうや | (OF42-1327) | 東磐井郡藤沢町大龍(長崎沢) | " | 荒地 | 近世 | 排津場、高殿等、鐵津、炉壁 | 新規 |
| 78 | 楓屋の沢烟屋 | どうやのさわどうや | (OF42-2212) | 東磐井郡藤沢町大龍宇左利沢 | " | 荒地、畑地 | 近世 | 精鍊津、羽口片、炉壁 | 新規 |
| 79 | 沢内烟屋 | さわうちどうや | (OF31-2319) | 東磐井郡藤沢町大龍宇沢内 | " | 道路、住宅 | 近世 | 排津場、精鍊津 | 新規 |
| 80 | クラクミ烟屋 | くらくみどうや | (OF42-1211) | 東磐井郡藤沢町大龍宇沢の入 | " | 山林 | 近世 | 精鍊津、炉壁 | 新規 |
| 81 | 天の穴烟屋 | てんのあなどうや | (OF42-0084) | 東磐井郡藤沢町大龍宇天の穴 | " | 道路、水田 | 近世 | 排津場、精鍊津 | 新規 |
| 82 | 走沢砂鉄山 | はしりぎわさてつやま | (OF03-1138) | 東磐井郡室根村 | 一関市 | 山林 | 近世 | 残礫が石壘状に残る | 新規 |
| 83 | 板取砂鉄山 | いたどりさてつやま | (OF03-0279) | 東磐井郡室根村折壁字温坪走沢 | " | | | すがね壠跡 | 新規 |
| 84 | 笠松砂鉄山 | かさまつかせてつやま | (OF03-0179) | 東磐井郡室根村折壁字笠松 | " | | | 残石を寄せた石壠? | 新規 |
| 85 | 田山砂鉄山 | たやまとさせてつやま | (OF04-1036) | 東磐井郡室根村折壁字垂森3 | " | 原野、水田、草地 | 近世 | 緩い凹凸、水路跡?、残凹穂 | 新規 |
| 86 | 荒田沢山洞屋 | あらたさわやまとどうや | (NF90-1914) | 東磐井郡室根村折壁字新組前 | " | 水田 | 近世 | 鐵津 | 新規 |
| 87 | 董根山烟屋 | むろねやまとどうや | (NF83-1332) | 東磐井郡室根村折壁字田茂木213 | " | 荒地、原野、道路、住宅 | 近世 | 池?、灰窯、木炭置場?、砂鉄流跡、流動津、炉壁 | 新規 |
| 88 | 天神下烟屋 | てんじんしたどうや | (NF93-0042) | 東磐井郡室根村折壁字天神下30番地 | " | 山林、荒地 | | 排津場、整地面、多量の鐵津 | 新規 |
| 89 | 葛ヶ森鈴鉄山 | くぞがもりさてつやま | (OF04-1012) | 東磐井郡室根村折壁字樋口 | " | 住宅、水田 | 近世 | 巨円礎 | 新規 |
| 90 | 横欠製鉄 | よこがけせいでつ | (OF04-0075) | 東磐井郡室根村折壁字樋口ノ沢 | " | 山林 | 近世 | 排津場、整地面、排津 | 新規 |
| 91 | 中里砂鉄山 | なかさときでつやま | (OF03-1358) | 東磐井郡室根村折壁字中里、笛森 | " | 山林 | 近世 | 巨円礎 | 新規 |

第3表 岩手県内製鉄遺跡一覧表（3）

| No. | 遺跡名 | よみがな | 県遺跡コード・位置コード() | 所 在 地 | 新市町村名 | 現 況 | 時 代 | 重 棒・遺 物 | 新規・周知の区別 |
|------|--------------|-----------------------|-----------------|-----------------------|-------|------------|------------|--------------------------|----------|
| 92. | 浮野製鉄 | うきのせいてつ | (MF12-2357) | 東磐井郡室根村津谷川字浮野 | 一関市 | 山林、原野 | 近代 | 排溝場、整地層、鉄滓、炉壁 | 新規 |
| 93. | 葛谷沢焼屋 | あらやざわどうや | (MF33-1059) | 東磐井郡室根村津谷川字上千代ヶ原 | " | 道路、住宅 | 近世 | 排溝場の一部、流出津、炉壁 | 新規 |
| 94. | 千代ヶ原焼屋 | ちよがはらどうや | (MF33-1069) | 東磐井郡室根村津谷川字下千代ヶ原 | " | 水田、畑地 | 近世 | 排溝場、鉄滓、炉壁 | 新規 |
| 95. | 中井沢焼屋 | なかいざわどうや | (MF33-2018) | 東磐井郡室根村津谷川字下千代ヶ原 | " | 山林 | 近世 | 整地面、流出津、炉壁 | 新規 |
| 96. | 喜木出焼屋Ⅰ | ききでどうやⅠ | (MF22-0374) | 東磐井郡室根村津谷川字竹野下 | " | 荒地、水田 | 近世 | 排溝場、鉄滓、炉壁 | 新規 |
| 97. | 喜木出焼屋Ⅱ | ききでどうやⅡ | (MF22-0385) | 東磐井郡室根村津谷川字竹野下 | " | 住宅、水田 | 近世 | 排溝場、鉄滓、炉壁 | 新規 |
| 98. | 糠沢焼屋Ⅰ | ぬかざわどうやⅠ | (MF32-0298) | 東磐井郡室根村津谷川字糠沢 | " | 原野、住宅 | 近世 | 排溝場、整地面？、鉄滓 | 新規 |
| 99. | 糠沢焼屋Ⅱ | ぬかざわどうやⅡ | (MF32-0338) | 東磐井郡室根村津谷川字糠沢 | " | 原野、住宅 | 近世 | 排溝場、鉄滓、炉壁 | 新規 |
| 100. | 後藤山焼屋 | ごとうやまどうや | (MF32-1329) | 東磐井郡室根村津谷川字平原(土上千代ヶ原) | " | 原野 | 近世 | 排溝場、整地面、鉄滓、炉壁 | 新規 |
| 101. | 白堀焼屋 | しらほりどうや | (MF02-1257) | 東磐井郡室根村矢越馬場白堀 | " | 水田 | 近世 | 流出津、鍊鉄滓 | 新規 |
| 102. | 後ノ入焼屋Ⅰ | のちのいりどうやⅠ | (MF39-2395) | 大船渡市赤崎町字後ノ入85-3 | 変更なし | 住宅 | 近世、不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 103. | 後ノ入焼屋Ⅱ | のちのいりどうやⅡ | (MF39-2354) | 大船渡市赤崎町字後ノ入 | " | 山林、道路 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 104. | 千歳焼屋 | せんざいどうや | (MF02-2384) | 大船渡市三陸町吉浜字千歳 | " | 山林 | 近世 | 平場、石垣、鉄滓 | 新規 |
| 105. | 平通焼屋 | ひらかようどうや | (MF29-0158) | 大船渡市立根町字菅中平通 | " | 荒地、住宅、塙地 | 近世 | 火箸 | 新規 |
| 106. | 大森焼屋Ⅰ | おおもりどうやⅠ | (MF27-2288) | 大船渡市日頃市町字大森 | " | 一部水田、畑地、草地 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 107. | 大森焼屋Ⅱ | おおもりどうやⅡ | (MF27-2199) | 大船渡市日頃市町字大森 | " | 原野 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 110. | 赤坂焼屋 | あかさかとうげどうや | (MF09-1176) | 大船渡市日頃市町字上甲子赤坂岬 | " | 山林 | 近世、(18C) | 鉄滓 | 新規 |
| 111. | 坂本焼屋(上坂本焼屋場) | さかもとどうや(かみさかもとどうや)(上) | (MF27-0216) | 大船渡市日頃市町字上坂本48付近 | " | 道路、住宅跡地、傾地 | 近世(17~18C) | 鉄滓 | 新規 |
| 112. | 平山焼屋 | ひらやまどうや | (MF28-1221) | 大船渡市日頃市町字平山6~4 | " | 原野、住宅、盛上地 | 近世？ | 鉄滓、トイゴ | 新規 |
| 115. | 奥火の土焼屋 | おくひのつちどうや | (MF94-0049) | 気仙郡住田町奥火の土 | " | 山林、牛舎跡 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 116. | 男瀬山焼屋 | おたきやまどうや | (MF23-1007) | 気仙郡住田町本地山瀬倉沢 | " | | | 鉄滓 | 新規 |
| 117. | 荒川砂鉄山 | あらかわきてつやま | (MF85-1156) | 気仙郡住田町下有住字奥新切 | " | 山林 | 近世、(20C) | 造鉄用石組水路敷条、造成地石垣、邊別済砂鉄の堆積 | 新規 |
| 118. | 横沢焼屋 | よこざわどうや | (MF84-2219) | 気仙郡住田町下有住字奥新切 | " | 山林 | 近世 | 凹地、平場、溝、石積、鉄滓 | 新規 |
| 119. | 金沢山焼屋 | かねざわやまどうや | (MF85-1072) | 気仙郡住田町下有住字金沢山黒森口 | " | 荒地、道路、水田 | 近世、(18C) | 鉄滓 | 新規 |
| 120. | 旭館焼屋 | まだぢどうや | (MF89-1140) | 気仙郡住田町下有住字十文字 | " | 水田 | 近世、(20C) | 鉄滓 | 新規 |
| 121. | 大鷹山焼屋 | おおたかやまどうや | (MF24-0172) | 気仙郡住田町世田米字折壁 | " | 山林、水田 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 122. | 折壁焼屋 | おりかべぎわどうや | (MF24-0172) | 気仙郡住田町世田米字折壁 | " | 住宅、畑地 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 123. | 判官山焼屋 | はんがんやまどうや | (MF24-0151) | 気仙郡住田町世田米字折壁 | " | 山林、荒地、田水田 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 124. | 合地沢焼屋 | かつちざわどうや | (MF25-2066) | 気仙郡住田町世田米字合地沢 | " | 荒地、道路 | 近世 | 鉄滓、焼鉄 | 新規 |
| 125. | 篠倉沢焼屋 | しのくらざわどうや | (MF23-0134) | 気仙郡住田町世田米字木地山 | " | 山林、道路 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 126. | 小牧倉製鉄所 | おまきぐらせいでつしょ | (MF13-0092) | 気仙郡住田町世田米字木地山小牧沢 | " | 山林 | 近世 | 炉底部が残存している | 周知 |
| 128. | 子飼沢高炉跡 | こかいざわこうろあと | (MF13-0143) | 気仙郡住田町世田米字子飼沢 | " | 住宅、水田、畜舎等 | 近世、近代 | 鉄滓、藍滓 | 周知 |
| 129. | 喜労山焼屋 | からうやまどうや | (MF94-2060) | 気仙郡住田町世田米字職堆 | " | 山林 | 近世、(18C) | 平場、木炭 | 新規 |
| 130. | 奥金口焼屋 | すがねぐちどうや | (MF94-1347) | 気仙郡住田町火の土集金口 | " | 山林、荒地、道路 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 131. | 千野沢焼屋 | せんのきわどうや | (MF22-1009) | 気仙郡住田町中川 | " | 原野 | 近世 | 排溝場、整地、流出津 | 新規 |

第4表 岩手県内製鉄遺跡一覧表（4）

| No | 遺跡名 | よみがな | 県遺跡コード・位置コード() | 所在地 | 新市町村名 | 現況 | 時代 | 遺構・遺物 | 新規・周知の区別 |
|-----|----------|---------------|-----------------|---------------------|-------|-------------|------------|---------------------|----------|
| 132 | 中里焼屋 | なかさとどうや | (NF78-2109) | 陸前高田市小友町字中里 | 変更なし | 山林 | 近世 | 鉄滓、羽口、金錐 | 新規 |
| 133 | 大祝鍛冶場 | おおいわい | NF89-1140 | 陸前高田市広田町字大祝 | " | 荒地、畠地 | 不明 | 羽口、鉄滓、炉壁？ | 周知 |
| 134 | 太陽鍛冶場 | おおようかじば | (NF78-2149) | 陸前高田市広田町字太陽 | " | 荒地 | 不明 | 木炭片 | 新規 |
| 135 | 七度釜焼屋 | しちどかまどうや | (NF65-1199) | 陸前高田市矢作町字小黒山 | " | 草地 | 近世 | 水路跡、鉄滓 | 新規 |
| 136 | 宝鏡精銅場 | ほうきょうせいこうじゅう? | (NF64-2086) | 陸前高田市矢作町字小黒山11 | " | 道路、水田 | 近世(18~19C) | 鉄滓 | 新規 |
| 137 | 職穂焼屋 | いそすみどうや | (NF65-2178) | 陸前高田市矢作町字飯森 | " | 牧草地 | 近世(17~) | 採掘跡、鉄滓 | 新規 |
| 138 | (大) 飯森焼屋 | (おお) いいもりどうや | (NF65-1192) | 陸前高田市矢作町字飯森 | " | 山林、荒地、道路 | 近世(17~19C) | 鉄滓 | 新規 |
| 139 | カタガネ鍛冶跡 | かたがねかじあと | (NF65-2055) | 陸前高田市矢作町字飯森 | " | 山林、道路 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 140 | すみより鍛冶場 | すみよりかじば | (NF65-1230) | 陸前高田市矢作町字飯森3-2 | " | 住宅、水田、畠地 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 141 | 越賀沢焼屋I | おつちよざわどうや1 | (NF34-1090) | 陸前高田市矢作町字越賀沢 | " | 山林 | 近世 | 削平地(数段)、池(凹地)？、鉄滓 | 新規 |
| 143 | 仏地野焼屋 | ぶつちのどうや | (NF54-0233) | 陸前高田市矢作町字木戸口仏地野沢 | " | 道路、水田 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 144 | 謙田焼屋 | かまたどうや | (NF53-1352) | 陸前高田市矢作町字坂下 | " | 山林、道路 | 近世(17C?) | 鉄滓 | 新規 |
| 145 | 米ノ木焼屋 | こめのきどうや | (NF53-1382) | 陸前高田市矢作町字坂下 | " | 山林、道路、旧傾地 | 近世(17C?) | 精錬滓 | 新規 |
| 146 | 坂下焼屋 | さかしたどうや | (NF64-0231) | 陸前高田市矢作町字坂下 | " | 水田 | 不明 | 鉄滓、水路跡？ | 新規 |
| 147 | 釣切焼屋 | つりきりどうや | (NF54-2054) | 陸前高田市矢作町字坂下37-75 | " | 山林、道路 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 148 | 高日向焼屋 | たかひなたどうや | (NF53-2334) | 陸前高田市矢作町字坂下57 | " | 山林、住宅、傾地 | 不明 | 鉄池、水路跡、炭層、鉄滓 | 新規 |
| 150 | 三軒鍛冶屋 | さんけんかじや | (NF54-2150) | 陸前高田市矢作町字坂下57-8 | " | 住宅、傾地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 151 | 鍛冶屋敷跡 | かじやしきあと | (NF44-0216) | 陸前高田市矢作町字清水川 | " | 水田 | 不明 | 炉壁、鉄滓 | 新規 |
| 152 | 久保木鍛冶跡 | くぼきかじあと | (NF44-0201) | 陸前高田市矢作町字清水川32 | " | 住宅、水田 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 153 | 信内鍛冶場 | のぶないかじば | (NF65-0166) | 陸前高田市矢作町字信内 | " | 水田 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 154 | 馬越鍛冶屋 | まごしかじや | (NF55-1014) | 陸前高田市矢作町字馬越24 | " | 住宅 | 近世、近代 | | 新規 |
| 155 | 峰の沢焼屋 | とうげのさわどうや | (NF34-0275) | 陸前高田市矢作町字的場 | " | 山林、道路 | 近世(19C) | 鉄滓 | 新規 |
| 156 | 的場焼屋 | まとはどうや | (NF34-2126) | 陸前高田市矢作町字的場 | " | 山林、原野、道路、水田 | 近世(17C) | 鉄滓 | 新規 |
| 157 | 金山橋鍛冶跡 | かなやまばしかじあと | (NF34-1006) | 陸前高田市矢作町字的場97 | " | 山林、荒地、道路 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 158 | 宝生(勝)山焼屋 | ほうじょうやまどうや | NF23-2329 | 陸前高田市矢作町字的場97 | " | 山林、道路 | 近世(19C) | 削平地(数段)、用水池？、鉄滓(大量) | 新規 |
| 159 | あしざ鍛冶跡 | あしざかじあと | (NF34-2149) | 陸前高田市矢作町字的場、あし沢 | " | 道路、水田 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 160 | 山崎I造跡 | やまさきかじやあと | NF65-0120 | 陸前高田市矢作町字山崎 | " | 道路、水田 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 161 | 湯濱焼継治跡 | ゆづけばたけかじあと | (NF66-0030) | 陸前高田市矢作町字湯濱焼 | " | 荒地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 163 | 吉が沢鉄山 | よしがざわさてつやま | (NF36-2109) | 陸前高田市横田町字南行 | " | 山林、荒地、原野、水田 | 不明 | 塗り跡状地形、鉄滓 | 新規 |
| 164 | 佐野焼屋 | さのどうや | (NF58-2056) | 陸前高田市米崎町字佐野 | " | 山林、水田 | 不明 | 鉄滓、石垣等 | 新規 |
| 165 | 未命名 | | (MG22-1196) | 上閉伊郡大槌町大槌泊梨付近 | " | 傾地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 166 | 門脇沢 | かどわきさわ | (MG22-0152) | 上閉伊郡大槌町大槌6地割 | " | 山林、竹林 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 168 | 三十刈 | さんじゅうかり | (MG22-2108) | 上閉伊郡大槌町大槌9地割(小哈野) | " | 傾地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 169 | 波葉の沢(飯野) | しぶなしのさわ | (MG22-1292) | 上閉伊郡大槌町大槌10地割23(波葉) | " | 山林、傾地 | 不明 | 鉄滓、羽口 | 新規 |
| 170 | 大カロ沢 | おがくろさわ | (MG22-0208) | 上閉伊郡大槌町大槌第11地割 | " | 山林、草地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 172 | ただこえ | ただこえ | (MG22-2266) | 上閉伊郡大槌町大槌第11地割 | " | 山林、草地 | 不明 | 鉄滓、羽口 | 新規 |
| 173 | 樋内 | まさない | (MG22-2217) | 上閉伊郡大槌町大槌第12地割 | " | 住宅、傾地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 174 | 向い口 | むかいくち | (MG22-2228) | 上閉伊郡大槌町大槌第12地割 | " | 工場 | 不明 | 鉄滓、羽口 | 新規 |
| 175 | 源水 | げんすい | (MG22-1338) | 上閉伊郡大槌町大槌第14地割 | " | 山林、荒地、原野 | 不明 | 鉄滓、炉壁 | 新規 |

第5表 岩手県内製鉄遺跡一覧表（5）

| No | 遺跡名 | よみがな | 県遺跡コード・位置コード() | 所 在 地 | 新市町村名 | 現 況 | 時 代 | 遺構・遺物 | 新規、周知の区別 |
|-----|-------------------|-------------|-----------------|--------------------------|-------|---------------|-------|-----------------------------|----------|
| 176 | 曲沢 | まかさわ | (MG32-1325) | 上閉伊郡大槌町大槌第14地割 | 変更なし | 山林、杉植林地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 177 | 屋敷 | やしき | (MG32-0380) | 上閉伊郡大槌町大槌第14地割 | 〃 | 荒地、原野 | 不明 | 鉄滓、炉壁、羽口 | 新規 |
| 178 | 沢山 | さわやま | MG33-0097 | 上閉伊郡大槌町大槌第24地割 | 〃 | 畑地 | 不明 | 鉄滓、羽口 | 周知 |
| 179 | 夏本 | なつもと | MG33-1008 | 上閉伊郡大槌町大槌第24地割 | 〃 | 住宅、畑地 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 180 | 瀧の沢(ワカバ沢)(オガクチの沢) | たきのさわ | LF 99-0339 | 上閉伊郡大槌町金沢第9地割 | 〃 | 原野、道路、沢、要場、小屋 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 181 | カジヤ前(仮称) | かじやまえ | (MG10-0290) | 上閉伊郡大槌町金沢第34地割48 | 〃 | 畑地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 182 | 未命名 | | (MG34-1000) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里 吉里吉里中学校東側 | 〃 | 畑地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 183 | 鎌畠・筍沢 | はこばたけ・はこがさわ | (MG23-2363) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第7地割 | 〃 | 山林、杉植林地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 184 | 向山Ⅱ | むかいやまⅡ | (MG23-2238) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第8地割 | 〃 | 畑地 | 不明 | 鉄滓、土器片 | 新規 |
| 185 | 浪板 | なみいた | (MG23-2301) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第11地割 | 〃 | 道路、住宅、畑地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 186 | 力字沼の沢 | からぬまのさわ | (MG23-0387) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割 | 〃 | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 187 | きべア洞 | きべあほら | (MG23-1306) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割 | 〃 | 山林 | 不明 | 鉄滓、炉壁 | 新規 |
| 188 | 四十八坂 | しじゅうはっさか | (MG23-1334) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割 | 〃 | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 189 | 新田の上Ⅰ | しんでんのうえⅠ | (MG23-1332) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割 | 〃 | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 190 | 新田の上Ⅱ | しんでんのうえⅡ | (MG23-1322) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割 | 〃 | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 191 | トロロ沢 | ところさわ | (MG23-1315) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割 | 〃 | 山林、植林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 192 | 未命名 | | (MG24-0060) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第12地割 | 〃 | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 193 | 松磯Ⅱ | まついそⅡ | (MG23-1327) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第13地割 | 〃 | 山林、杉植林地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 194 | 向館 | むかいだて | (MG34-0064) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第30地割 | 〃 | 山林 | 不明 | 鉄滓(炉内滓、流出滓)が周知の遺跡範囲より南側にも出土 | 周知 |
| 195 | 大塙 | おおばたけ | (MG34-0066) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第32地割 | 〃 | 畑地 | 不明 | 鉄滓、土器片 | 新規 |
| 196 | 金刀崎の浜 | かねがさきのはま | (MG34-0110) | 上閉伊郡大槌町吉里吉里第32地割 | 〃 | 山林 | | 鉄滓(及び土器の小破片1点) | 新規 |
| 197 | ソードク | そーどく | (MG21-2388) | 上閉伊郡大槌町小槌第15地割 | 〃 | 住宅、畑地 | 不明 | 鉄滓、羽口 | 新規 |
| 198 | 鬼打 | おにうち | (MG22-2090) | 上閉伊郡大槌町小槌第17地割曾根 | 〃 | 畑地 | 不明 | 鉄滓、炉壁、羽口、木炭、赤土 | 新規 |
| 199 | 山岸沢 | やまとしきわ | (MG32-0180) | 上閉伊郡大槌町小槌第18地割 | 〃 | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 200 | 高清水 | たかしづ | (MG32-1224) | 上閉伊郡大槌町小槌第21地割 | 〃 | | 不明 | 鉄滓、陶器片 | 新規 |
| 201 | 白銀Ⅱ | しろがねⅡ | (MG11-2352) | 上閉伊郡大槌町第3地割 | 〃 | 水田、山裸 | 不明 | 鉄滓、羽口 | 新規 |
| 202 | カナシキボー | かなしきぼー | (MG22-1373) | 上閉伊郡大槌町第12地割 | 〃 | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 203 | 沢山不動 | さわやまふどう | (MG33-0028) | 上閉伊郡大槌町第23地割 | 〃 | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 204 | 大梨製鉄 | おおなしせいいてつ | (MG31-2223) | 釜石市梨林町第4地割沢田 | 〃 | 山林、荒地、原野、畑地? | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 205 | 初神1 | はつがみ1 | (MF29-2144) | 釜石市橋野町第18地割 | 〃 | 荒地、原野 | 近世、不明 | 炉壁 | 周知 |
| 206 | 初神2 | はつがみ2 | (MF29-2125) | 釜石市橋野町第18地割 | 〃 | 畜舍跡 | 近世 | 炉壁と鉄滓を確認 | 周知 |
| 207 | 初神3 | はつがみ3 | (MF29-0256) | 釜石市橋野町 | 〃 | 山林、原野 | 近世 | 高殿、諸施設のある整地面、排洋場、流出津。新規 | |
| 208 | 初神4 | はつがみ4 | (MF29-2117) | 釜石市橋野町初神 | 〃 | 山林 | 近世 | 排洋場、高殿、諸施設、流出津。炉壁(碎石混入) | 新規 |
| 209 | 弁天沢1 | べんてんざわ1 | (MG40-0220) | 釜石市橋野町第42地割早瀬 | 〃 | 荒地、住宅 | | 鉄滓 | 新規 |
| 210 | 弁天沢2 | べんてんざわ2 | (MG40-0148) | 釜石市橋野町第42地割早瀬弁天沢 | 〃 | 山林、原野 | 近世 | 排洋場、高殿、諸施設、流出津。炉壁(碎石混入) | 新規 |
| 211 | 大蔵鉄山 | おおわらびてつざん | (MF49-0386) | 釜石市橋野町沢経 | 〃 | 山林、原野 | 近代 | 石垣で区画された造成地、羽口、鉄滓 | 新規 |
| 212 | 横石鉄山 | よこいしてつざん | (MF49-1342) | 釜石市橋野町沢経 | 〃 | 山林、原野 | 近代 | 石垣で土留した整地面の造成跡 | 新規 |
| 213 | 未命名 | | (MF83-1027) | 遠野市小友町23-41 | 〃 | 原野 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 215 | 岩崎 | いわさき | (MF76-0246) | 遠野市上郡相越17 | 〃 | 畑地 | 不明 | 鉄器 | 新規 |
| 216 | 毛眞 | もうせん | (MF19-2158) | 遠野市琴維(山落場沢源頭) | 〃 | 高原野菜 大根畠 | 不明 | 木炭片 | 新規 |
| 217 | 山落畠 | やまおぢば | (MF18-1340) | 遠野市琴維川上流 | 〃 | 旧放牧場 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |

第6表 岩手県内製鉄遺跡一覧表（6）

| No | 調査名 | よみがな | 県遺跡コード・位置コード() | 所 在 地 | 新市町村名 | 現 態 | 時 代 | 遺構・遺物 | 新規、周知の区別 |
|-----|--------------|------------------------|-----------------|-----------------------|-------|----------------|---------|------------------------------|-------------|
| 218 | 張山製鉄 | はりやませいてつ | (MF25-0168) | 遠野市附馬牛町張山4-1-2-13 | | 変更なし | 一部道路 | 近世？ 鉄滓、羽口片 | 新規 |
| 219 | 張山 | はりやま | (MF25-0177) | 遠野市附馬牛町上附馬牛5地割 | " | 山林、道路、水田 | 不明 | 鐵滓 | 新規 |
| 220 | 琴培鉄山(長者屋敷鉄山) | ことはたてつざん | (MF18-1342) | 遠野市土浦町琴畠牧場 | " | 原野 | 不明 | 高殿？、排滓場、鐵滓、パイゴ、羽口 | 新規 |
| 221 | 上の山製鉄 | うえのやませいいてつ | (MF34-2388) | 遠野市松崎町光興寺字上の山 | " | 原野、牧草地 | 近世 | 高殿場、鐵滓、炉壁 | 新規(横田城西側) |
| 222 | 山釜の里 | やまほたるのさと | (MF34-2732) | 遠野市松崎町光興寺8地割字新田 | " | 山林 | 不明 | 鐵滓、炉壁 | 新規 |
| 223 | 釜津田館 | かますたて | KF76-1088 | 下閉伊郡岩泉町 | " | 燃地 | 不明 | 平場、鐵滓 | 周知 |
| 224 | 川崎田 | かわさき田 | KF76-2305 | 下閉伊郡岩泉町 | " | 山林、原野、住宅、水田、燃地 | 不明 | 土坑、金環塙、鐵滓、鐵塊等遺物、金鉢石引き臼 | 周知 |
| 225 | 樺穴鉄山(松倉鉄山) | かばあなてつざん (まづくらてつざん) | (KG19-1353) | 下閉伊郡岩泉町32地割地内新田 | " | 荒地、道路 | 近世 | 未確認 | 新規 |
| 226 | 大島Ⅱ | おおとりⅡ | KF17-0064 | 下閉伊郡岩泉町安家折壁 | " | 燃地 | 不明 | 鐵滓、羽口 | 周知 |
| 227 | 半城市製鉄 | はんじょうし | (JP99-0248) | 下閉伊郡岩泉町安家茂井(半城子) | " | 山林、原野 | 不明 | 排滓場、炉壁、流出萍、流動萍 | 新規 |
| 228 | 大畑 | おおはた | LF77-0185 | 下閉伊郡川井村江繁7大畑 | " | 道路、住宅、水田、燃地 | 不明 | なし | 周知 |
| 229 | 荒田 | あらた | (LF88-1181) | 下閉伊郡川井村小国6荒田 | " | 荒地、住宅 | 近世、近代 | パイゴ | 新規 |
| 231 | 池名鉄山 | いけなてつざん | (KG12-0248) | 下閉伊郡田野畠村明戸375 | " | 原野、住宅 | 近世 | 高殿、排滓場等、流出萍、炉壁、樹形鍛冶萍、羽口 | 新規 |
| 232 | 明戸鉄山 | あけどてつざん | (KG12-1247) | 下閉伊郡田野畠村明戸湯草沢 | " | 山林 | 近世 | 高殿、排滓場等、流出萍、炉壁、樹形鍛冶萍 | 新規 |
| 233 | 板橋鉄山 | いたばしてつざん | (KG22-2043) | 下閉伊郡田野畠村板橋 | " | 山林 | 近世 | 高殿、排滓場、工房建物等、流動萍、炉壁 | 新規 |
| 234 | 尾肝要鉄山 | おかんようてつざん | (KG11-2276) | 下閉伊郡田野畠村尾肝要38 | " | 山林、原野、放牧地 | 不明 | 流動萍、大型範形澤ほか | 新規 |
| 235 | 万谷鉄山 | まんやてつざん | (KG20-1217) | 下閉伊郡田野畠村甲地蛭夷森 | " | 山林 | 近世 | 高殿、排滓場、大鍛冶等、流出萍、炉壁、碗形澤、甌土、木炭 | 新規 |
| 236 | 田代製鉄 | たしろせいいてつ | (KG10-1378) | 下閉伊郡田野畠村田代 | " | 原野、神社参道 | 近世 | 高殿？、排滓場？、流出萍 | 新規 |
| 237 | 田代鉄山 | たしろてつざん | (KG10-2290) | 下閉伊郡田野畠村田代 | " | 山林、原野 | 近世 | 高殿、排滓場等、流出萍、流動萍、樹形澤、炉壁 | 新規 |
| 238 | 田代山乃神製鉄 | たしろや生のかみせいてつ | (KG10-2340) | 下閉伊郡田野畠村田代 | " | 荒地 | 近世 | 鐵滓 | 新規 |
| 239 | 田山鉄山 | たやまでつざん | (KG41-0388) | 下閉伊郡田野畠村田野畠目名 | " | 山林、荒地、原野 | 近世 | 排滓場、高殿、鐵冶場、炉壁、流出萍、鐵治萍 | 新規 |
| 240 | 目名鉄山 | めなでつざん | (KG42-1065) | 下閉伊郡田野畠村田野畠目名 | " | 山林、牧草地 | 近世 | 排滓場、高殿等、炉壁、流出萍、鐵治萍 | 新規 |
| 241 | 鉄山 | てつざん | KG31-1391 | 下閉伊郡田野畠村七瀬234 | " | 山林、荒地、燃地 | 近世 | 高殿、排滓場、炉壁、流出萍、流動萍、鐵治萍 | 周知 |
| 242 | 千丈・蛭松間製鉄 | せんじょう・ひめまつかんせいいてつ | (KG21-1282) | 下閉伊郡田野畠村沼袋 | " | 山林、原野 | 近世 | 流出萍 | 新規 |
| 243 | 千丈(布掛)製鉄 | せんじょう(ぬのかけ)せいいてつ | (KG31-0122) | 下閉伊郡田野畠村(千丈布掛)沼袋1の107 | " | 荒地 | 近世 | 鐵滓 | 新規 |
| 244 | 鷹沢鉄山 | くまきわてつざん | (KG02-2094) | 下閉伊郡田野畠村苗袋集会 | " | 山林、原野 | 近世 | 排滓場、高殿、平場、炉壁、流出萍、鐵治萍 | 新規 |
| 245 | 三沢鉄山 | みさわてつざん | (KG30-0279) | 下閉伊郡田野畠村沼袋三沢 | " | 山林、原野、道路 | 近世 | 排滓場、高殿等、鐵物跡、工房、流出萍、炉壁、碗形澤 | 新規 |
| 246 | 古谷元鉄山 | こやもとてつざん | (KG31-0091) | 下閉伊郡田野畠村三沢星元武 | " | 山林、原野 | 近世 | 高殿等、炉壁、流出萍、鐵治萍 | 新規 |
| 247 | 室場製鉄 | むろばせいいてつ | KG31-2153 | 下閉伊郡田野畠村室場 | " | 山林、原野 | 近世 | 排滓場、整地、流出萍、炉壁 | 周知 |
| 248 | 中室場鉄山 | なかむろばてつざん | (KG31-1290) | 下閉伊郡田野畠村室場5(中室場) | " | 道路、住宅 | 近世 | 高殿、排滓場等、流出萍、大形碗形澤、炉壁 | 新規・中室場遺跡推定地 |
| 249 | 節森 | たてもり | KG92-2162 | 下閉伊郡田老町大字末前第1地割字七瀬 | 宮古市 | 山林 | 不明 | 鐵物跡(鉄、錫鉱)、なし | 周知 |
| 250 | 末前保土場 | すえまえほどば | (KG33-0190) | 下閉伊郡田老町大字末前第6地割字末前 | " | 山林 | 近世(18C) | 高殿跡と思われる平場、鐵滓 | 新規 |
| 252 | 水沢1 | みずさわ1 | KG74-0260 | 下閉伊郡田老町損持第2地割水沢 | " | 住宅、燃地 | 不明 | 鐵滓 | 周知 |
| 253 | 神田北 | かんだきた | KG93-2331 | 下閉伊郡田老町第18地割字額ヶ森 | " | 山林、住宅、燃地、神社 | 不明 | 神社境内、鐵滓 | 周知 |
| 254 | 後ヶ沢 | うしろがさわ | (LG30-0089) | 下閉伊郡新里村刈屋15手打ヶ沢 | " | 住宅、燃地 | 近世 | 堆積跡、鐵塊等遺物 | 新規 |
| 255 | 下刈屋A・B | しもかりやエーピー | LG30-0091 | 下閉伊郡新里村刈屋15手打ヶ沢 | " | 住宅、燃地 | 不明 | 鐵滓 | 周知 |

第7表 岩手県内製鉄遺跡一覧表（7）

| No | 遺跡名 | よみがな | 緊急コード・位置コード() | 所 在 地 | 新市町村名 | 現 態 | 時 代 | 遺構・遺物 | 新規・周知の区別 |
|-----|---------------|-------------------|----------------|---------------------|-------|----------------|-----|--------------------------|----------|
| 256 | 水神頭 | すいじんがしら | (LG30-0180) | 下閉伊郡新里村刈屋15打手ヶ瀬 | 宮古市 | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓 | 新規 |
| 257 | 刈屋荒田 | かりやあらだ | LF29-1128 | 下閉伊郡新里村刈屋荒田 | * | 山林、道路、住宅、水田 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 258 | 北山学沢 | きたやまいもざわ | (LG20-1022) | 下閉伊郡新里村刈屋北山 | * | 山林、住宅、水田、畑地 | 不明 | 鉄滓、羽口、縄文土器 | 新規 |
| 259 | 刈屋中里 | かりやなかさと | LF29-1137 | 下閉伊郡新里村刈屋中里 | * | 道路、住宅、水田、畑地 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 260 | 刈屋中里Ⅱ | かりやなかさとⅡ | LF29-1116 | 下閉伊郡新里村刈屋中里 | * | 道路、住宅、畑地、神社 | 不明 | 神社境内(平場)、鉄滓、縄文土器 | 周知 |
| 261 | 和井内平沢 | わいないひらきわ | (LF19-2085) | 下閉伊郡新里村和井内平沢 | * | 荒地、住宅、水田、畑地 | 不明 | カナホッパと呼ばれる環込、鉄滓、縄文土器 | 新規 |
| 262 | 穂夷森 | えぞもり | JG91-1071 | 下閉伊郡普代村第26地割字北の森 | 変更なし | 山林 | 不明 | | 周知 |
| 263 | オニガタ製鉄 | おにがたせいてつ | (JG91-2024) | 下閉伊郡普代村第27地割字茂市 | * | 原野、牧草地 | 近世 | 高殿？、流出溝、炉堀 | 新規 |
| 265 | 萩生瀬の沢鉄山 | はぎゅうたきのさわ | (KG00-2345) | 下閉伊郡普代村第30地割字萩生 | * | 山林、原野 | 近世 | 高殿、排溝場等、流出溝、炉堀、鐵滓 | 新規 |
| 267 | 割沢砂鉄掘場跡 | わりさわきてつぼりばあと | (KG01-2105) | 下閉伊郡普代村第30地割字萩生(朝沢) | * | 原野 | 近世 | 砂鉄採掘跡 | 新規 |
| 268 | 未命名 | | (KG01-2113) | 下閉伊郡普代村第30地割字萩牛(朝沢) | * | 山林 | 不明 | | 新規 |
| 269 | 鳥居越山(取居製鉄) | とりいでつざん(とりいせいてつ) | (JG91-1399) | 下閉伊郡普代村不仔道鳥居第24地割 | * | 荒地、原野 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 270 | 羽々の下 | はばのした | LG63-2131 | 下閉伊郡山田町石崎 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓 | 周知 |
| 271 | 鶴Ⅱ | つなぎⅡ | (LG64-2080) | 下閉伊郡山田町豊岡根1鶴 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓 | 新規 |
| 272 | 島田Ⅳ | しまだⅣ | (LG73-0331) | 下閉伊郡山田町豊岡根4島田 | * | 住宅 | 不明 | 平場、鉄滓 | 新規 |
| 273 | 赤前長沢 | あかまえたつざわ | (LG54-1049) | 宮古市赤前 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓(鉄塊系遺物)、羽口 | 新規 |
| 274 | 箱石Ⅱ | はこいしⅡ | LG13-1175 | 宮古市崎山8石釜 | * | 住宅、畠地 | 不明 | 羽口片 | 周知 |
| 275 | 箱石Ⅲ | はこいしⅢ | LG13-1194 | 宮古市崎山7裏塙 | * | 住宅、畠地 | 不明 | 平場、鉄滓 | 周知 |
| 276 | 白石Ⅳ | うすきⅣ | LG12-1207 | 宮古市田代第4地割田端 | * | 畠地 | 不明 | 平場、鉄滓 | 周知 |
| 277 | 馬場Ⅰ | ばんばⅠ | LG12-0119 | 宮古市田代第8地割君田角地 | * | 水田、畠地 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 278 | 黒治ヶ崎 | くろじがさわ | LG02-2169 | 宮古市田代第15地割大渡 | * | 山林、原野、住宅、水田、畠地 | 不明 | 平場 | 周知 |
| 279 | 吾妻Ⅰ | あづまⅠ | LG03-2034 | 宮古市田代第17地割吾妻 | * | 住宅 | 不明 | 山麓の平場 | 周知 |
| 280 | 田代館 | たしろたて | LG03-2039 | 宮古市田代第18地割植 | * | 山林 | 不明 | 中世城館の主郭、鉄滓 | 周知 |
| 281 | 佐羽根 | さばね | LG03-1275 | 宮古市田代第20地割18 | * | 道路、住宅、水田 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 282 | 弘川上流 | はらいがわじょうりゅう | (LG03-0111) | 宮古市津軽石 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓1片 | 新規 |
| 283 | 弘川中流 | はらいがわちゅうりゅう | (LG03-0116) | 宮古市津軽石 | * | 山林 | 不明 | 橢円状平場、鉄滓 | 新規 |
| 284 | 藤畠 | ふじばたけ | LG53-2346 | 宮古市津軽石第12地割藤畠 | * | 原野、道路、住宅、畠地 | 不明 | 鉄滓、土師器 | 周知 |
| 285 | 原野沢石崎 | おおぎのさわいしづき | (LG53-1209) | 宮古市津軽石第13地割大河川 | * | 山林 | 不明 | コータス状の盆地か？ | 新規 |
| 286 | 荷竹日影Ⅰ | にちくひかけⅠ | LG63-0272 | 宮古市津軽石第15地割荷竹日影 | * | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 287 | 荷竹日影Ⅱ(荷竹鍛冶ヶ崎) | にちくひかけⅡ(にちくかじがさき) | LG63-0280 | 宮古市津軽石第15地割荷竹日影 | * | 山林 | 不明 | 木炭層、鉄滓(流動層)、羽口、土器(須恵器か？) | 周知 |
| 288 | 荷竹オミナシ | にちくおみやさわ | (LG63-0136) | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向 | * | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 289 | 荷竹オミナシⅠ | にちくおみやさわⅠ | (LG63-0145) | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓 | 新規 |
| 290 | 荷竹米山Ⅰ | にちくよねやまⅠ | LG63-0190 | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山 | * | 山林 | 不明 | 住宅跡、炉跡、羽口？鉄滓？須恵器 | 周知 |
| 291 | 荷竹米山Ⅱ | にちくよねやまⅡ | LG63-0086 | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓 | 周知 |
| 292 | 荷竹米山Ⅴ | にちくよねやまⅤ | LG63-0054 | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓 | 周知 |
| 293 | 荷竹米山団 | にちくよねやま団 | (LG63-0093) | 宮古市津軽石第16地割 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓 | 新規 |
| 294 | 荷竹米山北尾根 | にちくよねやまとまたおね | (LG63-0018) | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山 | * | 山林 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 295 | 荷竹日向里 | にちくになたり | LG63-0157 | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓 | 周知 |
| 296 | 荷竹日向V | にちくひなたV | LG63-0174 | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向 | * | 畠地 | 不明 | 鉄滓 | 周知 |
| 297 | 根井沢日影Ⅰ | ねいさわひかけⅠ | LG53-2148 | 宮古市津軽石根井沢日影 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓(1片のみ) | 周知 |

第8表 岩手県内製鉄遺跡一覧表(8)

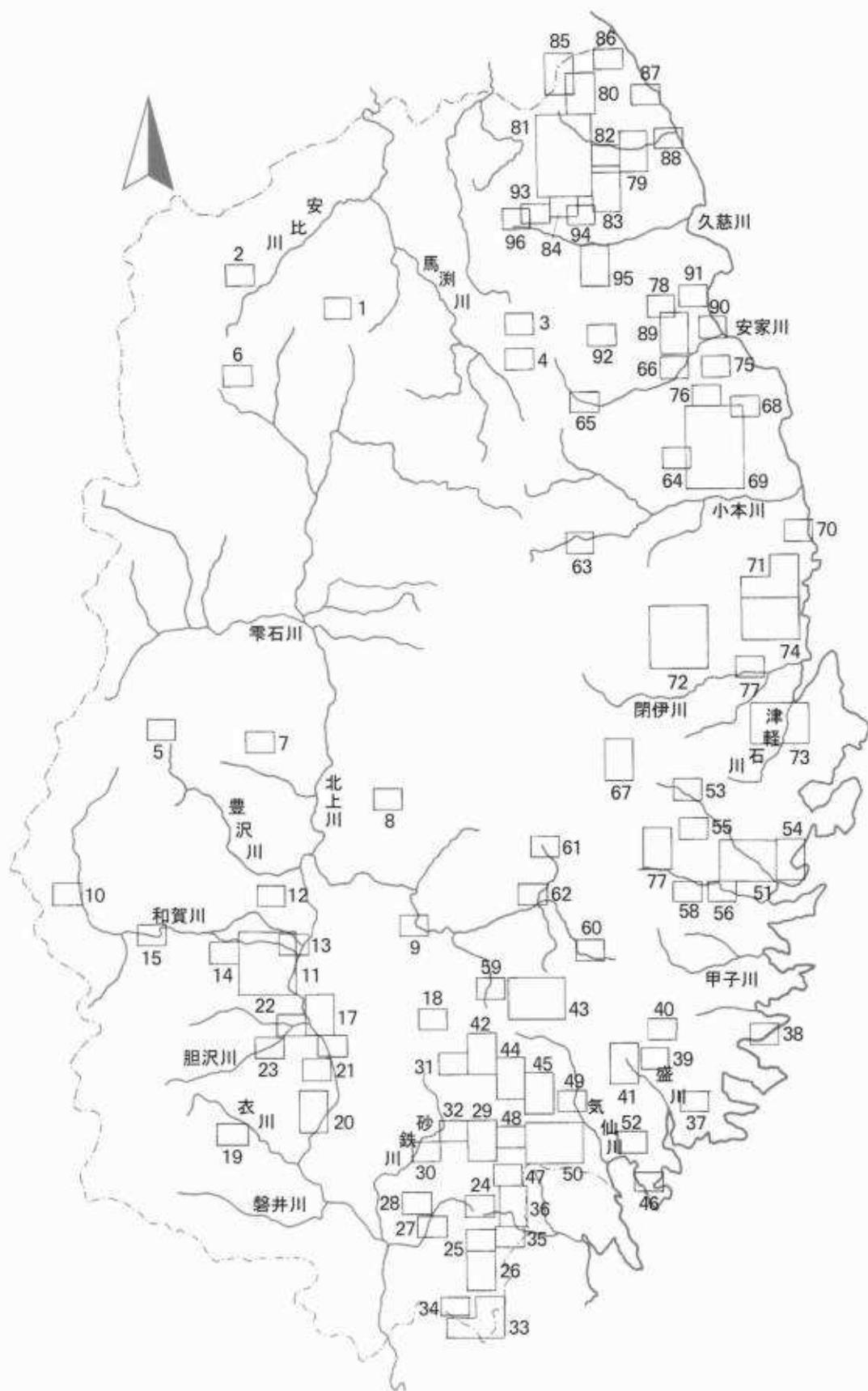
| No | 遺跡名 | よみがな | 県遺跡コード・位置コード() | 所 在 地 | 新市町村名 | 現 況 | 時 代 | 遺構・遺物 | 新規、周知の区別 | |
|-----|-----------------|-----------------------|-----------------|-----------------------------|--------|----------|-------|---|----------|----|
| 298 | 松川Ⅲ | はらいがわⅢ | LG63-0290 | 宮古市津軽石松川 | | 変更なし | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓 | 周知 |
| 299 | 根市寺沢Ⅰ | ねいちでらさわⅠ | LG32-1234 | 宮古市根市6寺沢 | * | 住宅 | 不明 | 大森康男氏旧宅を含む 壇状平場 | 周知 | |
| 300 | 根市寺沢Ⅱ | ねいちでらさわⅡ | LG32-1235 | 宮古市根市6寺沢 | * | 住宅 | 不明 | 古形狀平場 | 周知 | |
| 301 | 与藤沢 | よとうさわ | (LG32-0276) | 宮古市根市8与藤沢 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓、羽白出土 伝承 | 新規 | |
| 303 | 根城館 | ねじょうたて | LG32-2029 | 宮古市老木19根成 | * | 山林 | 不明 | 中世城館、鉄滓 | 周知 | |
| 304 | 大坡鉄山 | おおひらきてつざん | JF69-1029 | 久慈市宇都町小倉 | * | 山林 | 近世 | 炉壁、流出津 | 周知 | |
| 305 | ナメリ鉄山 | なめりでつざん | (JF69-0256) | 久慈市宇都町馬寄(ナメリダム上流) | * | 原野 | 不明 | 鉄滓 | 新規 | |
| 306 | 柏木畑製鉄 | かしわぎはたせいてつ | (IF96-0294) | 九戸郡大野村 | 九戸郡洋野町 | 山林、荒地 | 不明 | 炉壁片、鉄滓(流动津) | 新規 | |
| 308 | 阿子木鉄山 | あこぎでつざん | (JF09-0055) | 九戸郡大野村大字阿子木 | * | 山林、原野 | 近世 | 排滓場、数基のマウン ド状造構、平場など、 炉壁(鉢石入)、流出津 | 新規 | |
| 309 | 大野川鉄山 | おおのがわでつざん | (JF06-1245) | 九戸郡大野村大字大野字大野川 | * | 山林、荒地 | 近世 | 鉄滓 | 新規 | |
| 310 | 菖蒲沢鉄山 | しょうぶさわでつざん | (JF06-1325) | 九戸郡大野村大字大野字菖蒲沢 | * | 山林、原野 | 近世 | 高殿、排滓場、平場、 流出津、炉壁 | 新規 | |
| 311 | モロッ波沢 | もろっぽさわ | (IF96-2234) | 九戸郡大野村大字大野字横岸沢 | * | 荒地、水田 | 不明 | 鉄滓 | 新規 | |
| 312 | 横岸沢鉄山 | よこぎしさわでつざん | (JF06-0354) | 九戸郡大野村大字大野字横岸沢 | * | 山林 | 近世 | 鉄滓 | 新規 | |
| 313 | 横岸沢珪石採 掘場跡 | よこぎしさわけいせ きさいくつばあと | (JF06-0364) | 九戸郡大野村大字大野第1地割 (土山沢) | * | 山林 | 近世 | 平場、珪石 | 新規 | |
| 314 | テレビン製鉄 | てれびんせいてつ | (IF96-2174) | 九戸郡大野村大字大野第3地割 (餘田?) | * | 山林、原野 | 近世 | 平場、波動津、炉壁 | 新規 | |
| 315 | 治兵衛鉄山 | じへいでつざん | (IF96-1047) | 九戸郡大野村大字大野第10地割 (内沢) | * | 山林、道路 | 近世 | 平場、鉄滓、炉壁 | 新規 | |
| 317 | 蛇石山砂鉄採 掘跡 | じやいしやまさでつ きいくつあと | (IF76-1358) | 九戸郡大野村大字大野第26地割 (蛇石山事業区) | * | 山林 | 近世 | 砂鉄採掘跡 | 新規 | |
| 318 | 菅原製鉄 | すげやちせいてつ | (IF88-2210) | 九戸郡大野村大字大野第53地割 | * | 山林、原野 | 近世 | 高殿、排滓場、炉壁、 流动津 | 新規 | |
| 319 | 青峰鉄山 | あねざでつざん | (JF97-1324) | 九戸郡大野村大字大野第56地割上 間沢 | * | 畠地、牧草 | 近世 | 鉄滓 | 新規 | |
| 320 | 高森鉄山 | たかもりでつざん | (JF07-0142) | 九戸郡大野村大字大野第57地割 | * | 山林 | 近世 | 高殿、排滓場等、炉壁、 流出津 | 新規 | |
| 321 | 金ヶ沢鉄山 | かながさわでつざん | (JF97-2138) | 九戸郡大野村大字大野第58地割 | * | 工場 | 近世 | 鉄滓 | 新規 | |
| 322 | 上の山鉄山 | かみのやまでつざん | (IF17-0228) | 九戸郡大野村大字水沢字下水沢 | * | 山林 | 不明 | 平場、鉄滓、炉壁 | 新規 | |
| 323 | そでの沢鉄山 | そでのさわでつざん | (JF17-0203) | 九戸郡大野村大字水沢字下水沢 | * | 山林、荒地 | 不明 | 平場、鉄滓 | 新規 | |
| 324 | 唐松沢製鉄 | からまつきわせいてつ | (JF16-0342) | 九戸郡大野村大字木沢第1地割小 茅生 | * | 山林、原野 | 近世 | 高殿、排滓場等、流出 津、炉壁 | 新規 | |
| 325 | 天ヶ沢製鉄 | あまがさわせいてつ | (JF16-1314) | 九戸郡大野村大字水沢第2地割生 平 | * | 畠野 | 近世 | 排滓場、炉壁、流出津 | 新規 | |
| 326 | ドウヤのサワ 製鉄 | どうやのさわせいてつ | (JF17-0075) | 九戸郡大野村大字水沢第2地割生 平 | * | 水田 | 近世 | 排滓場、炉壁、流动津、 流出津 | 新規 | |
| 327 | カナヤマサワ 製鉄 | かなやまさわせいてつ | (JF17-0067) | 九戸郡大野村大字水沢第3地割上 木沢 | * | 畠地、池 | 近世 | 炉壁、流出津、鐵治津 | 新規 | |
| 328 | 下水沢Ⅰ | しもみずさわⅠ | JF07-2288 | 九戸郡大野村大字水沢第8地割字 水沢 | * | 畠地 | 不明 | 鉄滓 | 周知 | |
| 329 | 水沢鉄山 | みずさわでつざん | (JF02-0228) | 九戸郡大野村大字水沢第9地割 (下水沢) | * | 山林 | 近世 | 高殿、炉壁、製鐵津 | 新規 | |
| 330 | 未命名 | | (JF17-0305) | 九戸郡大野村大字水沢第10地割 | * | 畠地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 | |
| 331 | 金間部鉄山 (金間部Ⅱ) | かなまぶでつざん | JF17-0297 | 九戸郡大野村大字水沢第10地割 (金間部) | * | 山林、原野 | 近世 | 高殿、排滓場、平場、 製鐵津、鐵治津、炉壁 | 周知 | |
| 332 | 金間部Ⅰ | かなまぶⅠ | JF17-0296 | 九戸郡大野村大字水沢第10地割字 金間部 | * | 山林、畠地、草地 | 近世 | 鉄滓 | 周知 | |
| 333 | 太田採石場? | おおたさいせきばり | (JF17-2261) | 九戸郡大野村大字水沢第12地割太 田 | * | 原野 | 近世 | 珪石採場、珪石の砾石 | 新規 | |
| 334 | 切明鉄山 (東) | きりあけてつざん (東) | (JF16-1169) | 九戸郡大野村大字水沢第15地割切 明 | * | 山林、原野 | 近世 | 平場、排滓場、炉壁、 排津 | 新規 | |
| 335 | 切明鉄山(西) | きりあけてつざん (西) | (JF16-1175) | 九戸郡大野村大字水沢第15地割切 明 | * | 荒地、住宅 | 近世 | 鉄滓 | 新規 | |
| 336 | 天麻の沢鉄山 | てんまのさわでつざん | (JF07-0004) | 九戸郡大野村金ヶ沢 | * | 山林 | 不明 | 平場、吹子羽口片、炉 壁、鉄滓 | 新規 | |
| 337 | 上川津内鉄山 | かみかわづないでつ ざん | (JF76-2353) | 九戸郡大野村川津内 | * | 山林、水田 | 不明 | 鉄滓、炉壁 | 新規 | |
| 338 | コグテノ製鉄 | こだてのせいてつ | (IF96-0230) | 九戸郡大野村第13地割(柏木畠) | * | 山林、荒地 | 近世、近代 | 炉壁 | 新規 | |
| 339 | 新田製鉄 | しんでんせいてつ | (IF86-2265) | 九戸郡大野村第14地割3(新田) | * | 畠地 | 近世、近代 | 製鐵津(流动津) | 新規 | |
| 341 | タンナ沢製鉄 | たんなさわせいてつ | (IF86-2193) | 九戸郡大野村第15地割(一本松) | * | 荒地 | 近世 | 製鐵津(流动津) | 新規 | |
| 342 | 内野鉄山 | うちのでつざん | (IF86-2026) | 九戸郡大野村第16地割(内野) | * | 山林、原野 | 近世 | 流出津 | 新規 | |

第9表 岩手県内製鉄遺跡一覧表（9）

| No. | 遺跡名 | よみがな | 県遺跡コード・位置コード() | 所 在 地 | 新市町村名 | 現 態 | 時 代 | 遺構・遺物 | 新規・周知の区別 |
|-----|----------|---------------|-----------------|---------------------|--------|-----------|-----|---------------------|----------|
| 344 | 附櫛製鉄 | つけやなぎせいてつ | (IF76-2120) | 九戸郡大野村第21地割(附櫛) | 九戸郡洋野町 | 水田 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 345 | 森外製鉄 | もりそとせいでつ | (IF76-1193) | 九戸郡大野村第21地割(森外) | * | 山林、畠地 | 近世 | 鐵治滓、流動滓 | 新規 |
| 346 | 赤石沢 | あかいしさわ | JP05-0315 | 九戸郡軽米町大字小軽米字市野ヶ | 変更なし | 原野 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 347 | 葛柄鉄山 | くずがらてつざん | JP06-2101 | 九戸郡軽米町大字小軽米字市野ヶ | * | 畠地、牧草 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 348 | 太中の沢 | おおなかのさわ | JP05-1353 | 九戸郡軽米町大字小軽米字玉川向 | * | 山林 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 349 | 西中の沢 | にしなかのさわ | JP05-0369 | 九戸郡軽米町大字小軽米字玉川向 | * | 山林 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 350 | 玉川鉄山A | たまがわてつざんA | IF95-1384 | 九戸郡軽米町大字小軽米字屋敷 | * | 山林 | 近世 | 高殿、鐵滓、古錢、陶磁器等 | 周知 |
| 351 | 玉川鉄山B | たまがわてつざんB | IF95-2325 | 九戸郡軽米町大字小軽米字屋敷 | * | 山林 | 近世 | 高殿、鐵滓、古錢、陶磁器等 | 周知 |
| 352 | ハタラの沢 | はたらのさわ | IF95-0399 | 九戸郡軽米町大字小軽米字屋敷 | * | 山林、草野 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 353 | 市野ヶ沢製鉄 | いちらのさわせいでつ | JP06-0107 | 九戸郡軽米町小玉川 | * | 原野、道路 | 近世 | 排滓場、平場、炉壁、流動滓 | 周知 |
| 354 | 荒巻鉄山 | あらまきてつざん | (IF56-0253) | 九戸郡種市町荒巻 | 九戸郡洋野町 | 山林、畠地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 355 | 荒屋敷地区探査坑 | あらやしきちくさいくこう | (IF57-0344) | 九戸郡種市町荒屋敷 | * | 山林 | 近代? | 探査跡 | 新規 |
| 356 | 芦毛渡鉄山 | あしげわたりてつざん | IF99-1153 | 九戸郡種市町大字中野 | * | 山林、荒地、原野 | 近世 | 平場、炉壁、流出滓 | 周知 |
| 357 | 大谷鉄山 | おおやてつざん | IF67-2146 | 九戸郡種市町大谷 | * | 荒地、住宅、畠地 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 358 | 濁川鉄山 | にごりかわてつざん | IF77-1027 | 九戸郡種市町大谷 | * | 原野 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 359 | 板どうや鉄山 | いたどうやてつざん | (IF66-0045) | 九戸郡種市町大沢 | * | 山林 | 不明 | 鉄滓、鉄塊系遺物 | 新規 |
| 360 | 小田の沢鉄山 | こだのさわてつざん | (IF79-0136) | 九戸郡種市町大沢 | * | 畠地 | 不明 | 平場?、楕形滓、鉄滓等 | 新規 |
| 361 | 丹内鉄山 | たんないてつざん | (IF69-2025) | 九戸郡種市町上岡谷 | * | 山林 | 不明 | | 新規 |
| 362 | 石羽沢鉄山 | いしはねざわてつざん | (IF80-2051) | 九戸郡種市町中野石羽沢 | * | 畠地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 363 | 玉川鍋鉄山 | たまがわばたてつざん | (IF80-0175) | 九戸郡野田村大字玉川 | 変更なし | 荒地、原野 | 近世 | 炉壁、鐵治滓、流出滓 | 新規 |
| 365 | 明内製鉄 | みょうないせいてつ | (IF80-0205) | 九戸郡野田村大字野田22-50-2 | * | 荒れ地 | 不明 | 鉄滓 | 新規 |
| 366 | 太慈鉄山 | おくそうてつざん | (IF89-1283) | 九戸郡野田村大慈 | * | 山林 | 近世 | 高殿、排滓場、鐵治滓、炉壁、鉄滓 | 新規 |
| 367 | 稚綿鍛冶工場跡? | たねわたかじこうぼうあと? | (IF89-2339) | 九戸郡野田村稚綿2-26? | * | 畠地 | 不明 | 鐵治滓 | 新規 |
| 368 | 上日形井鉄山 | かみひがたいてつざん | (IF70-2013) | 九戸郡野田村日形井 | * | 山林、原野 | 近世 | 高殿、整地跡、排滓場、製鉄滓、炉壁 | 新規 |
| 369 | 下日形井鉄山? | しもひがたいてつざん? | (IF70-1029) | 九戸郡野田村日形井6 | * | 住宅、畠地 | 不明 | 流出滓、鐵治滓 | 新規 |
| 370 | 未命名 | | JF64-2289 | 九戸郡山形村番組 | 久慈市 | 山林 | 不明 | 焼土造構築(時窯?、遺跡の性格は不明) | 新規 |
| 371 | 内間木鉄吹場 | うちまぎせにふきば | (IF77-2240) | 九戸郡山形村大字小國內間木 | * | 山林 | 近世 | 鉄滓 | 新規 |
| 372 | 蛇ヶ沢鉄山 | へびかわてつざん | JP15-2190 | 九戸郡山形村大字戸呂町第1地割 | * | 畠地、牧草 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 373 | スゴロ沢鉄山 | すごろさわてつざん | JP25-0223 | 九戸郡山形村大字戸呂町第2地割 | * | 山林 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 374 | 金取鉄山 | かなとりてつざん | JP25-1321 | 九戸郡山形村大字戸呂町第4地割 | * | 山林、水田 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 375 | 間刈沢鍛冶跡 | まかんざわかじあと | JP25-1278 | 九戸郡山形村大字戸呂町第7地割 | * | 畠地、牧草 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 376 | 小国沢鉄山 | おぐにさわてつざん | JP16-2131 | 九戸郡山形村大字戸呂町第8地割 | * | 山林、水田、荒廃地 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 377 | 戸呂町繁1鉄山 | へのまちなぎ1てつざん | JP27-0064 | 九戸郡山形村大字戸呂町第9地割 | * | 牧草地 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 378 | 戸呂町繁日鉄山 | へろまちなぎ日てつざん | JP27-0098 | 九戸郡山形村大字戸呂町第9地割 | * | 山林 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 379 | 矢の沢鉄山 | やのさわてつざん | JP26-1258 | 九戸郡山形村大字戸呂町第10地割 | * | 山林 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 380 | 木沢烟向鉄山 | きさわはたてつざん | JP56-0377 | 九戸郡山形村大字繁第3地割 | * | 山林 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 381 | 繁新山 | つなぎてつざん | JP57-0100 | 九戸郡山形村大字繁第3地割 | * | 山林 | 近世 | 鉄滓、フィゴ羽口等 | 周知 |
| 382 | 繁新山Ⅱ製鉄 | つなぎてつざんⅡせいでつ | JP57-0047 | 九戸郡山形村大字繁第3地割 | * | 山林 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 383 | 木沢烟向製鉄 | きさわはたむかいせいでつ | JP56-0329 | 九戸郡山形村大字繁第5地割4-9-1 | * | 住宅 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 384 | 茅守鉄山 | かやもりてつざん | JP47-0113 | 九戸郡山形村大字繁第10地割6 | * | 住宅 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 385 | ドウヤカワラ製鉄 | どうやかわらせいでつ | JP47-2206 | 九戸郡山形村大字繁第22地割 | * | 山林、住宅 | 近世 | 鉄滓 | 周知 |
| 386 | 大畑鉄山 | おおはたてつざん | JP24-2230 | 九戸郡山形村大字日野沢字大畑第17地割 | * | 山林、道路 | 近世 | 平場、排滓場、炉壁、流動滓 | 周知 |

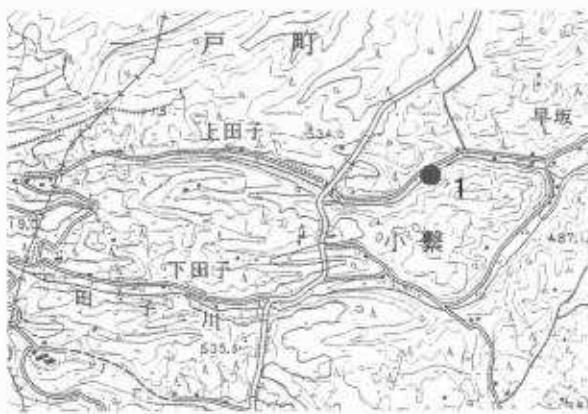
第10表 岩手県内製鉄遺跡一覧表（10）

| No | 遺跡名 | よみがな | 県遺跡コード・位置コード() | 所在地 | 新市町村名 | 現況 | 時代 | 備考 |
|-----|---------------|-------------|-----------------|----------------------|---------|----------|-------------|-------|
| 7 | 新山神社鍛冶場 | にいやまじんじゅかじば | (LE75-0260) | 紫波郡紫波町土館和山2-4 | 変更なし | 原野、道路 | 近世 | 伝承による |
| 10 | 鍛武江せん場 | かぎきわえせんば | (MF48-0150) | 和賀郡湯田町下左草79地割火石炎根 | 和賀郡西和賀町 | 山林、荒地、原野 | 近世(19C) | 文献資料 |
| 108 | 山梨沢烟屋 | やまなしづわどうや | (NF28-2017) | 大船渡市日塙市町字上板用 | 変更なし | 山林、道路 | 不明 | * |
| 109 | 上甲子烟屋 | かみがうしどうや | (NF09-2090) | 大船渡市日塙市町字上甲子18 | * | 一部ダム | 不明 | * |
| 113 | 灘の上烟屋Ⅰ | たきのうえどうやⅠ | (MF84-2257) | 気仙郡住田町下有住字奥新切瀬の上 | * | 山林 | 近世 | * |
| 114 | 灘の上烟屋Ⅱ | たきのうえどうやⅡ | (MF84-2353) | 気仙郡住田町下有住字奥新切 | * | 山林 | 近世 | * |
| 127 | 金山沢烟屋 | かねやまざわどうや | (NF23-0115) | 気仙郡住田町世田米字木地山新倉山 | * | 山林、道路 | 近世 | * |
| 142 | 越前沢烟屋Ⅱ | おっちょざわどうやⅡ | (NF33-1244) | 陸前高田市矢作町字的場 | * | 山林？ | 不明 | * |
| 149 | 喜太郎烟屋 | きたろうどうや | (NF54-2040) | 陸前高田市矢作町字坂下57-8 | * | 山林、道路 | 不明 | * |
| 182 | 小坪沢御殿治場 | おつぼさわわおんかじば | (NF35-2267) | 陸前高田市横田町字小坪沢 | * | 山林、原野、道路 | 近世(17, 19C) | * |
| 187 | 宮沢 | みやざわ | (MG22-0027) | 上閉伊郡大槌町大槌6地割 | * | 山林 | 不明 | 伝承による |
| 171 | 鞍の沢 | くらのさわ | (MG32-0248) | 上閉伊郡大槌町大槌第11地割 | * | 山林、住宅 | 不明 | * |
| 214 | 堂場 | どうば | (MF93-0107) | 遠野市小友町27地割 | * | 道路、水田、畠地 | 不明 | 文献資料 |
| 230 | 小黒 | こぐろ | (LF87-1243) | 下閉伊郡川井村小国13小黒 | * | 山林 | 不明 | 伝承による |
| 251 | 猪子鉄山 | ししこてつざん | (KG83-2231) | 下閉伊郡田老町大字末前第8地割字鈴子沢 | 宮古市 | 原野 | 近世(19C) | 文献資料 |
| 264 | 茂市鉄山 | もいちてつざん | (JG91-2014) | 下閉伊郡普代村第27地割字茂市 | 変更なし | | | 伝承による |
| 265 | カコイ製鉄遺跡(萩生鉄山) | かこいせいてつ | (KG01-2051) | 下閉伊郡普代村第30地割字萩牛 | * | | 近世 | * |
| 302 | 雲南沢加倉 | うんなんざわかくら | (LG32-1205) | 宮古市根市雲南沢 | * | 山林 | 不明 | * |
| 307 | ドウヤシロ製鉄 | どうやしろせいてつ | (IP96-0232) | 九戸郡大野村 | 九戸郡洋野町 | 水田 | 不明 | * |
| 316 | カジシロ | かじしろ | (IP96-0286) | 九戸郡大野村大字大野第11地割(松木畑) | * | 畠地 | 不明 | * |
| 340 | カナタツ沢製鉄 | かなくそさわせいてつ | (IF86-2162) | 九戸郡大野村第15地割(一本松) | * | 水田 | 近世 | * |
| 343 | 上万谷鉄山 | かみまんやりてつざん | (IP85-0395) | 九戸郡大野村第17地割(万谷) | * | 山林 | 近世 | 文献資料 |
| 364 | 錢神製鉄 | せにがみせいてつ | (JG71-1294) | 九戸郡野田村大字玉川2-63-15 | 変更なし | 原野 | 近世 | * |



第1図 岩手県内製鉄遺跡分布図

(番号は第2図～第21図に対応)



1



2



3



4



5



6

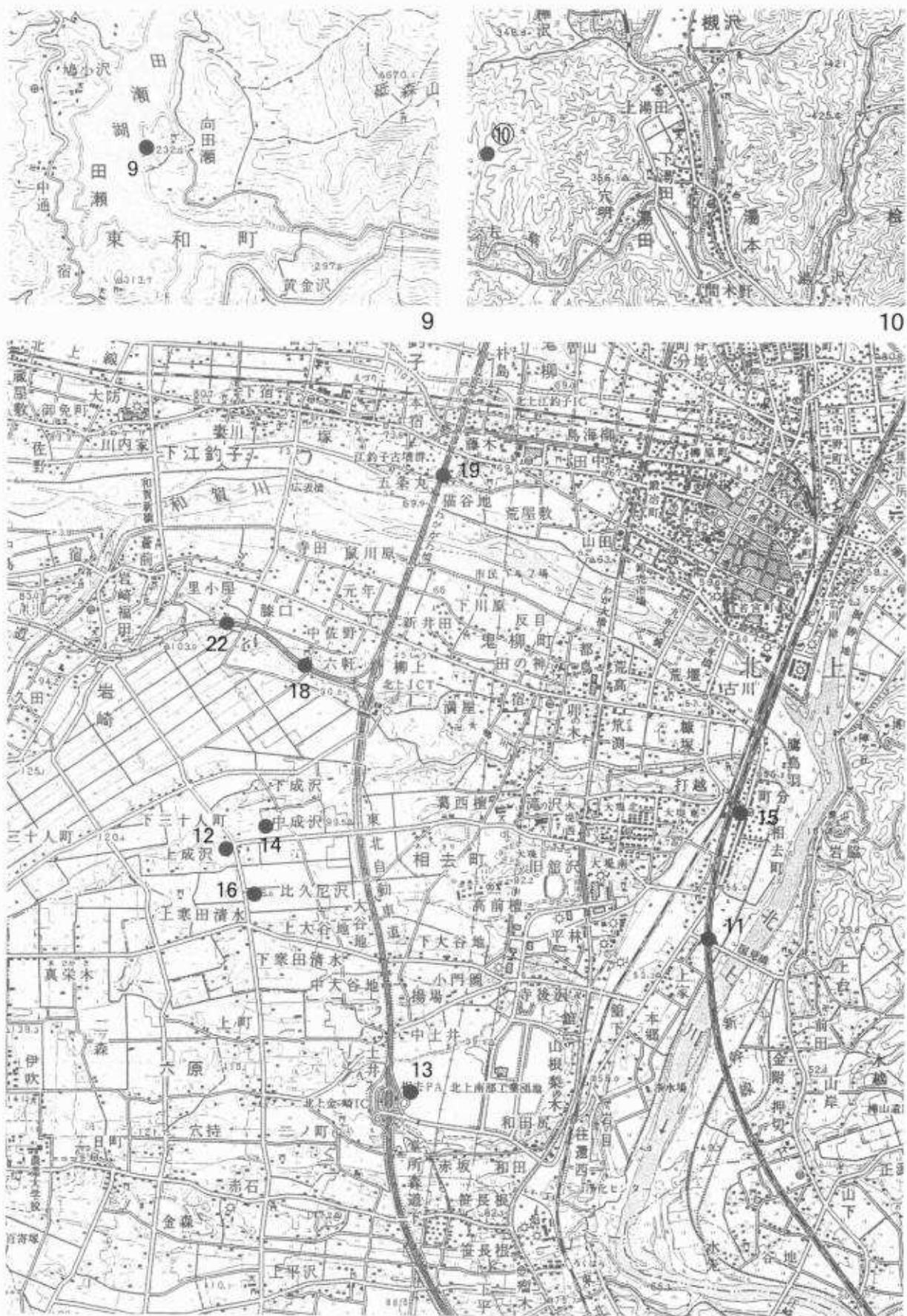


7



8

第2図 岩手県内製鉄遺跡位置図1



第3図 岩手県内製鉄遺跡位置図2



12



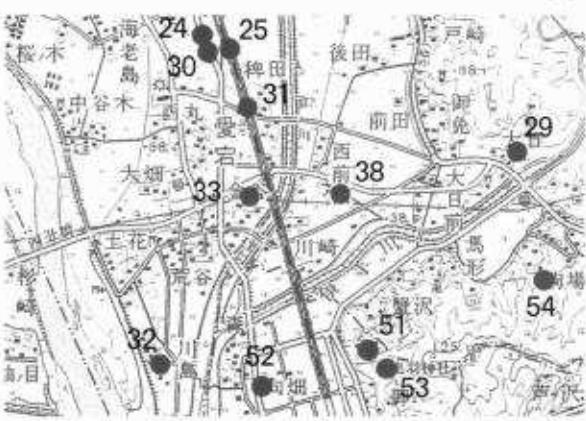
13



14



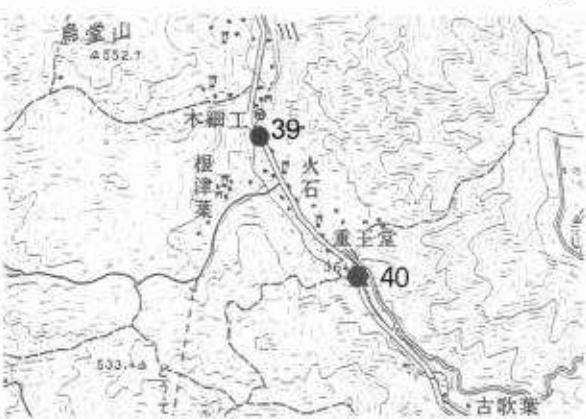
15



16



10



18



17

第4図 岩手県内製鉄遺跡位置図3



19



21



20



22



23

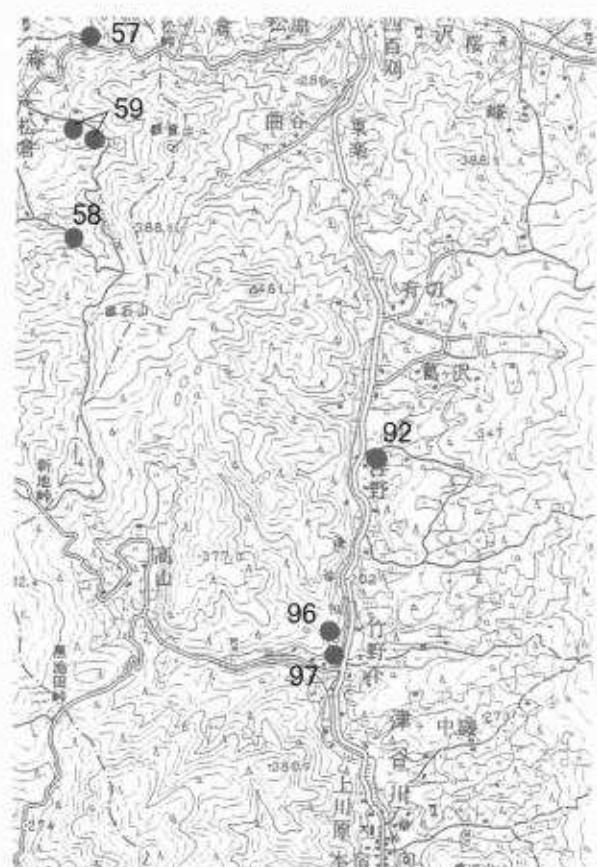


24



25

第5図 岩手県内製鉄遺跡位置図4



26



27



28



29



30

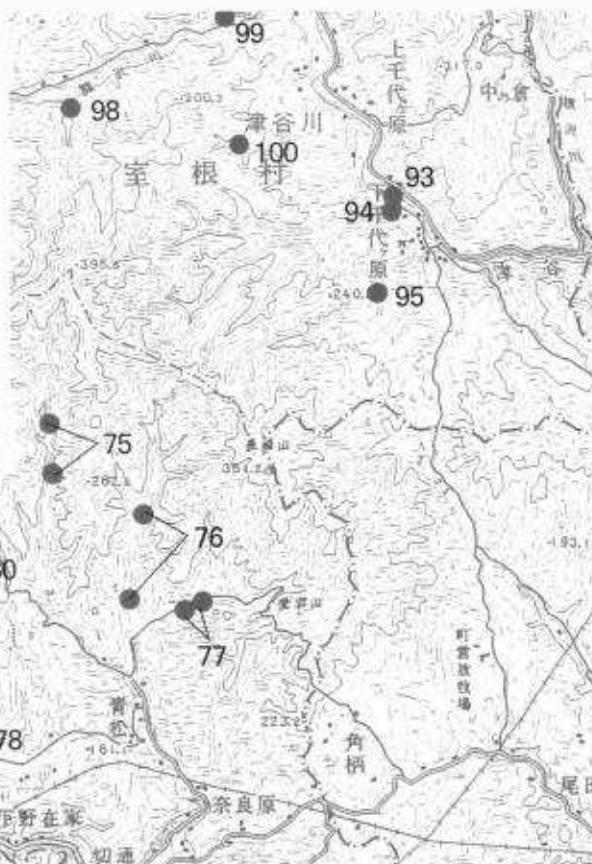


31

第6図 岩手県内製鉄遺跡位置図5



32



33



34



35



36

第7図 岩手県内製鉄遺跡位置図6



37



38



39



40

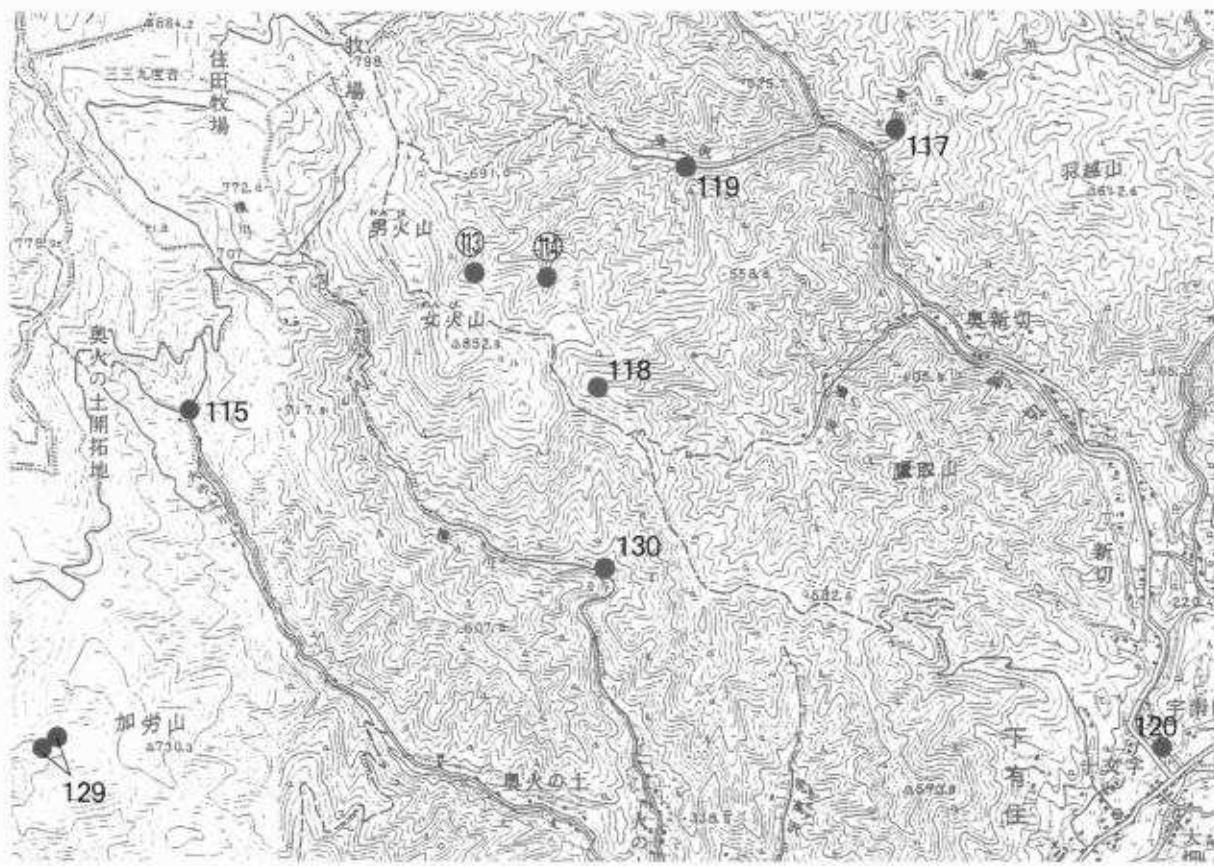


41

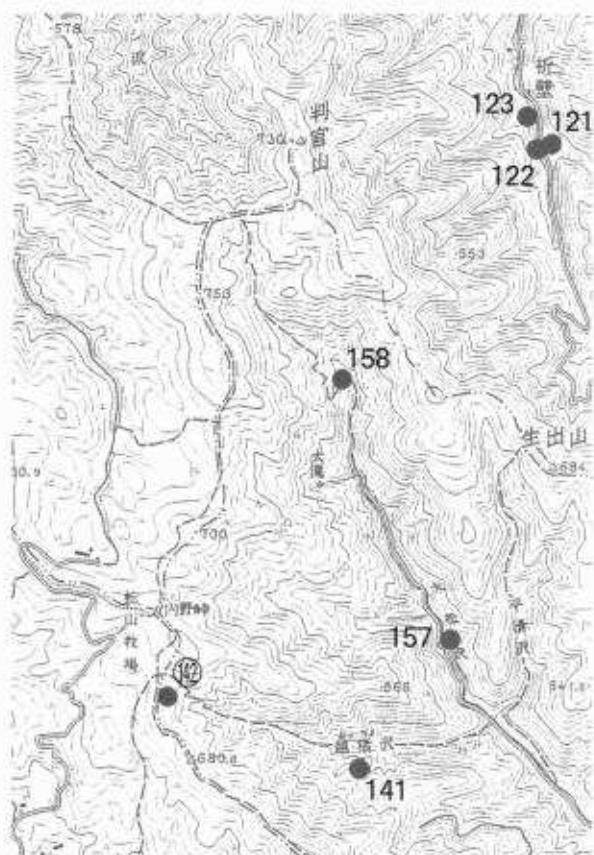


42

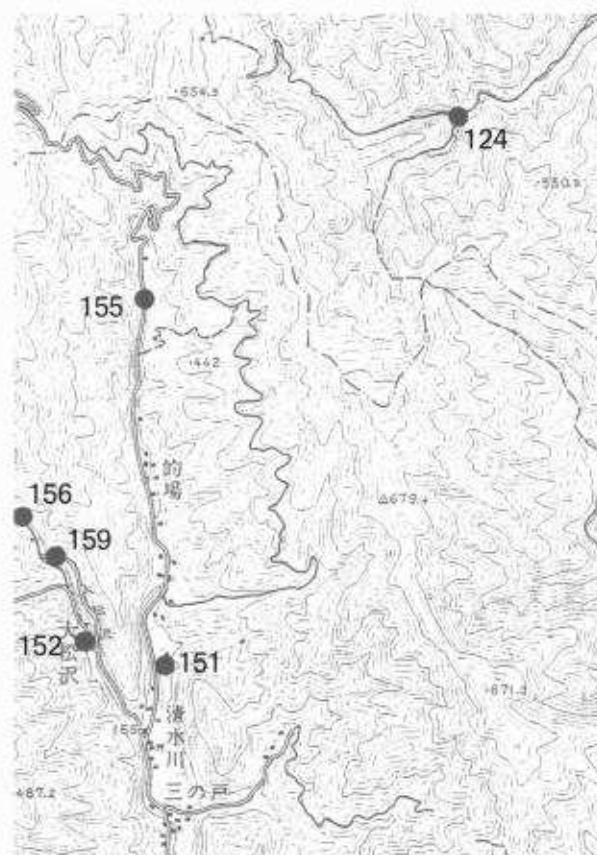
第8図 岩手県内製鉄遺跡位置図 7



43



44



45

第9図 岩手県内製鉄遺跡位置図8



46



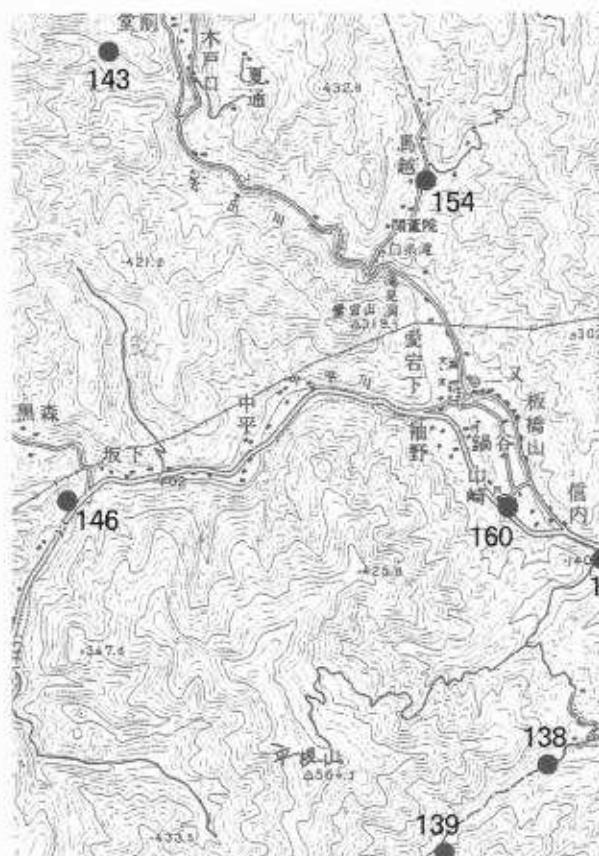
47



48



49

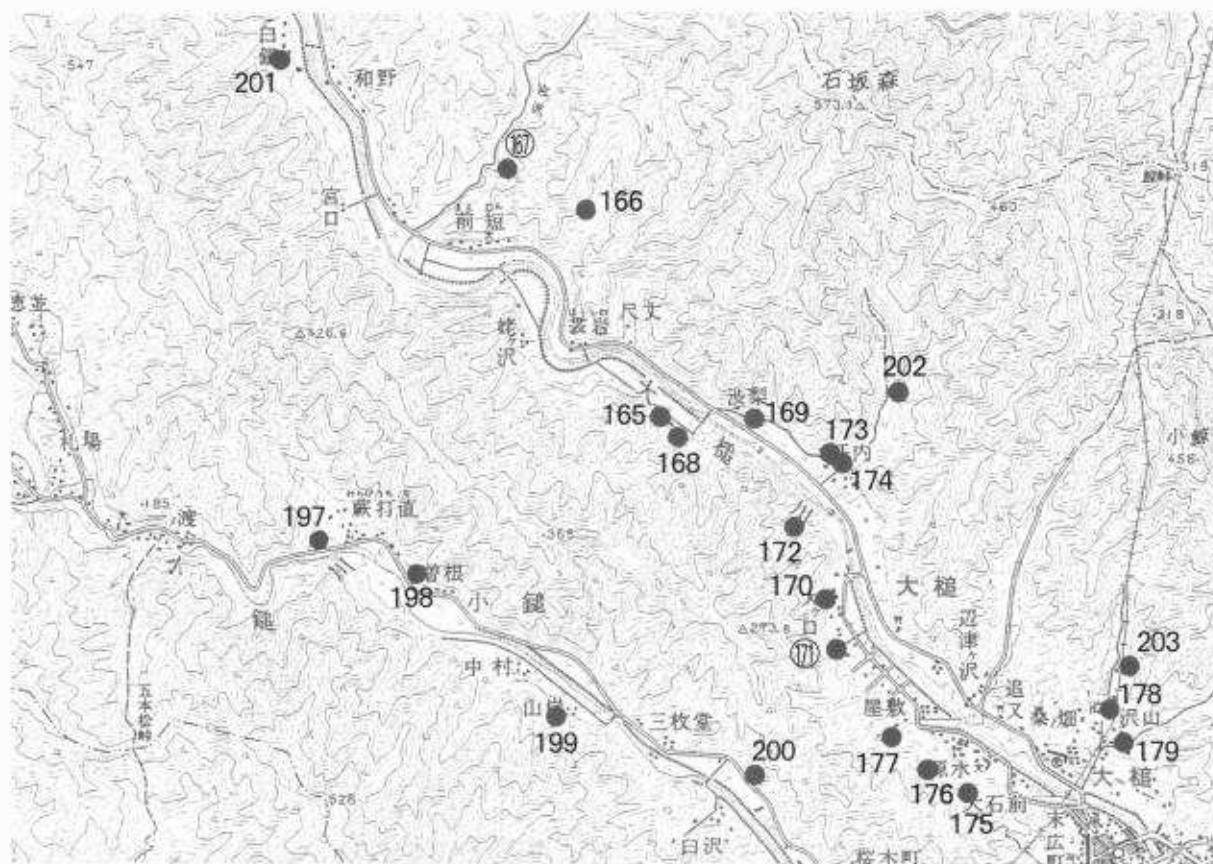


卷之三



50

第10図 岩手県内製鉄遺跡位置図 9



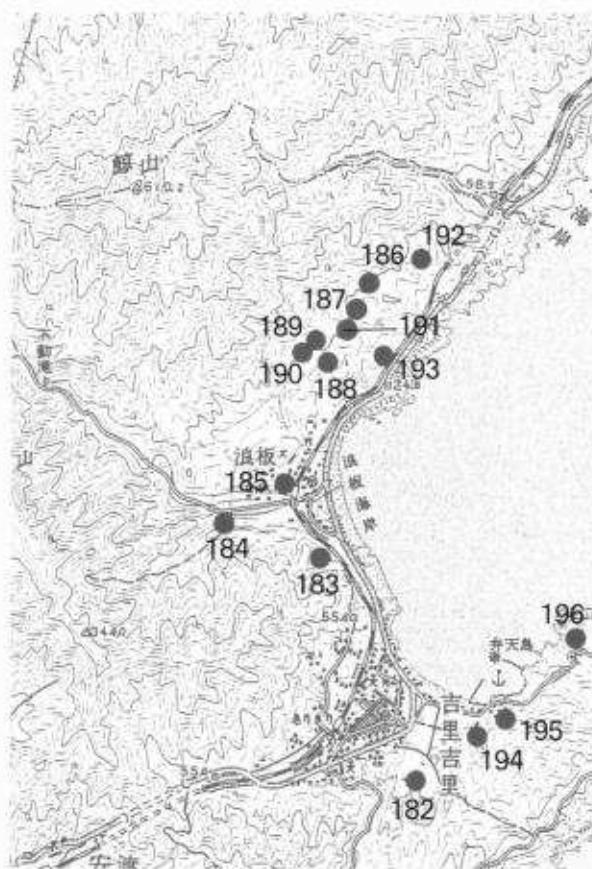
51



52



53



54

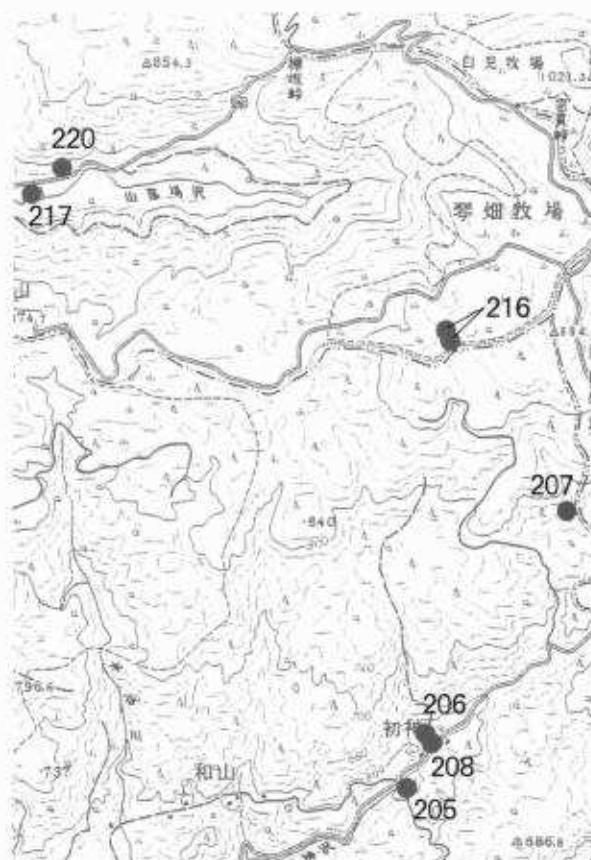
第11図 岩手県内製鉄遺跡位置図10



55



56



57



58



59



60



61

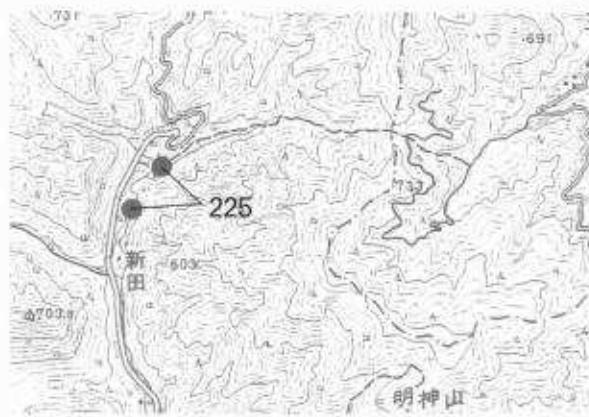
第12図 岩手県内製鉄遺跡位置図11



62



63



64



65



66

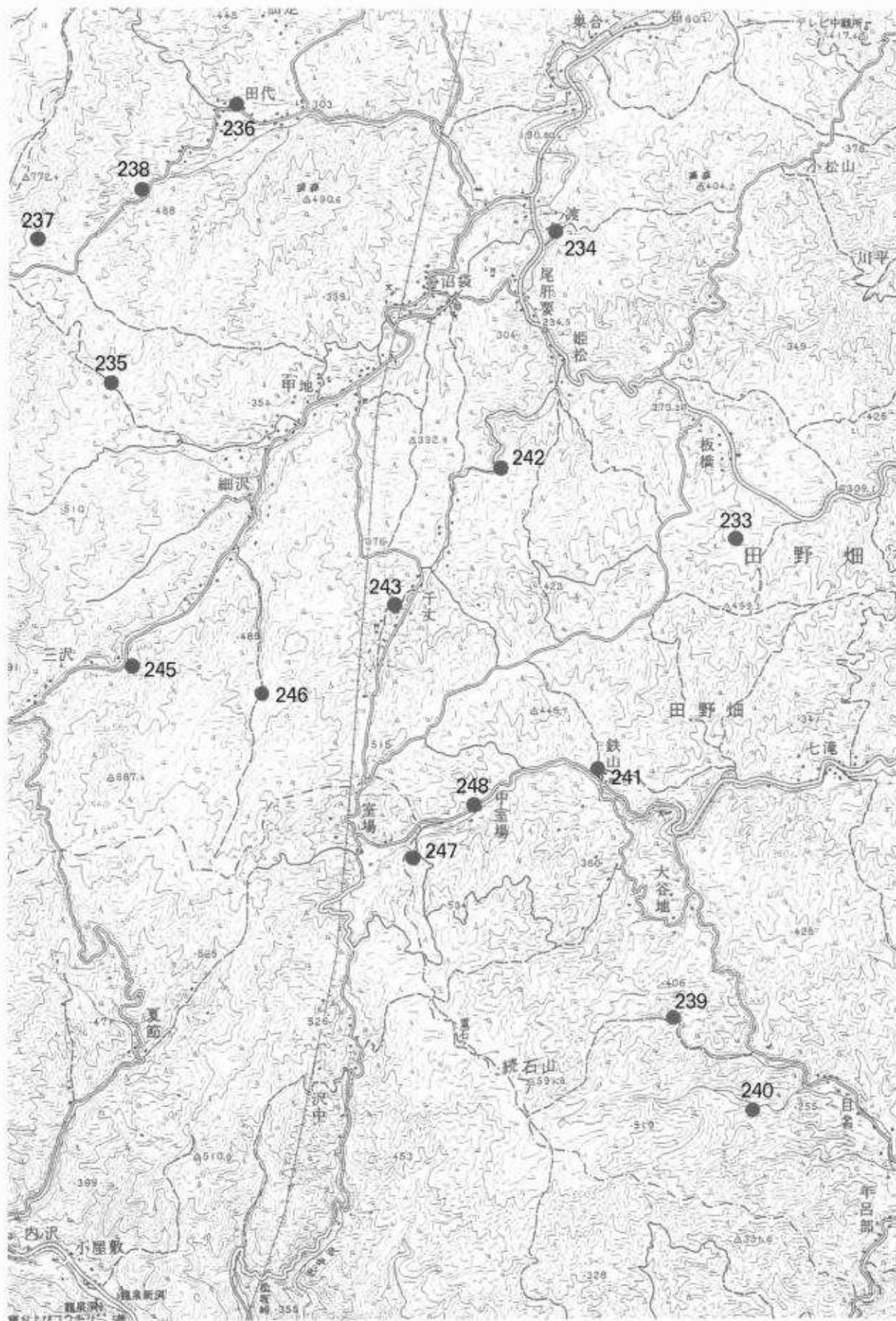


68



67

第13図 岩手県内製鉄遺跡位置図12

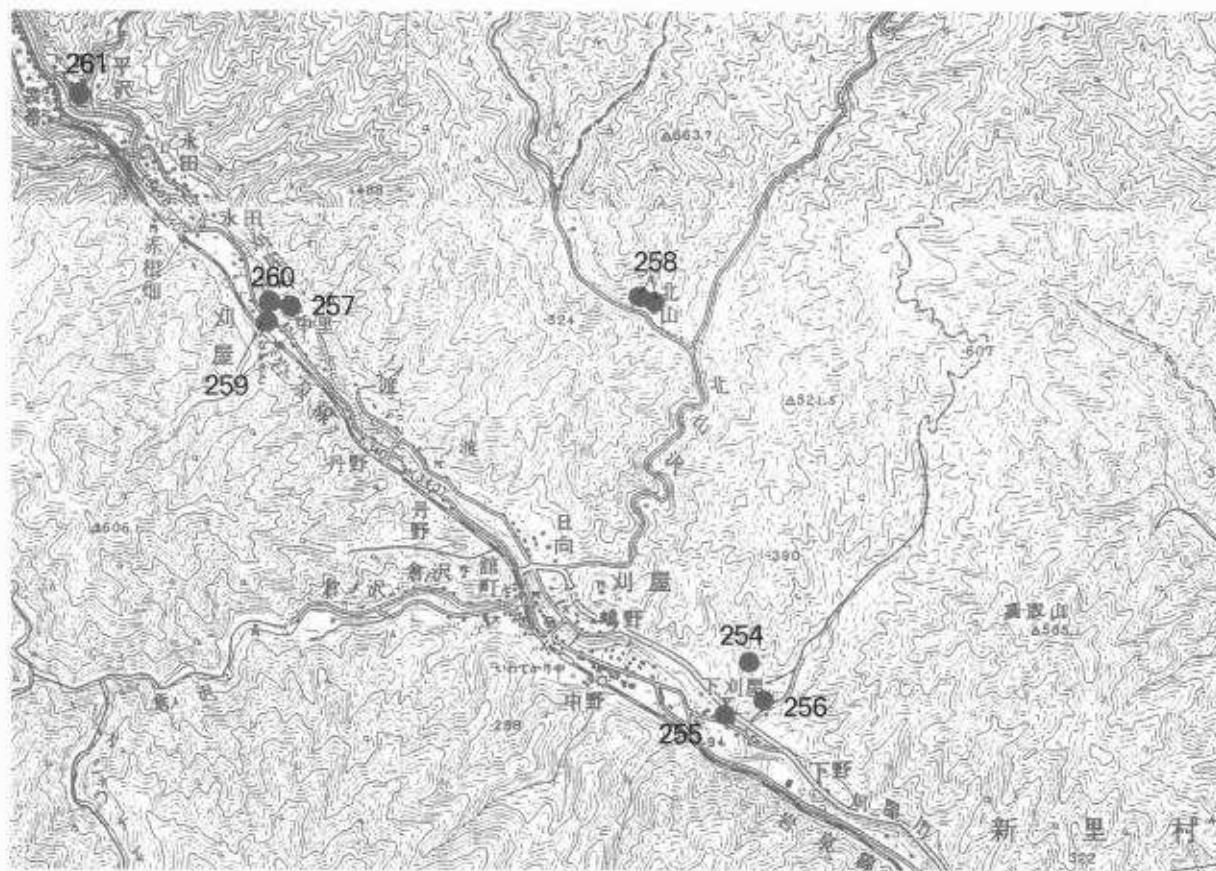




70

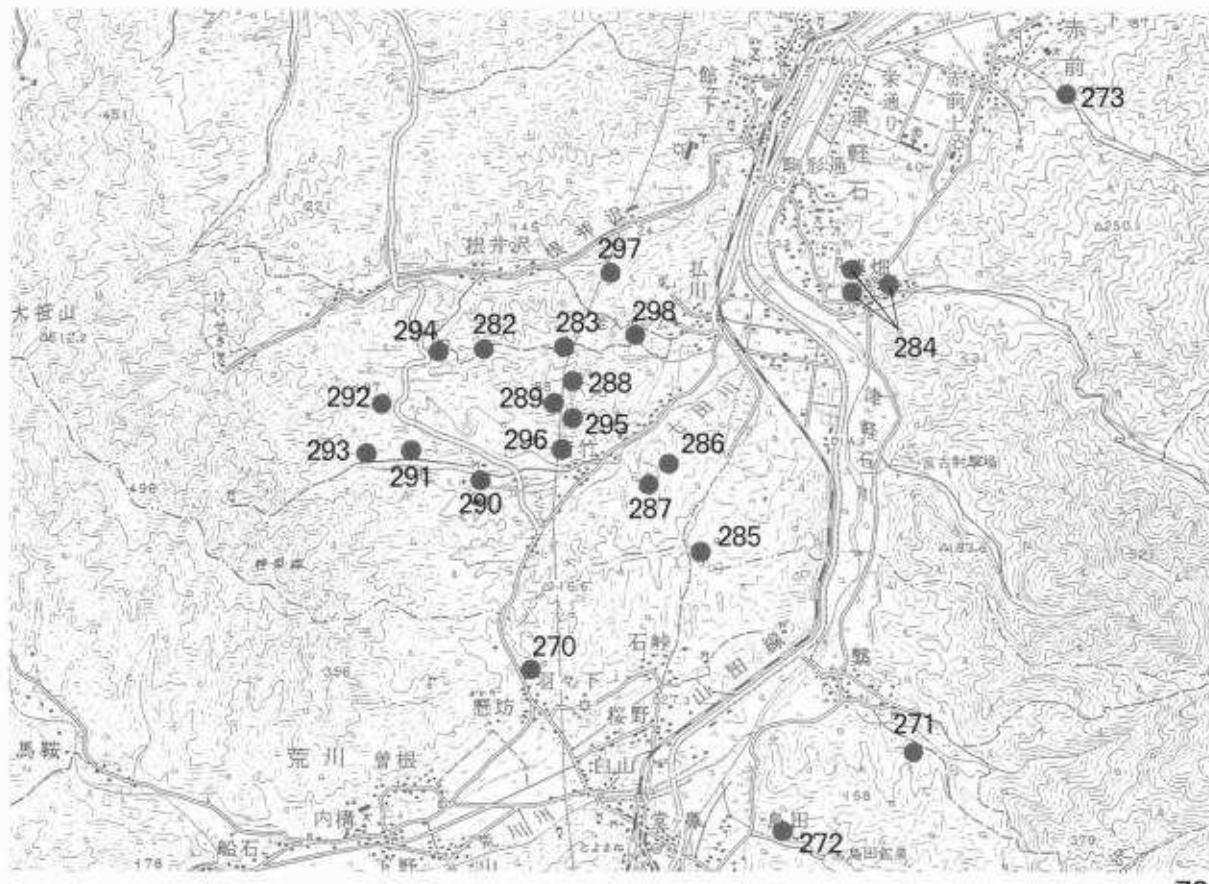


71

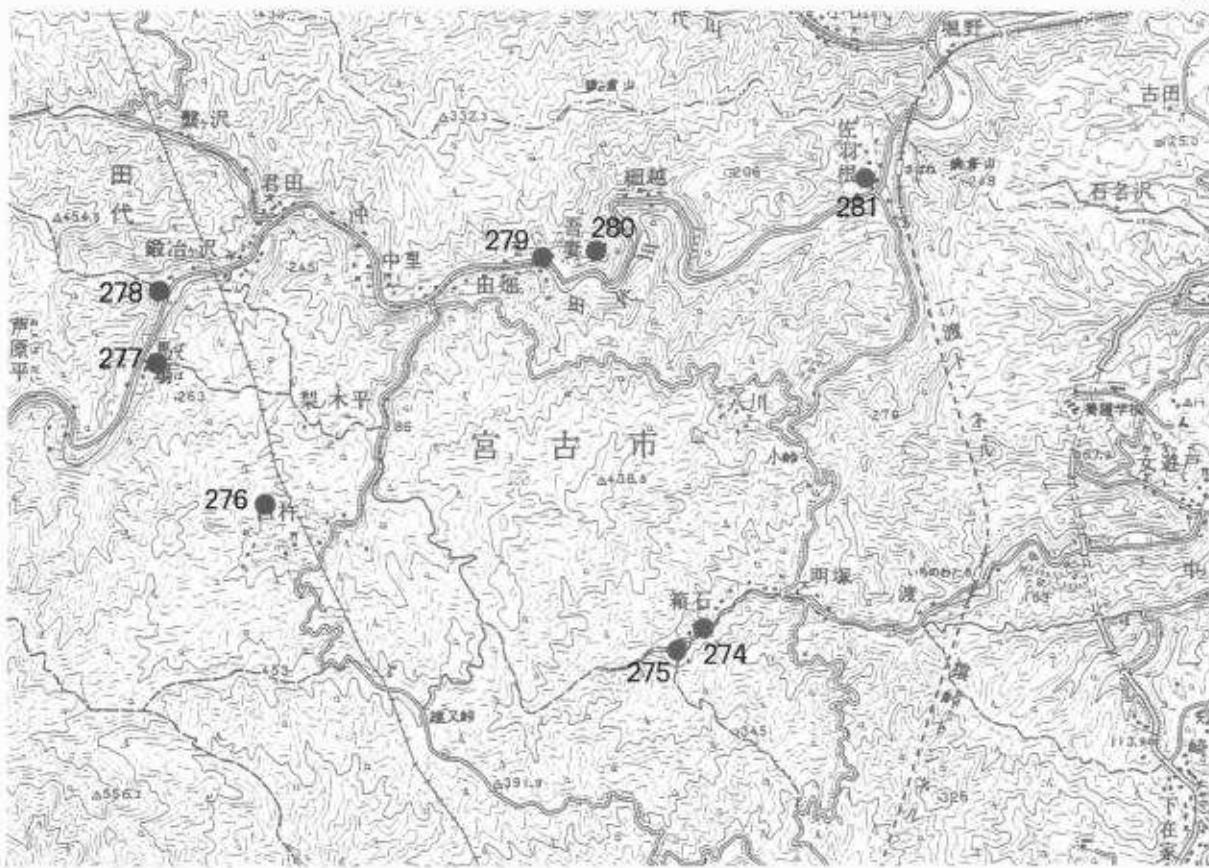


72

第15図 岩手県内製鉄遺跡位置図14



73

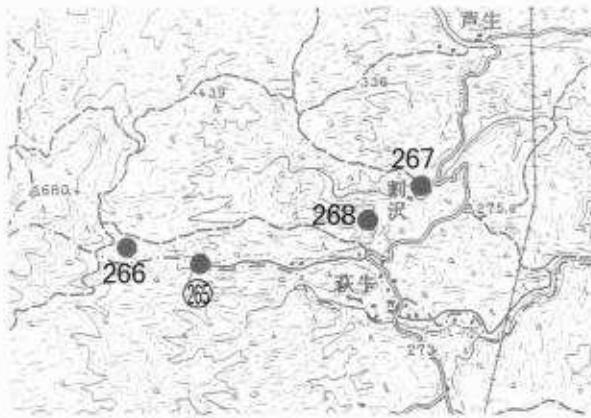


74

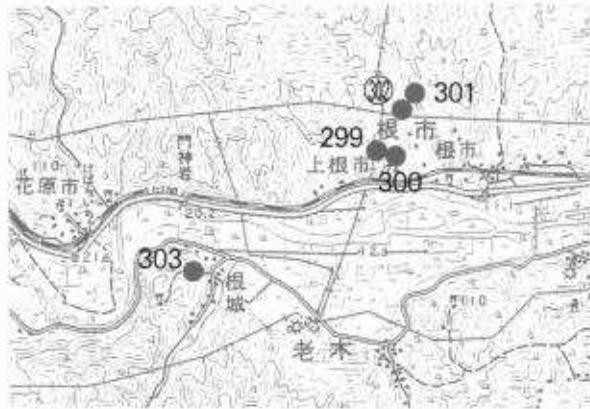
第16図 岩手県内製鉄遺跡位置図15



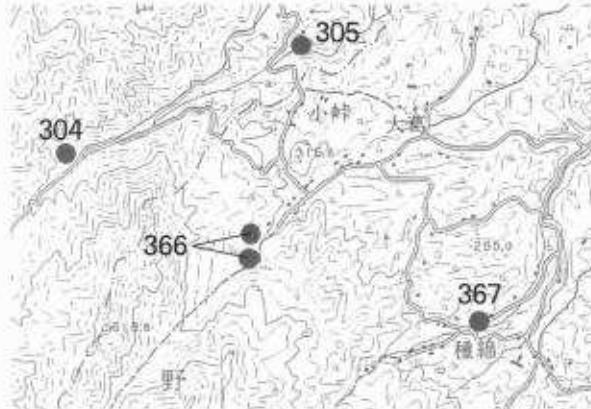
75



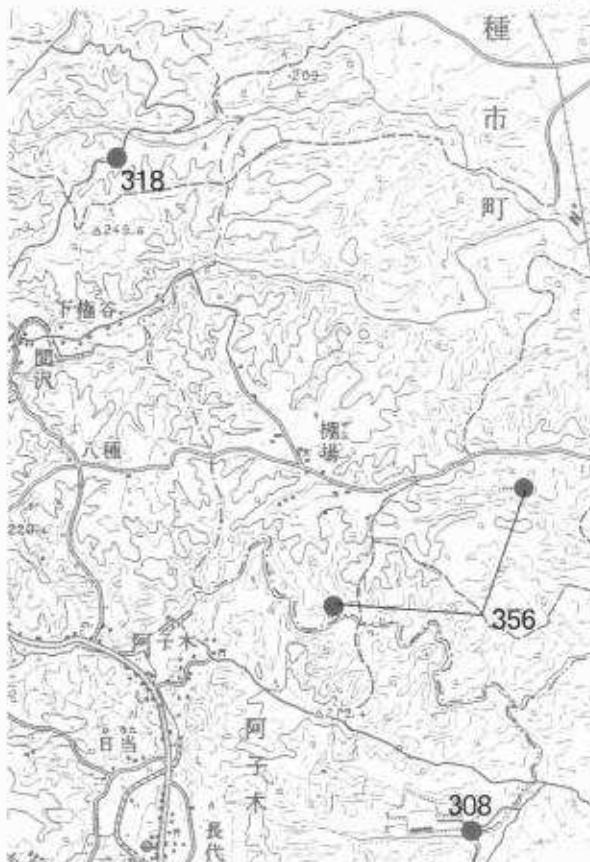
76



77



78

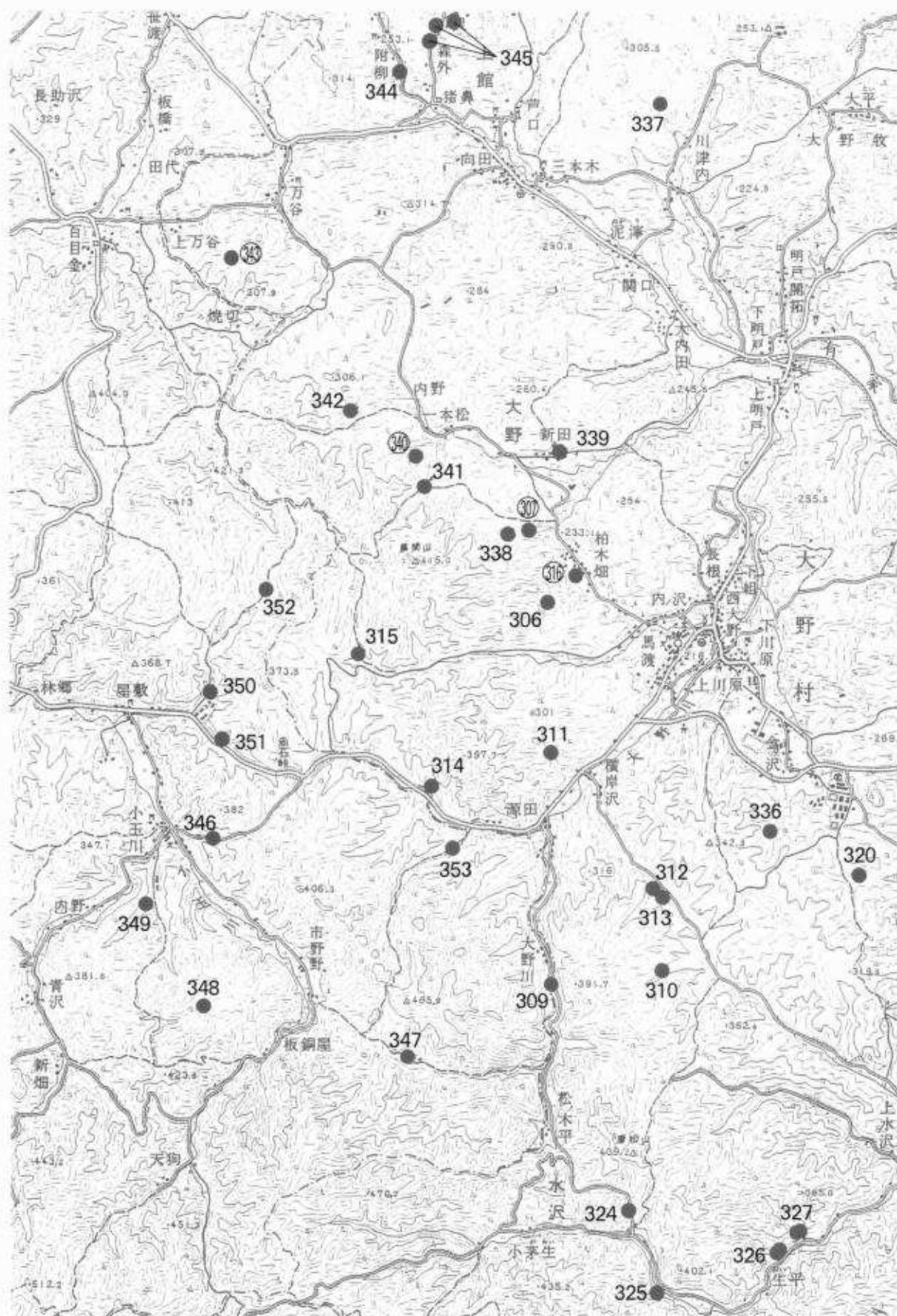


79



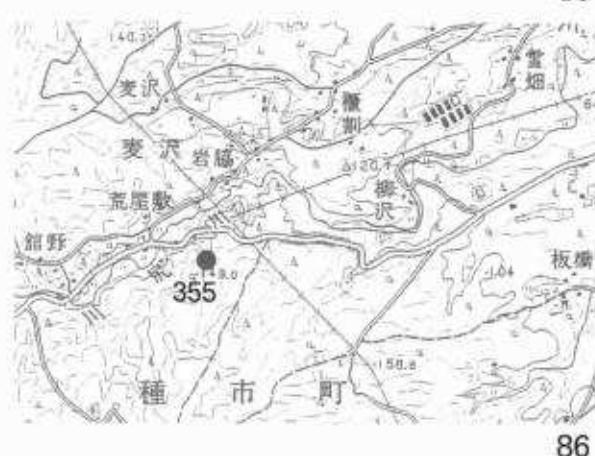
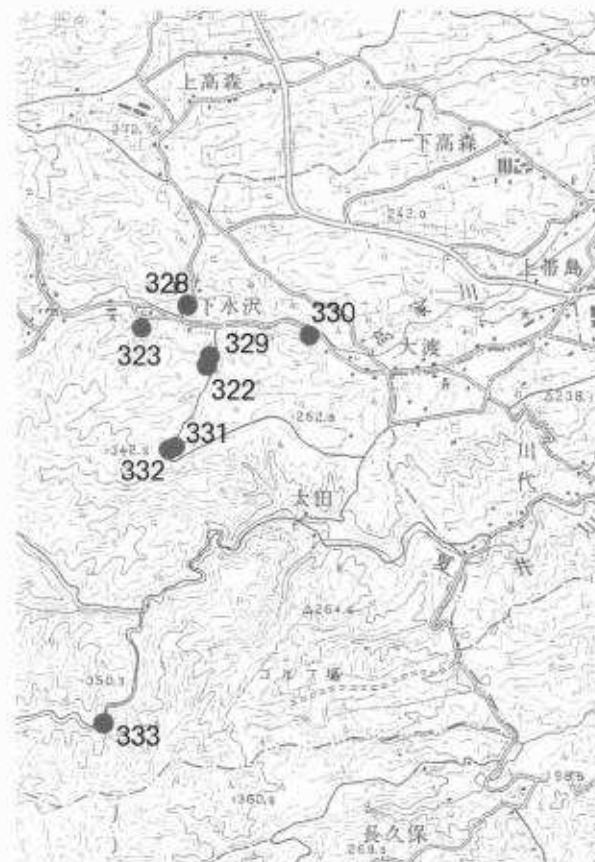
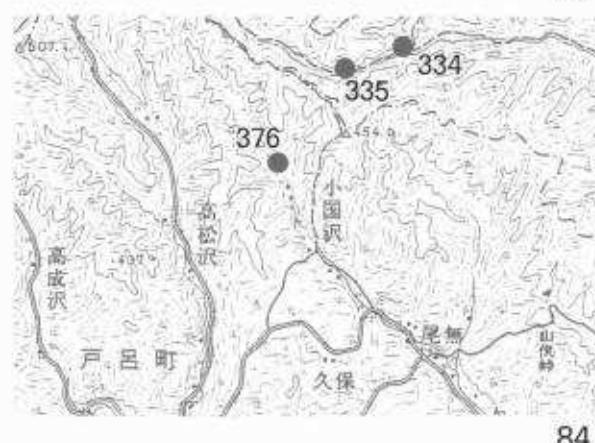
80

第17図 岩手県内製鉄遺跡位置図16



81

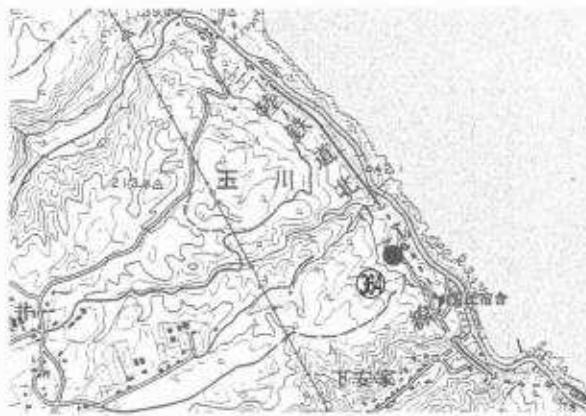
第18図 岩手県内製鉄遺跡位置図17



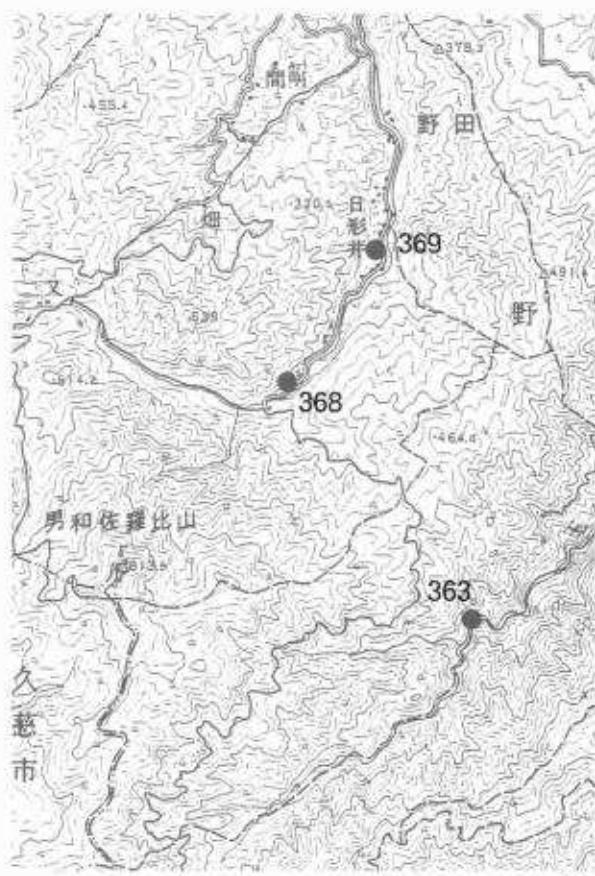
第19図 岩手県内製鉄遺跡位置図18



88



90



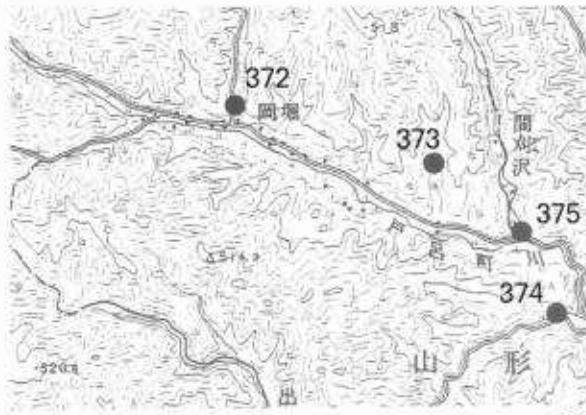
89



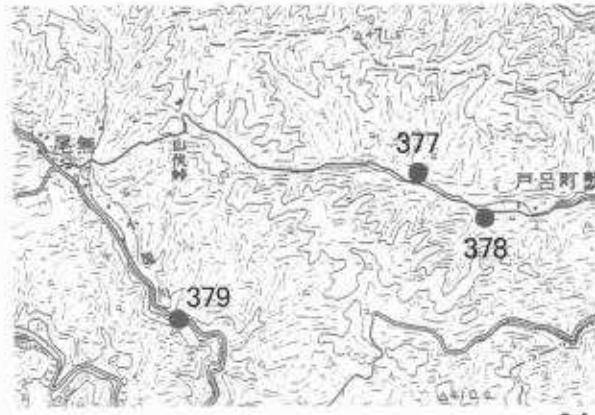
91



92

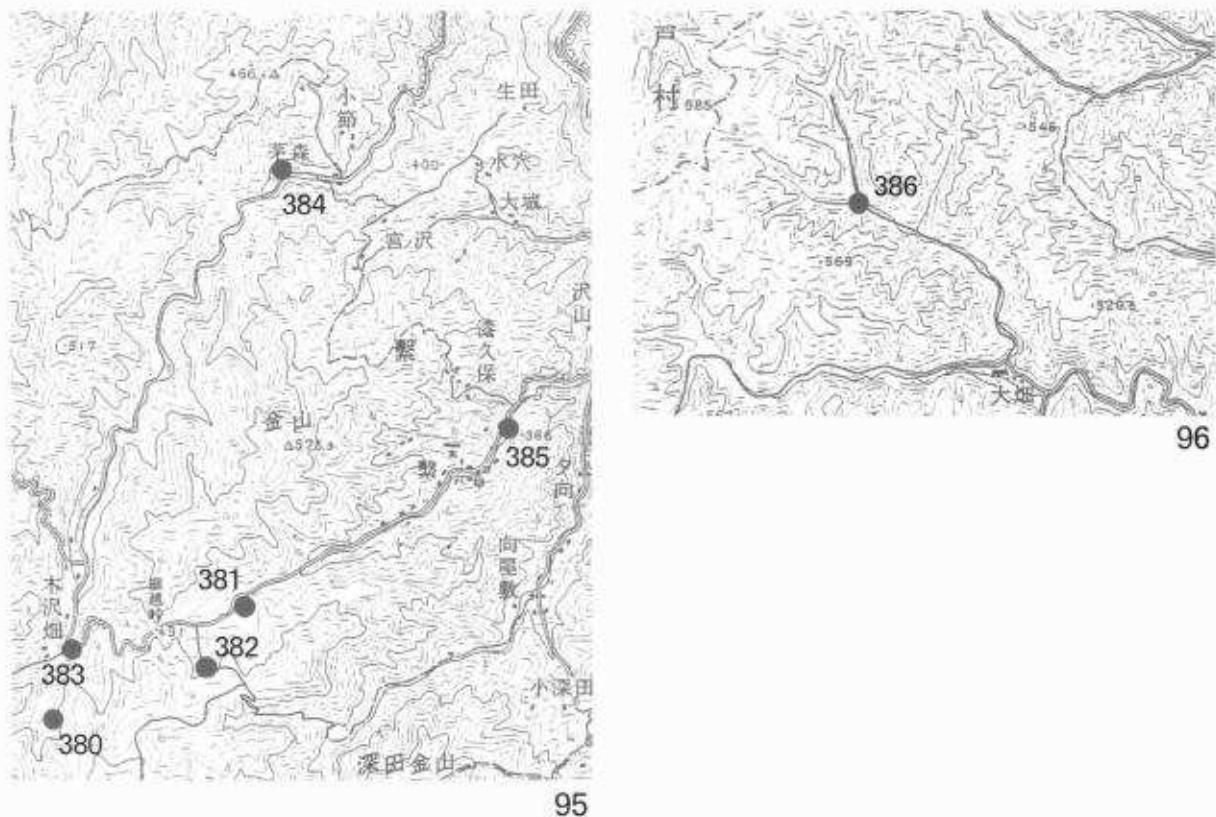


93



94

第20図 岩手県内製鉄遺跡位置図19



95

遺跡番号・図版対応表

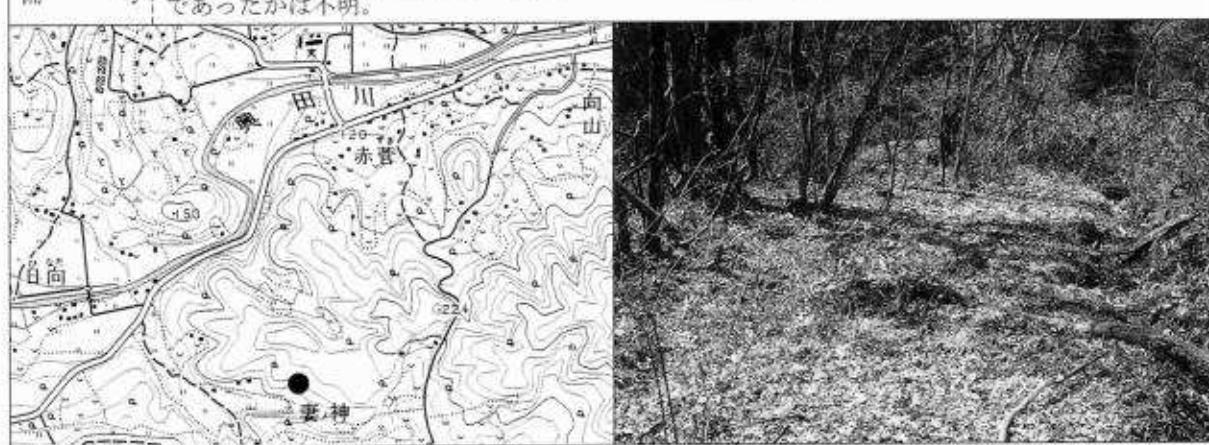
| No. | 圖版番号 | No. | 圖版番号 | No. | 圖版番号 | No. | 圖版番号 | No. | 圖版番号 | No. | 圖版番号 |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|
| 1 | 第2図4 | 44 | 第5図21 | 87 | 第7図36 | 139 | 第9図43 | 173 | 第11図51 | 216 | 第12図57 |
| 2 | 第2図2 | 45 | 第5図14 | 88 | 第8図24 | 140 | 第9図43 | 174 | 第12図51 | 217 | 第12図57 |
| 3 | 第2図3 | 46 | 第5図21 | 89 | 第7図35 | 142 | 第10図45 | 175 | 第11図51 | 218 | 第12図51 |
| 4 | 第2図4 | 47 | 第5図21 | 90 | 第7図35 | 143 | 第10図45 | 176 | 第11図51 | 219 | 第12図51 |
| 5 | 第2図5 | 48 | 第5図21 | 91 | 第7図35 | 144 | 第10図45 | 177 | 第11図51 | 220 | 第12図51 |
| 6 | 第2図6 | 49 | 第5図21 | 92 | 第6図26 | 145 | 第10図47 | 178 | 第11図51 | 221 | 第13図62 |
| 7 | 第2図7 | 50 | 第5図21 | 93 | 第7図35 | 146 | 第10図47 | 179 | 第11図51 | 222 | 第13図62 |
| 8 | 第2図8 | 51 | 第4図10 | 94 | 第7図30 | 147 | 第10図50 | 180 | 第11図51 | 223 | 第13図63 |
| 9 | 第3図9 | 52 | 第4図10 | 95 | 第7図30 | 148 | 第10図50 | 181 | 第12図53 | 224 | 第13図63 |
| 10 | 第3図10 | 53 | 第4図10 | 96 | 第6図26 | 149 | 第10図50 | 182 | 第12図54 | 225 | 第13図64 |
| 11 | 第3図11 | 54 | 第4図10 | 97 | 第6図26 | 149 | 第10図50 | 183 | 第12図54 | 226 | 第13図65 |
| 12 | 第3図10 | 55 | 第5図24 | 98 | 第7図30 | 149 | 第10図44 | 184 | 第12図54 | 227 | 第13図66 |
| 13 | 第3図11 | 56 | 第5図24 | 99 | 第7図30 | 147 | 第10図44 | 185 | 第12図54 | 228 | 第13図66 |
| 14 | 第3図11 | 57 | 第6図26 | 100 | 第7図33 | 145 | 第10図50 | 186 | 第12図54 | 229 | 第13図67 |
| 15 | 第3図11 | 58 | 第6図26 | 101 | 第5図25 | 144 | 第10図48 | 187 | 第12図54 | 230 | 第13図67 |
| 16 | 第3図11 | 59 | 第6図26 | 102 | 第8図32 | 145 | 第10図48 | 188 | 第12図54 | 231 | 第13図68 |
| 17 | 第4図12 | 60 | 第5図24 | 103 | 第8図32 | 146 | 第10図48 | 189 | 第11図54 | 232 | 第13図68 |
| 18 | 第3図11 | 61 | 第6図27 | 104 | 第8図38 | 147 | 第10図48 | 190 | 第11図54 | 233 | 第14図59 |
| 19 | 第3図11 | 62 | 第6図28 | 105 | 第8図39 | 148 | 第10因48 | 191 | 第11図54 | 234 | 第14図59 |
| 20 | 第4図10 | 63 | 第6図29 | 106 | 第8図41 | 149 | 第10因48 | 192 | 第11因54 | 235 | 第14因59 |
| 21 | 第4図14 | 64 | 第6図29 | 107 | 第8図41 | 150 | 第10因48 | 193 | 第11因54 | 236 | 第14因59 |
| 22 | 第3図11 | 65 | 第6図29 | 108 | 第8図41 | 151 | 第9図45 | 194 | 第11因54 | 237 | 第14因59 |
| 23 | 第4図15 | 66 | 第6図29 | 109 | 第8図40 | 152 | 第9図45 | 195 | 第11因54 | 238 | 第14因59 |
| 24 | 第4図16 | 67 | 第6図29 | 110 | 第8図40 | 153 | 第10因50 | 196 | 第11因54 | 239 | 第14因59 |
| 25 | 第4図16 | 68 | 第8図20 | 111 | 第8図41 | 154 | 第10因50 | 197 | 第11因54 | 240 | 第14因59 |
| 26 | 第4図17 | 69 | 第6図30 | 112 | 第8図39 | 155 | 第9因45 | 198 | 第11因54 | 241 | 第14因59 |
| 27 | 第4図17 | 70 | 第6図31 | 113 | 第9因45 | 165 | 第9因45 | 199 | 第11因54 | 242 | 第14因59 |
| 28 | 第4図17 | 71 | 第7図32 | 114 | 第9因45 | 157 | 第9因44 | 200 | 第11因54 | 243 | 第14因69 |
| 29 | 第4図16 | 72 | 第7図33 | 115 | 第9因45 | 168 | 第9因44 | 201 | 第11因54 | 244 | 第13因58 |
| 30 | 第4図16 | 73 | 第7図33 | 116 | 第8因42 | 159 | 第9因45 | 202 | 第11因54 | 245 | 第14因69 |
| 31 | 第4図16 | 74 | 第7図33 | 117 | 第9因45 | 160 | 第10因50 | 203 | 第11因54 | 246 | 第14因69 |
| 32 | 第4図16 | 75 | 第7図33 | 118 | 第9因45 | 165 | 第10因50 | 204 | 第12因56 | 247 | 第14因69 |
| 33 | 第4図16 | 76 | 第7図33 | 119 | 第9因45 | 165 | 第10因50 | 205 | 第12因57 | 248 | 第14因69 |
| 34 | 第4図17 | 77 | 第7図33 | 120 | 第8因45 | 163 | 第10因49 | 206 | 第12因57 | 249 | 第15因71 |
| 35 | 第4図17 | 78 | 第7図33 | 121 | 第9因44 | 164 | 第10因49 | 207 | 第12因57 | 250 | 第15因71 |
| 36 | 第4図17 | 79 | 第7図34 | 122 | 第9因44 | 165 | 第11因51 | 208 | 第12因57 | 251 | 第15因71 |
| 37 | 第4図17 | 80 | 第7図33 | 125 | 第9因44 | 166 | 第11因51 | 209 | 第12因58 | 252 | 第15因79 |
| 38 | 第4図16 | 81 | 第7図35 | 124 | 第9因45 | 167 | 第11因51 | 210 | 第12因58 | 253 | 第15因79 |
| 39 | 第4図18 | 82 | 第7図35 | 125 | 第8因42 | 168 | 第11因51 | 211 | 第12因58 | 254 | 第15因79 |
| 40 | 第4図18 | 83 | 第7図35 | 126 | 第8因42 | 169 | 第11因51 | 212 | 第12因58 | 255 | 第15因79 |
| 41 | 第5図19 | 84 | 第7図35 | 127 | 第8因42 | 170 | 第11因51 | 213 | 第12因58 | 256 | 第15因79 |
| 42 | 第5図20 | 85 | 第7図35 | 128 | 第8因42 | 171 | 第11因51 | 214 | 第12因58 | 257 | 第15因79 |
| 43 | 第5図20 | 86 | 第7図36 | 129 | 第9因43 | 172 | 第11因51 | 215 | 第12因59 | 258 | 第15因79 |

第21図 岩手県内製鉄遺跡位置図20

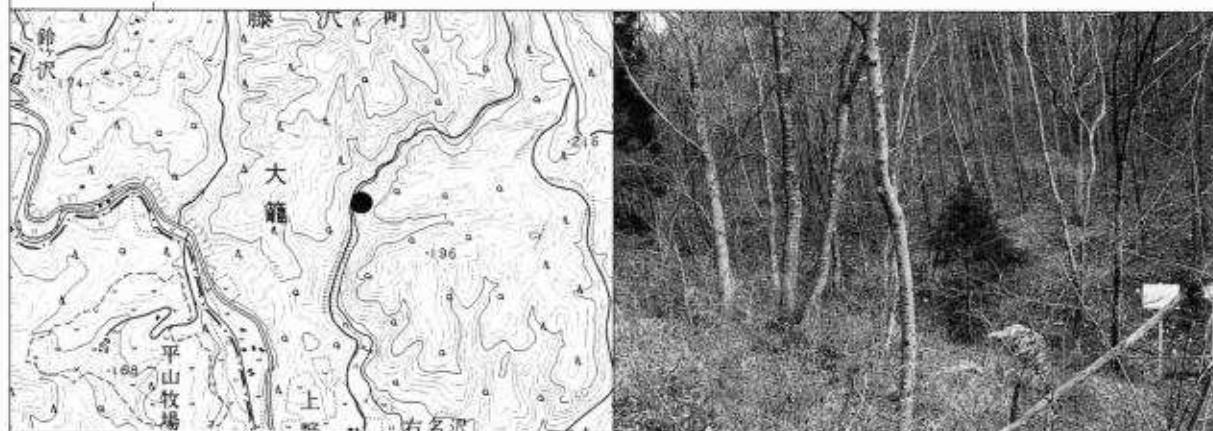
| | | | | | | | |
|-------|---|--------------------------|--------------------------------|----------|------|--------------------|--|
| No. | 55 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・位置コード< >・別称 | 天梅烟屋 (てんばいどうや) 〔NF 82-2315〕 | | | | |
| 所在地 | 東磐井郡千歳町奥玉宇川崎1-11 | | | | 図幅 | NJ54-14-11-1 折壁 | |
| 立地・目印 | 山麓の西側斜面に立地する。主要地方道住田室根線からは東に約500m地点に位置する。 | | 標高 | 270~290m | 種別 | 近世の烟屋跡として周知されている。 | |
| 時期 | 近世 | | 現況 | 山林、原野 | 残存状況 | 良好 | |
| 遺構・遺物 | 高殿、排滓場、流出津、炉壁 | | | | 文献 | | |
| 備考 | 鉄滓散布範囲は広く、量も多い。 | | | | | | |



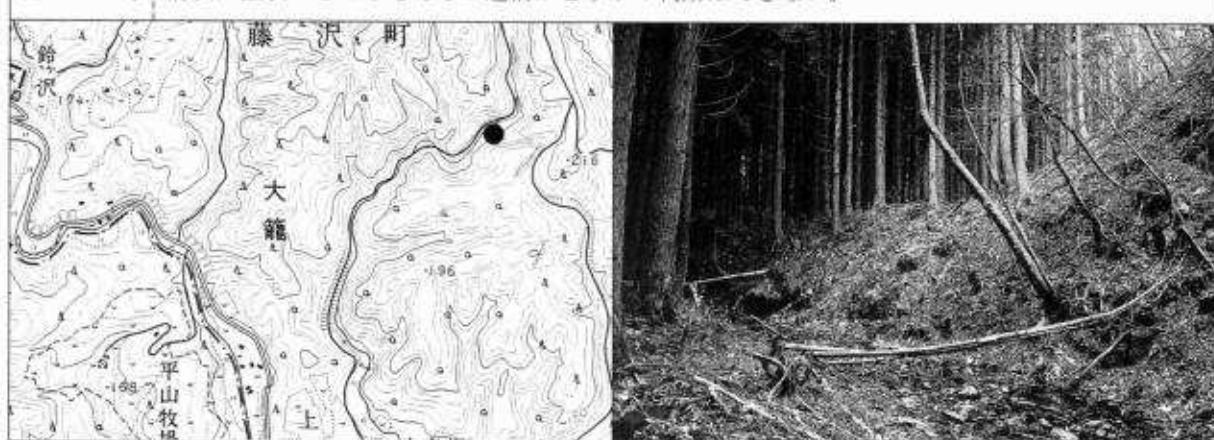
| | | | | | | | |
|-------|---|--------------------------|---------------------------------|----------|------|--------------------|--|
| No. | 69 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・位置コード< >・別称 | 霞沢烟屋 (かすみさわどうや) 〔NF 51-2065〕 | | | | |
| 所在地 | 東磐井郡大東町字霞沢 | | | | 図幅 | NF54-14-10-4 沖田 | |
| 立地・目印 | 丘陵地、南側緩斜面に立地し、県道からは南東に約500m地点に位置する。 | | 標高 | 150~170m | 種別 | 製鉄関連遺跡の可能性あり。 | |
| 時期 | 近世 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 良好 | |
| 遺構・遺物 | 排滓場、平場？、鉄滓 | | | | 文献 | | |
| 備考 | 沢状のくぼ地に鉄滓が散布し、範囲は広い。また周囲に平場と思われる所もあるが、操業場所であったかは不明。 | | | | | | |



| | | | | | | | |
|-------|---------------------------|------------------------------|--|-----------|------|--------------------|----------------------------|
| No. | 73 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 沢入洞屋Ⅰ（さわいりどうやⅠ） [O E 4 2 - 1 2 2 2] | | | | |
| 所 在 地 | 西磐井郡藤沢町大籠沢の入 | | | | 幅 | NJ54-14-12-1 馬籠 | |
| 立地・目印 | 山麓の斜面で沢野入沢川上流部、沢の左岸に立地する。 | | 標高 | 約150~155m | | 種別 | 製鉄関連遺跡、縄文時代の散布地として周知されている。 |
| 時 期 | 近世 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 良好 | |
| 遺構・遺物 | 高殿等の整地層、平場、排溝場、石積遺構1基、鐵滓 | | | | 文献 | | |
| 備 考 | | | | | | | |



| | | | | | | | |
|-------|-----------------------------------|------------------------------|--|-------|------|--------------------|---------------|
| No. | 74 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 沢入洞屋Ⅱ（さわいりどうやⅡ） <O F 4 2 - 1 2 1 1> | | | | |
| 所 在 地 | 西磐井郡藤沢町大籠沢の入 | | | | 図幅 | NJ54-14-12-1 馬籠 | |
| 立地・目印 | 山麓の斜面で沢野入沢川上流、沢入洞屋（1）よりさらに上流側にある。 | | 標高 | 約200m | | 種別 | 製鉄関連遺跡の可能性あり。 |
| 時 期 | 不明 | | 現況 | 山林、原野 | 残存状況 | 良好 | |
| 遺構・遺物 | 平場、排溝場、鐵滓 | | | | 文献 | | |
| 備 考 | 溝状、窪状のところもあるが遺構かどうかの判断はできない。 | | | | | | |



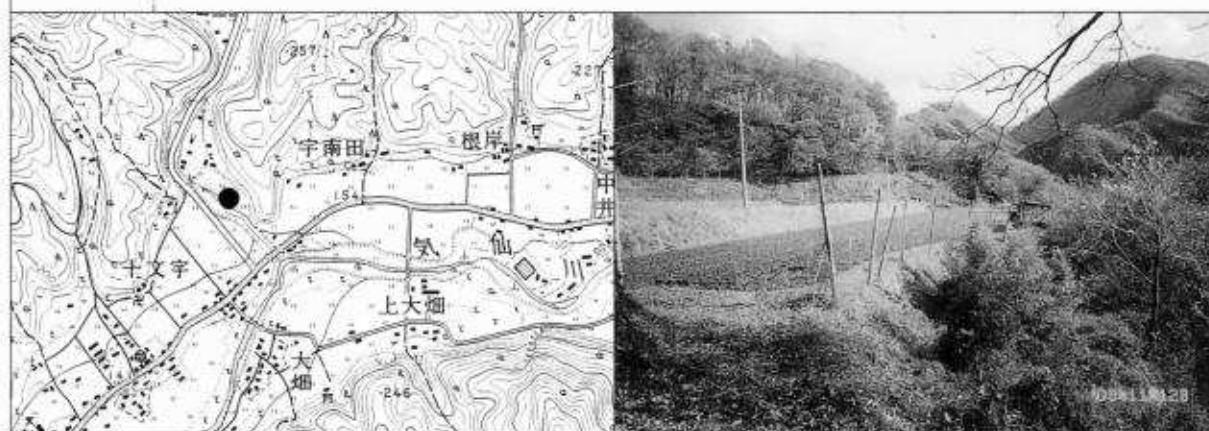
| | | | | | | | |
|-------|---------------------------------|------------------------------|----------------------------------|-------------|------|----------------------------|--|
| No. | 92 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 浮野製鉄跡（うきのせいてつあと） <OF 12-2357> | | | | |
| 所 在 地 | 東磐井郡室根村津谷川浮野 | | | | 図幅 | NF54-14-11-2 津谷川 | |
| 立地・目印 | 津谷川左岸、山麓地の西側緩斜面に立地し、本吉室根線に隣接する。 | | 標高 | 241~250m | 種別 | 浮野遺跡は縄文時代の遺物散布地として周知されている。 | |
| 時 期 | 近代 | | 現況 | 山林、荒地、原野、道路 | 残存状況 | 一部破壊 | |
| 遺構・遺物 | 整地層、排溝場、炉壁、鉄滓 | | | | 文献 | | |
| 備 考 | 石碑（馬頭観音、八幡）周辺に鉄滓が散布している。 | | | | | | |



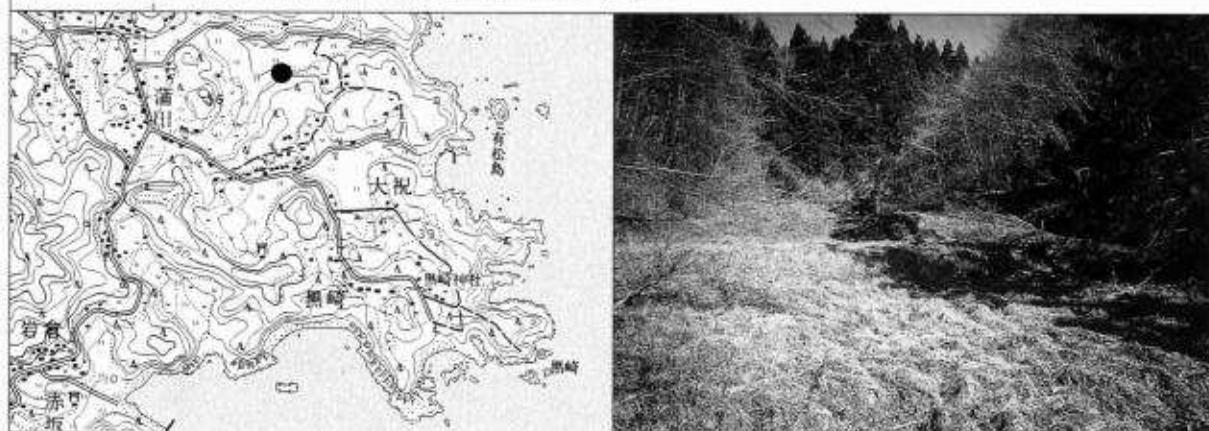
| | | | | | | | |
|-------|---|------------------------------|-------------------------------|-----------|------|----------------------|--|
| No. | 118 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 横沢烟屋（よこさわどうや） <MF 84-2219> | | | | |
| 所 在 地 | 気仙郡住田町下有住奥新切（横沢上流） | | | | 図幅 | NJ54-14-5-4 陸前八日町 | |
| 立地・目印 | 山麓の東斜面に立地する。国道340号線の高瀬から西に約2.5km進み、横川林道を約4km北に進んだ地点に位置する。 | | 標高 | 580~590m? | 種別 | 近世の烟屋跡として周知されている。 | |
| 時 期 | 近世 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 良好 | |
| 遺構・遺物 | 凹地、平場、溝、石積、鉄滓 | | | | 文献 | | |
| 備 考 | 過去の踏査記録なし？ | | | | | | |



| | | | | | | | |
|-------|---|------------------------------|------------------------------|----------|------|----------------------|--|
| No. | 120 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 廻館焗屋（まだちどうや） <MF 95-2353> | | | | |
| 所在 地 | 気仙郡住田町下有住字十文字 | | | | 図幅 | NJ54-14-5-4 陸前八日町 | |
| 立地・目印 | 新切川左岸の段丘上に立地し、国道340号線から蕨峠方向へ約300m地点に位置する。 | | 標高 | 150~160m | 種別 | 製鉄関連遺跡 | |
| 時 期 | 近世（20C） | | 現況 | 水田、農道 | 残存状況 | 破壊 | |
| 遺構・遺物 | 多量の鐵滓が出土する。遺構は壊滅状態。 | | | | 文献 | 19・20・96 | |
| 備 考 | 大正7年から1年間稼働。 | | | | | | |



| | | | | | | | |
|-------|---------------------------|------------------------------|---------------------------------|-------|------|----------------------------|--|
| No. | 133 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 大祝鍛冶場（おおいわいかじば） [NF 89-1140] | | | | |
| 所在 地 | 陸前高田市広田町字大祝 | | | | 図幅 | NJ54-14-3-3, 7-1 陸前広田 | |
| 立地・目印 | 段丘緩斜面に立地する。大祝遺跡の標識が目印になる。 | | 標高 | 10m前後 | 種別 | 大祝遺跡は縄文時代の遺物散布地として周知されている。 | |
| 時 期 | 製鉄関連時期は不明 | | 現況 | 荒地、畠地 | 残存状況 | 一部破壊 | |
| 遺構・遺物 | 羽口、鐵滓、遮熱用壁板状土製品 | | | | 文献 | 19・20 | |
| 備 考 | 資料は陸前高田市立博物館に保管されている。 | | | | | | |



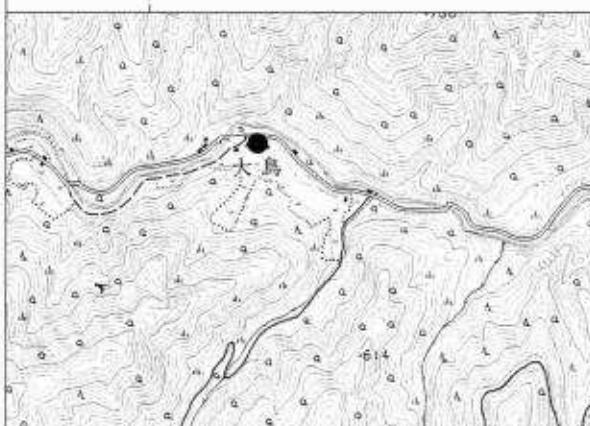
| | | | | | | | |
|-------|------------------------------------|------------------------------|------------------------------------|----------|------|----------------------|--|
| No. | 141 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 越猪沢窯場Ⅰ（おっちょざわどうやⅠ） <NF 34-1090> | | | | |
| 所在地 | 陸前高田市矢作町字越猪沢 | | | | 図幅 | NJ54-14-10-1 鷹ノ巣山 | |
| 立地・目印 | 山地の南斜面に立地する。大松沢林道から西に約1km地点に削平地あり。 | | 標高 | 440～450m | 種別 | 製鉄関連遺跡 | |
| 時期 | 近世 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 良好 | |
| 遺構・遺物 | 削平地、池（窪地）、鉄滓 | | | | 文献 | 19・20 | |
| 備考 | | | | | | | |

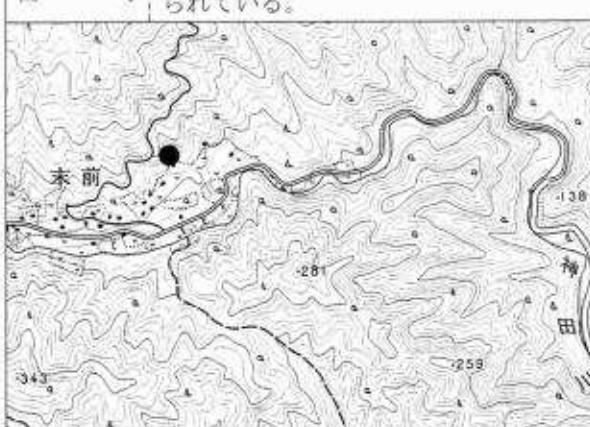


| | | | | | | | |
|-------|--|------------------------------|---|----------|------|----------------------|--|
| No. | 158 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 宝生（勝）山窯場（ほうしょうやまどうや） 〔NF 23-2329〕 ドヤバ、ドウヤバ | | | | |
| 所在地 | 陸前高田市矢作町字的場 | | | | 図幅 | NJ54-14-10-1 鷹ノ巣山 | |
| 立地・目印 | 山麓の北西斜面に立地する。清水川から西大松沢林道を約5.6km進んだ地点に位置する。 | | 標高 | 530～550m | 種別 | 製鉄関連遺跡 | |
| 時期 | 近世（19C） | | 現況 | 山林、道路 | 残存状況 | 良好 | |
| 遺構・遺物 | 製鉄関連の遺構と考えられるものが存在し、鉄滓は大量に出土する。 | | | | 文献 | 19・20・96 | |
| 備考 | 過去にも踏査が行われ、大量の鉄滓が見つかっている。 | | | | | | |

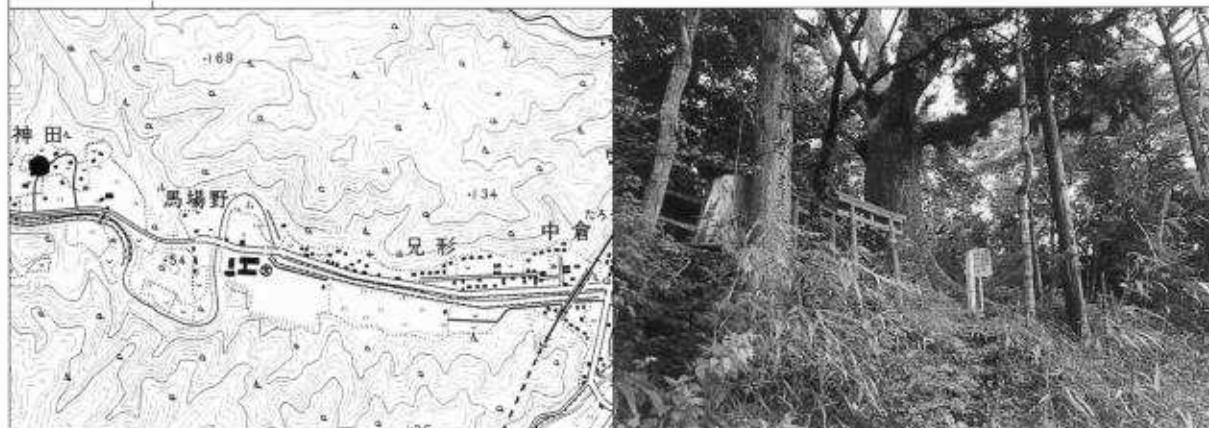


| | | | | | | |
|-------|---------------------------|------------------------------|------------------------------|----------|------|------------------------|
| No. | 221 | 遺跡名・遺跡コード【 】・ 位置コード< >・別称 | 上の山遺跡（うえのやま） [MF 34-2388] | | | |
| 所在 地 | 遠野市松崎町光興寺字上の山 | | | | 図幅 | NJ54-13-8-4 土淵 |
| 立地・目印 | 山麓の東斜面に立地し、横田城の西側に位置する。 | | 標高 | 320～330m | 種別 | 縄文・古代の遺物散布地として周知されている。 |
| 時 期 | 近世、不明 | | 現況 | 原野、牧草地 | 残存状況 | 良好？ |
| 遺構・遺物 | 高殿2、鍛冶場跡、鉄滓、炉壁 | | | | 文献 | |
| 備 考 | 松崎町内会発行『まつざき歴史がたり』(平成13年) | | | | | |
| | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|---------------------|------------------------------|-------------------------------------|---|----|-------------------|-----------------------|--|--|
| No. | 226 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 大鳥Ⅱ遺跡（おおとりⅡ） 〔K F 1 7 - 0 0 6 4〕 | | | | | | |
| 所在地 | 下閉伊郡岩泉町安家折壁 | | | | 図幅 | NJ54-13-5-1 安家 | | | |
| 立地・目印 | 安家川右岸の段丘上に立地する。 | | 標高 | 440~460m | | 種別 | 縄文時代の遺物散布地として周知されている。 | | |
| 時期 | 製鉄関連時期は不明 | | 現況 | 畠 | | 残存状況 | 不明 | | |
| 遺構・遺物 | 鉄滓、羽口 | | | | 文献 | なし | | | |
| 備考 | 大鳥伝説（落武者を案内した大鳥の住処） | | | | | | | | |
|  | | | |  | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|------------------------------|----------------------------------|--|----|-------------------|---------------|--|--|
| No. | 250 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 末前保土馬遺跡（すえまえほどば） <KG 93-0190> | | | | | | |
| 所在地 | 下閉伊郡田老町大字末前第6地割字末前 | | | | 図幅 | NJ54-7-14-4 田老 | | | |
| 立地・目印 | 山間部の沢地形、保土場沢の右岸側に立地する。 | | 標高 | 220~230m | | 種別 | 製鉄関連遺跡の可能性あり。 | | |
| 時期 | 近世（18C） | | 現況 | 山林 | | 残存状況 | 良好 | | |
| 遺構・遺物 | 高殿跡？、鉄滓 | | | | 文献 | なし | | | |
| 備考 | 家号を保土場とする西野家の伝承によると、家裏には鉄吹をした15代前の屋敷跡があると伝えられている。 | | | | | | | | |
|  | | | |  | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------|--------------------------|------------------------------|------------------------------|--------|------|-------------------------------|--|
| No. | 253 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 神田北遺跡（かんだきた） 〔KG 93-2331〕 | | | | |
| 所在 地 | 下閉伊郡田老町第18地割字館ヶ森 | | | | 図幅 | NJ54-7-14-4 田老 | |
| 立地・目印 | 神田川左岸に立地し、白山神社付近が 目印。 | | 標高 | 20~30m | 種別 | 縄文時代の遺物散布 地として周知されて いる。 | |
| 時 期 | 製鉄関連時期は不明 | | 現況 | 山林、住宅等 | 残存状況 | 良好 | |
| 遺構・遺物 | 鉄滓 | | | | 文献 | | |
| 備 考 | | | | | | | |



| | | | | | | | |
|-------|---|------------------------------|-------------------------------|----------|------|-------------------|--|
| No. | 254 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 後ヶ沢遺跡（うしろがさわ） 〔LG 30-0069〕 | | | | |
| 所在 地 | 下閉伊郡新里村刈屋15手打ヶ洞 | | | | 図幅 | NJ54-13-3-3 茂市 | |
| 立地・目印 | 後ヶ沢右岸の段丘上に立地し、国道340 号線から北側に約300mの地点に位置す る。 | | 標高 | 140~150m | 種別 | 製鉄関連遺跡の可 能性あり。 | |
| 時 期 | 近世 | | 現況 | 住宅、畑 | 残存状況 | 良好 | |
| 遺構・遺物 | 堀場跡、鉄塊 | | | | 文献 | なし | |
| 備 考 | 新里村教育委員会（2000）：新里中学校建設計画に係わる地表観察で鉄塊系遺物が表採されて いる。地権者後ヶ沢家の伝承では先祖が鍛冶屋であったといわれている。 | | | | | | |

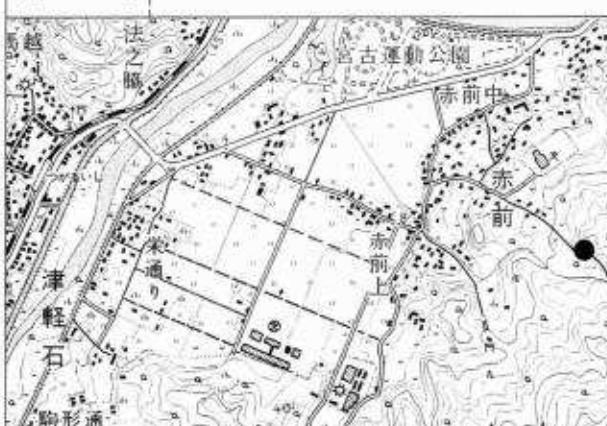


| | | | | | |
|-------|--|--------------------------|---------------------------------|------|-------------------|
| No. | 258 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・位置コード< >・別称 | 北山芋沢遺跡（きたやまいもざわ） <LG20-1022> | | |
| 所在 地 | 下閉伊郡新里村刈屋北山 | | | 図幅 | NJ54-13-3-3 茂市 |
| 立地・目印 | 北山川と芋沢に挟まれた斜面に立地する。常磐山大山祇神社が目印。 | 標高 | 310~340m | 種別 | 製鉄関連遺跡の可能性あり。 |
| 時 期 | 不明 | 現況 | 山林、住宅、水田 | 残存状況 | 一部破壊？ |
| 遺構・遺物 | 鉄滓、羽口 | | | 文献 | 100 |
| 備 考 | 大家鳥取家、沢家鳥取家周辺に鉄滓が散見される。また、館ヶ洞鳥取家に鉄滓集積地があったとの伝承がある。 | | | | |
| | | | | | |

| | | | | | |
|-------|--|--------------------------|----------------------------------|------|-----------------------|
| No. | 260 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・位置コード< >・別称 | 刈屋中里Ⅱ遺跡（かりやなかさとⅡ） [LF29-1116] | | |
| 所在 地 | 下閉伊郡新里村刈屋中里 | | | 図幅 | NJ54-13-7-1 陸中川井 |
| 立地・目印 | 刈屋川右岸の河岸段丘上に立地し、JR岩泉線中里駅から北約250m地点に位置する。 | 標高 | 110~120m | 種別 | 縄文・古代の複合遺跡として周知されている。 |
| 時 期 | 製鉄関連時期は不明 | 現況 | 道路、住宅等 | 残存状況 | 良好 |
| 遺構・遺物 | 平場（神社境内）、鉄滓 | | | 文献 | 100 |
| 備 考 | | | | | |
| | | | | | |

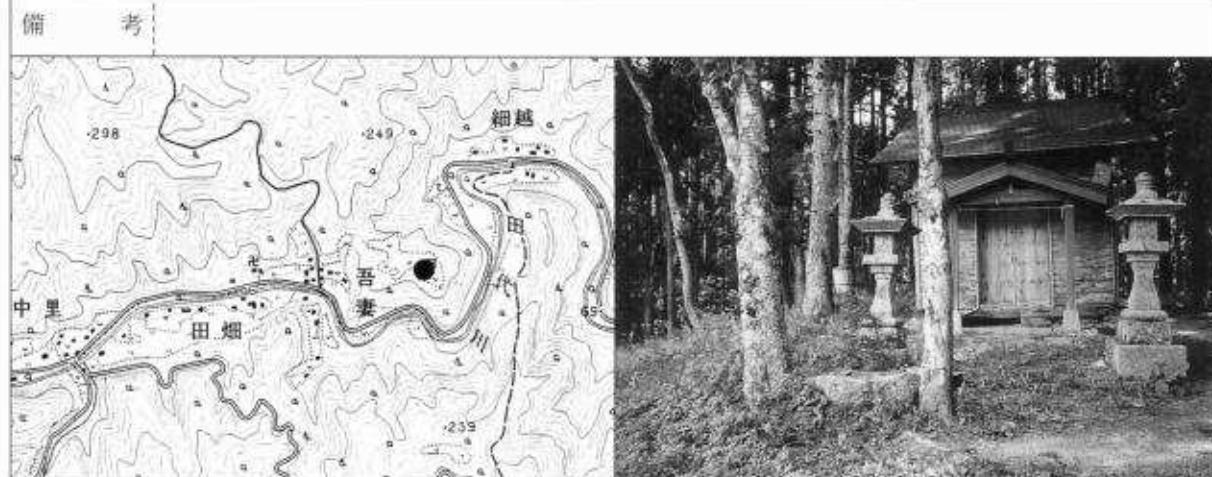
| | | | | | | | | | |
|-------|--|------------------------------|----------------------------|--------|------|--------------------|--|--|--|
| No. | 271 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 繫Ⅱ遺跡(つなぎⅡ) <LG 64-2080> | | | | | | |
| 所在 地 | 下閉伊郡山田町豊間根1繫 | | | | 図幅 | NJ54-13-3-2 津軽石 | | | |
| 立地・目印 | 山麓の平場で繫Ⅰ遺跡・鈴掛神社から南東に約350m地点に位置する。 | | 標高 | 60~70m | 種別 | 製鉄関連遺跡の可能性あり。 | | | |
| 時 期 | 不明 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 良好 | | | |
| 遺構・遺物 | 平場、鉄滓 | | | | 文献 | 94参考 | | | |
| 備 考 | 南西の沢地に「カラカンタイラ」という名があり、姥捨て伝説が残る。また、製鉄の操業に猿の集団が係わったという伝説があり、古地名は「猿田」、「二十四枚田」であったと伝承される。 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------|--|------------------------------|-------------------------------|--------|------|--------------------|--|--|--|
| No. | 272 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 島田IV遺跡(しまだIV) <LG 73-0331> | | | | | | |
| 所在 地 | 下閉伊郡山田町豊間根4島田 | | | | 図幅 | NJ54-13-3-2 津軽石 | | | |
| 立地・目印 | 山間部の沢地形で、島田沢右岸の段丘上に立地。島田鉱泉から西約600m地点に位置する。 | | 標高 | 40~50m | 種別 | 製鉄関連遺跡の可能性あり。 | | | |
| 時 期 | 不明 | | 現況 | 住宅 | 残存状況 | 一部破壊 | | | |
| 遺構・遺物 | 平場、鉄滓 | | | | 文献 | 94参考 | | | |
| 備 考 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

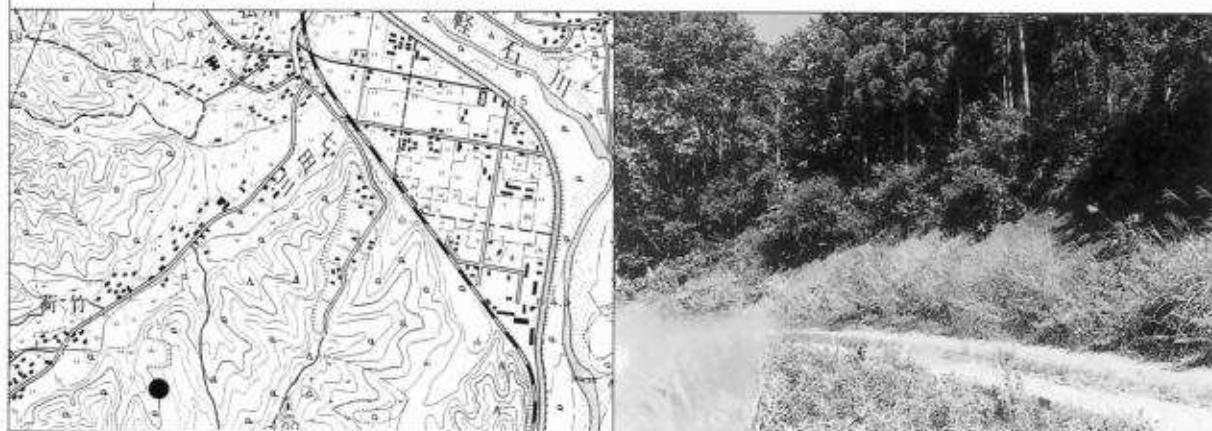
| | | | | | | | | | |
|-------|--|--------------------------|---------------------------------|--------|---|--------------------|--|--|--|
| No. | 273 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・位置コード< >・別称 | 赤前辰沢遺跡（あかまえたつざわ） <LG54-1049> | | | | | | |
| 所在地 | 宮古市赤前 | | | | 図幅 | NJ54-13-3-2 津軽石 | | | |
| 立地・目印 | 山麓の沢地形で辰沢右岸の斜面に立地。赤前中学校から南東約600m地点に位置する。 | | 標高 | 55~65m | 種別 | 製鉄関連遺跡 | | | |
| 時期 | 不明 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 一部破壊 | | | |
| 遺構・遺物 | 平場、鉄滓、羽口 | | | | 文献 | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | |
| |  | | | |  | | | | |

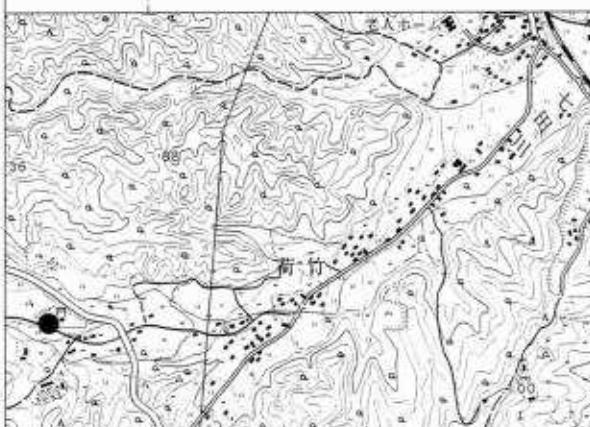
| | | | | | | | | | |
|-------|---|--------------------------|------------------------------|----------|--|-------------------------|--|--|--|
| No. | 276 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・位置コード< >・別称 | 臼杵IV遺跡（うすぎIV） <LG12-1270> | | | | | | |
| 所在地 | 宮古市田代第4地割田端 | | | | 図幅 | NJ54-7-14-4 田老 | | | |
| 立地・目印 | 山麓の東側斜面に立地する。梨木平—馬場線から北約200mに位置する。 | | 標高 | 290~300m | 種別 | 遺物散布地として周知されているが、時期は不明。 | | | |
| 時期 | 不明 | | 現況 | 畠 | 残存状況 | 良好 | | | |
| 遺構・遺物 | 平場、鉄滓 | | | | 文献 | 69 | | | |
| 備考 | 臼杵IV遺跡の西端部で遺構・遺物がみつかっている。 | | | | | | | | |
| |  | | | |  | | | | |

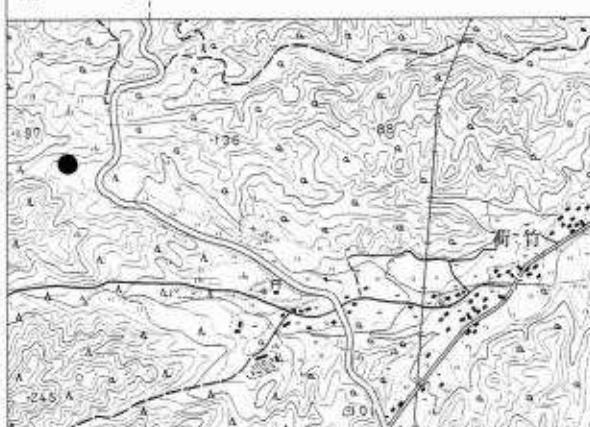
| | | | | | | | |
|-------|------------------------|-------------------------|--------------------------------|----------|------|-------------------|-------|
| No. | 280 | 遺跡名・遺跡コード【 】・位置コード<>・別称 | 田代館跡 (たしろたてあと) [LG 03-2039] | | | | |
| 所在 地 | 宮古市田代第18地割館 | | | | 図幅 | NJ54-7-14-4 田老 | |
| 立地・目印 | 田代川左岸の段丘上に立地する。八幡神社あり。 | | 標高 | 220~230m | | 種別 | 中世城館跡 |
| 時 期 | 製鉄関連時期は不明 | | 現況 | 山林、畠等 | 残存状況 | 良好 | |
| 遺構・遺物 | 主郭等城館関連の遺構、鉄滓 | | | | 文献 | 69 | |



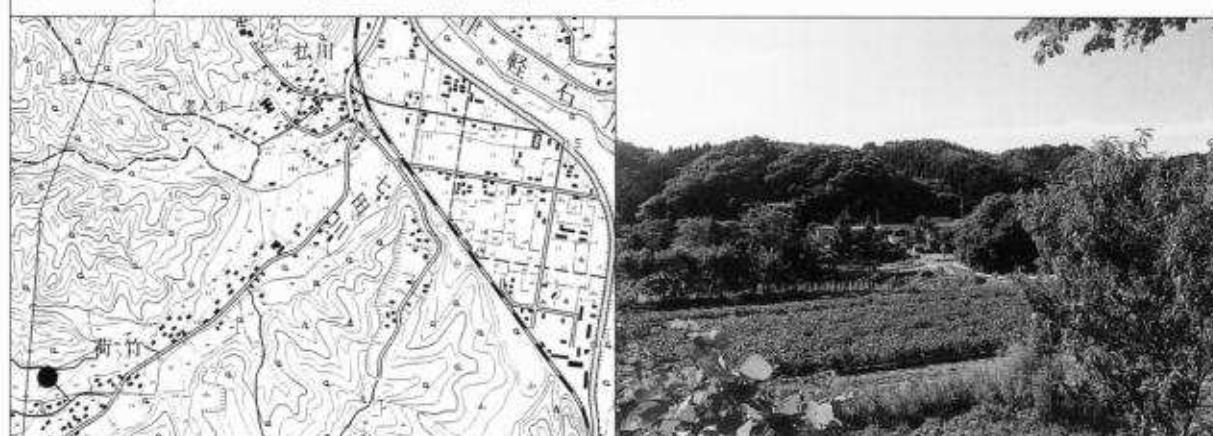
| | | | | | | | |
|-------|---|-------------------------|--|--------|------|--------------------|-------------------------|
| No. | 287 | 遺跡名・遺跡コード【 】・位置コード<>・別称 | 荷竹日影Ⅱ遺跡 (にちくひかげⅡ) [LG 63-0280]・荷竹鍛冶ヶ沢 | | | | |
| 所在 地 | 宮古市津軽石第15地割荷竹日影 | | | | 図幅 | NJ54-13-3-2 津軽石 | |
| 立地・目印 | 七田川支流のかんすが沢右岸の斜面に立地し、荷竹から石崎方面に向い約300m地点に位置する。 | | 標高 | 40~50m | | 種別 | 遺物散布地として周知されているが、時期は不明。 |
| 時 期 | 不明 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 一部破壊 | |
| 遺構・遺物 | 鉄滓、羽口、土器 | | | | 文献 | 69 | |
| 備 考 | 林道の法面にあり、一部崩落している。 | | | | | | |



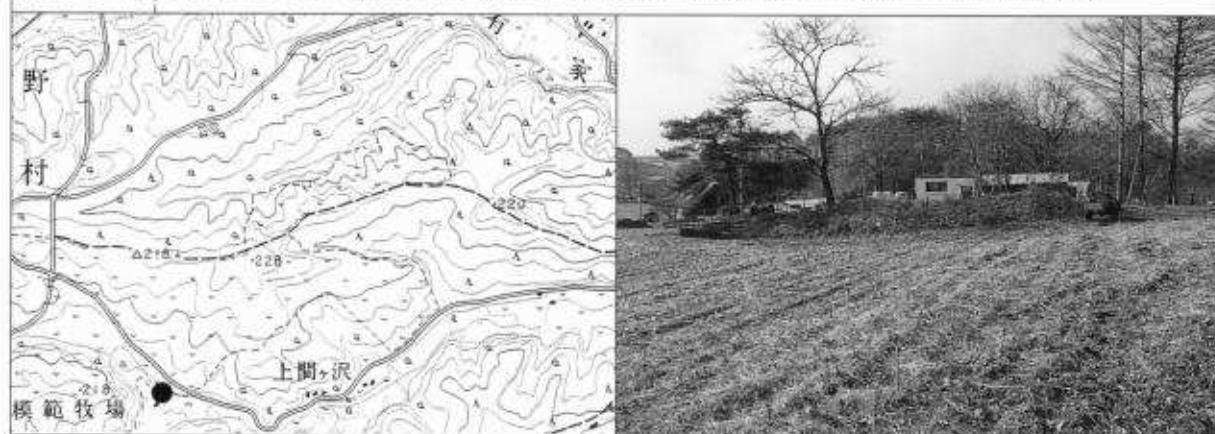
| | | | | | | | | | |
|-------|--|------------------------------|----------------------------------|--------|------|---------------------------------|--|--|--|
| No. | 290 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 荷竹米山Ⅰ遺跡（にちくよねやまⅠ） 〔LG63-0190〕 | | | | | | |
| 所在 地 | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山 | | | | 図幅 | NJ54-13-3-2 津軽石 | | | |
| 立地・目印 | 山麓の東側斜面に立地し、米山神社に隣接する。 | | 標高 | 60~70m | 種別 | 縄文・弥生・古代の 集落跡として周知さ れている。 | | | |
| 時 期 | 不明 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 一部破壊 | | | |
| 遺構・遺物 | 住居跡、炉跡、羽口？、鐵滓？、須恵器 | | | | 文献 | 69 | | | |
| 備 考 | | | | | | | | | |
| |   | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------|--|------------------------------|----------------------------------|----------|------|---------------------------------|--|--|--|
| No. | 292 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 荷竹米山Ⅴ遺跡（にちくよねやまⅤ） 〔LG63-0054〕 | | | | | | |
| 所在 地 | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向米山 | | | | 図幅 | NJ54-13-3-2 津軽石 | | | |
| 立地・目印 | 笹畠沢左岸の段丘上に立地し、県道か ら西約100地点に位置する。 | | 標高 | 120~130m | 種別 | 遺物散布地として周 知されているが、時 期は不明。 | | | |
| 時 期 | 不明 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 良好 | | | |
| 遺構・遺物 | 平場、鐵滓 | | | | 文献 | 69 | | | |
| 備 考 | | | | | | | | | |
| |   | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------|---------------------------------|------------------------------|---|--------|------|--------------------|--|
| No. | 296 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 荷竹日向V遺跡（にちくひなたV） [L G 6 3 - 0 1 7 4] | | | | |
| 所在 地 | 宮古市津軽石第16地割荷竹日向 | | | | 図幅 | NJ54-13-3-2 津軽石 | |
| 立地・目印 | 笹畠沢左岸の段丘上に立地し、県道から西約150地点に位置する。 | | 標高 | 35~45m | 種別 | 縄文散布地として周知されている。 | |
| 時 期 | 製鉄関連時期は不明 | | 現況 | 畠 | 残存状況 | 一部破壊 | |
| 遺構・遺物 | 鉄滓 | | | | 文献 | 69 | |
| 備 考 | 東西400mの農地全域に鉄滓の散布がみられる。 | | | | | | |



| | | | | | | | |
|-------|--|------------------------------|---|----------|------|---------------------|--|
| No. | 319 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 青笹鉄山（あおざさてつざん） < I F 9 7 - 1 3 2 4 > | | | | |
| 所在 地 | 九戸郡大野村大野第56地割上間沢 | | | | 図幅 | NF54-18-7-1 陸中大野 | |
| 立地・目印 | 段丘の南側緩斜面に立地する。道の駅大野から北東約1km地点に位置する。 | | 標高 | 175~185m | 種別 | 製鉄関連遺跡 | |
| 時 期 | 近世 | | 現況 | 原野、宅地 | 残存状況 | 一部破壊 | |
| 遺構・遺物 | 高殿、排滓場、鍛冶場、炉壁、流出滓、鍛冶滓 | | | | 文献 | 70 | |
| 備 考 | 文政12年に青笹鉄山の佐々木清作が寄進した初湯が東大野の神明社に保管されている。 | | | | | | |



| | | | | | |
|--|------------------------------------|--------------------------|---|------|--------------------------|
| No. | 331 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・位置コード< >・別称 | 金間部鉄山（かなまぶてつざん）〔JF17-0297〕・金間部Ⅱ遺跡 | | |
| 所 在 地 | 九戸郡大野村水沢第10地割 | | | 図幅 | NF54-18-7-2 大川目 |
| 立地・目印 | 山麓の西側斜面に立地し、水沢小学校から南東約1km地点に位置する。 | 標高 | 255～265m | 種別 | 縄文・平安時代の遺物散布地として周知されている。 |
| 時 期 | 近世 | 現況 | 山林、原野 | 残存状況 | 良好 |
| 遺構・遺物 | 高殿、排滓場、平場、製鐵滓、鍛冶滓、炉壁 | | | 文献 | 70 |
| 備 考 | 旧民家の西側に採掘坑跡（カナホッバ）があり砂鉄採掘場として文献にあり | | | | |
|  | | |  | | |

| | | | | | |
|---|---------------------------|--------------------------|--|------|--------------------|
| No. | 347 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・位置コード< >・別称 | 葛柄鉄山（くずがらてつざん）〔JF06-2101〕 | | |
| 所 在 地 | 九戸郡軽米町小軽米字市野々 | | | 図幅 | NF54-18-7-4 戸呂町 |
| 立地・目印 | 大野川左岸の段丘上に立地・大野川線沿いに位置する。 | 標高 | 300～320m | 種別 | 製鐵関連遺跡として周知されている。 |
| 時 期 | 近世 | 現況 | 畠地 | 残存状況 | 良好 |
| 遺構・遺物 | 鉄滓 | | | 文献 | 39・40・41 |
| 備 考 | | | | | |
|  | | |  | | |

| | | | | | | |
|--|---|------------------------------|--|----------|--------------------|-------------------|
| No. | 350 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 玉川鉄山A (たまかわてつざんA) [I F 9 5 - 1 3 8 4] | | | |
| 所在 地 | 九戸郡軽米町大字小軽米字屋敷 | | | 図幅 | NF54-18-7-3 小軽米 | |
| 立地・目印 | 丘陵地の緩斜面に立地し、国道395号線を北上し、たたらの沢沿いに位置する。 | | 標高 | 280~290m | 種別 | 製鉄関連遺跡として周知されている。 |
| 時 期 | 近世 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 良好 |
| 遺構・遺物 | 高殿、鉄滓、炉壁、金属製品、古銭、陶磁器 | | | | 文献 | 18・40・41 |
| 備 考 | S 60~62年度<第一次～第三次発掘調査> 軽米町教育委員会 S 63～H 3 年度<第四次～第七次発掘調査> " | | | | <県指定史跡> | |
|   | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|---|------------------------------|--|----------|--------------------|-------------------|
| No. | 351 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・ 位置コード< >・別称 | 玉川鉄山B (たまかわてつざんB) [I F 9 5 - 2 3 2 5] | | | |
| 所在 地 | 九戸郡軽米町大字小軽米字屋敷 | | | 図幅 | NF54-18-7-3 小軽米 | |
| 立地・目印 | 丘陵地の緩斜面に立地し、国道395号線沿いで玉川鉄山A入り口より東約400m地点に位置する。 | | 標高 | 290~300m | 種別 | 製鉄関連遺跡として周知されている。 |
| 時 期 | 近世 | | 現況 | 山林 | 残存状況 | 良好 |
| 遺構・遺物 | 高殿、鉄滓、炉壁、鐵製品、石器、古銭、陶磁器 | | | | 文献 | 18・40・41 |
| 備 考 | S 60~62年度<第一次～第三次発掘調査> 軽米町教育委員会 S 63～H 3 年度<第四次～第七次発掘調査> " | | | | <県指定史跡> | |
|   | | | | | | |

| | | | | | |
|--|--|--------------------------|---|------|--------------------|
| No. | 374 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・位置コード< >・別称 | 金取鉄山跡 (かねとりてつざんあと) 〔J F 2 5 - 1 3 2 1〕 | | |
| 所 在 地 | 九戸郡山形村大字戸呂町4地割 | | | 図幅 | NF54-18-7-4 戸呂町 |
| 立地・目印 | 戸呂川の支流沢左岸に立地し、戸呂町軽米線と大野山形線の分岐点から西に約2.5kmの位置する。 | 標高 | 320~330m | 種別 | 鉄山跡として周知されている。 |
| 時 期 | 近世 | 現況 | 山林、水田 | 残存状況 | 一部破壊 |
| 遺構・遺物 | 鉄滓 | | | 文献 | 42 |
| 備 考 | H 2 年度試掘調査・・・山形村教育委員会 | | | | |
|  | | |  | | |

| | | | | | |
|---|-------------------------------------|--------------------------|--|------|--------------------|
| No. | 381 | 遺跡名・遺跡コード〔 〕・位置コード< >・別称 | 繫鉄山跡 (つなぎてつざんあと) 〔J F 5 7 - 0 1 0 0〕 | | |
| 所 在 地 | 九戸郡山形村大字繫3地割 | | | 図幅 | NF54-18-8-1 岩瀬張 |
| 立地・目印 | 山間の沢沿いに立地し、繫小学校から細越峠方面に約1.7kmの位置する。 | 標高 | 420~430m | 種別 | 鉄山跡として周知されている。 |
| 時 期 | 近世 | 現況 | 山林 | 残存状況 | 良好 |
| 遺構・遺物 | 鉄滓、フイゴ羽口片、古銭、陶磁器片 | | | 文献 | 43 |
| 備 考 | H 2 年度試掘調査・・・山形村教育委員会 | | | | |
|  | | |  | | |

第3章 調査結果から見た岩手県の製鉄関連遺跡

これまでの調査結果をまとめると、岩手県内で鉄加工の痕跡が最初に現れるのが水沢市中半入遺跡で、5世紀代である。7世紀以降増加する古代の集落遺跡からも鉄製品や鍛冶加工の痕跡が現れており、加工技術の普及が伺える。特に山田町・大槌町などの沿岸部では8世紀代に鍛冶工房が増加する。

岩手県内で確認されている製鉄遺跡は山田町上村遺跡の8世紀代後半であるが、年代の決め手となる土師器片が排滓場から出土しているものの、炉の構造等が他の先行する鉄生産地と異なり、技術伝搬の上から問題が残る。802年に胆沢城が築かれ北上川流域の開発が進むと製鉄の道具の需要が高まり、9世紀前半には石鳥谷町大瀬川A遺跡などでも製鉄が開始される。しかし、古代の製鉄の中心になったのは良質な砂鉄が豊富に産出する沿岸部で、宮古市・山田町・大槌町などでは、9世紀に製鉄炉が増加し、鍛冶工房もさらに多くなり、10世紀でピークを迎える、一部11世紀まで継続するが、その後は不明瞭となる。

古代の鉄生産に限らず、海産物の交易も含め、内陸と沿岸の交流は活発であったと思われるが、宮古市長根I遺跡と山田町房の沢IV遺跡では海を見下ろす尾根上に築かれた古墳群から戉手刀をはじめとする多くの鉄製品・和同開珎や湖西産の須恵器・黒曜石や錫鉈などの副葬品が出土し、律令政府や東海地方から北方まで広い範囲と交易していた人々がいたことが明らかになっている。

古代三陸海岸の製鉄炉の形は半地下式の堅形炉だったようであるが、送風装置は明瞭でない。作業場のスペースからシーソー式の送風でないのは確実であり、8世紀前半に多賀城市柏木遺跡まで導入された製鉄法とは明らかに異なる。時代が下るにつれ大型の製鉄炉もみられるものの、構造的にはあまり認められず、ほかの地域と異なる発展を遂げたようである。

遺構は緩い傾斜地に作られ、上方に送風や原料投入の作業面が下方に排滓や還別の作業面が形成され、さらに下方に排滓場がみられることが多い。炉底には防湿を目的とした炭化物層などの簡単な地下構造があり、残存する炉壁は還元色を呈する。排滓は黒色または赤さび色をし、流出した形状を留めることが多い。操業回数にもよるが排滓と炉壁片や羽口片が混入しており、量も数百kgと多量であることが多い。炉壁にはスサが混入する例が多い。

鍛冶炉は、住居跡や独立した工房に営まれ、平坦な整地面に作られる。直径30cm前後の赤く酸化したボール状の窪みで、隣接して鉄砧石が設置され、周囲に鍛造剥片がみられる。炉の一部に輪羽口の設置痕が残ることもある。鍛冶津の形状は、炉の窪みを写した椀形を呈する。また、製鉄炉で作られた鉄素材を精錬したとみられる炉もあり、こちらは鍛冶炉よりやや大きめで、壁に還元色が残ることもある。椀形津も大型のものが多い。

三陸海岸は現在でも平地が少なく、これらの製鉄関連遺跡はわずかな広さでも利用しており、狭い尾根上に築かれることもあり、所在確認が困難である。そのため遺跡の発見は林道作業道の法面などで偶然発見されることが多い。

大瀬川A遺跡の製鉄技術は、志波城建設後の開拓に伴う技術者たちが持ち込んだ可能性があるが、製鉄遺跡の発掘事例のない時期の調査でもあり、その構造は明確でない。また、原料砂鉄が豊富な地域ともいえず、同地区で操業が長く継続した痕跡はない。馬淵川流域の一戸町大平遺跡でも古代の小規模な製鉄炉が検出されているが、継続して操業された形跡はない。

宮古市千徳館跡で調査された中世とされる製鉄炉は、古代の炉の形態が大型化したもののように

あるが、中世の発掘資料は少なく断定できない。砂鉄地帯から離れた花泉町寺の沢遺跡では小舟状の石組みの地下構造と多量の鉄滓・炉壁が出土している。そのほか中世の製鉄関連遺跡として、江刺市寺田遺跡で鋳造遺跡が、また宮古市山口館や一戸町一戸城などの中世城館で鍛冶工房が検出されている。

仙台藩では近世はじめに中国地方から積極的に新しい製鉄技術を導入し、増産を計った。炉材や差し鞴など送風装置の改良が大きな成果を上げたようで、その技術を他藩にも指導したので、南部藩はそれをも吸収し、近世後半には東日本を代表する製鉄地帯となつたとされている。

東磐井郡は砂鉄川や津谷川など風化花崗岩地帯を流れる川沿いに砂鉄採集の鉄穴（カンナ）流しの遺跡が多く残る。山中に用水路の跡（セキシロ）や貯水池の跡（ツツミ）が残り、水路を切り替えして流した跡が並行する涸れ沢となり、風化した花崗岩礫が寄せ集められ、異様な景観として残っている。砂鉄の採集地から製鉄地までの輸送路はスガネ道と呼ばれ、室根村津谷川から藤沢町保呂羽や千厩町尖の森に越える道や大東町内野から京津畠陸前高田市矢作町に越える道など、いまでもいくつか痕跡を留めている。製鉄炉は沢沿いに作られるのが一般的であるが、水気の少ない山上に作られている所もある。排滓は良好な製鉄技術を反映しているものか、よく発泡してスポンジ状になっているものが多い。

遠野市・釜石市・大槌町が接する和山高原や新山高原には鉄滓の山が多くあることが知られており、花崗岩地帯の砂鉄と周辺の豊富な森林を使用して製鉄が大規模に行われてきたことがあきらかである。時代の特定や変遷など未解明のことが多いが、18世紀初めに青ノ木での製鉄記事があることや栗林地区で針金作りが盛んだったこと等、高炉以前にも釜石周辺でたら製鉄が盛んに行われていたことが明らかである。

九戸・下閉伊地方の製鉄遺跡は沢沿いあるいは沢の合流する高台に形成されることが多く、かなり下流まで鉄滓が観察される。鉄滓をたどって遡上すると排滓場にたどり着くことになるが、途中で途絶えることもある。それは砂防ダムや養鶏場の建設など土木工事により遺跡が壊滅したことや道路に敷いた鉄滓の流れ込みがあったことなどが原因のようである。また、文献に載る大きな鉄山だけでなく、私炉あるいは野だたらと呼ばれる小規模な遺跡もある。製鉄炉に使用された粘土や珪石の採掘地も所により残っている。

藤沢町ドウメキ沢鉄山や岩泉町江川鉄山・軽米町玉山鉄山・梅の木沢製鉄遺跡などの近世製鉄の発掘調査で地下構造が明らかになり、永代たらに連なる小舟構造が存在することも明らかになつたが、小舟構造を持つ炉は定着しなかつたようである。地下構造は粘土と石で築いた舟状の防湿施設を作り、内部に木炭層を充填するのが基本で、その上に炉を築いている。また炉底以外の周囲も焼け土などほかの土砂で版築し、4本の押立柱で支えられる高殿内を整地している。鉄山の周囲には述べ鉄に加工する大鍛冶場や諸施設が作られ、周囲を柵で囲っていた記録があり、カゴイという地名が残されているところもある。

近世の製鉄遺跡は砂鉄源となる花崗岩地帯と段丘砂鉄の分布する東磐井郡から気仙地方と閉伊から九戸地方に分布するが、一戸町西嶽鉄山や浄法寺町錢座跡のように非花崗岩地帯に立地する例がある。鉄鉱石を利用する以前のたらであるので、その原料砂鉄確保について今後も追究する必要がある。また、生産コスト削減や加工技術向上等の努力は続けられており、幕末には天秤鞴や水車鞴の導入が行われている。高炉製鉄操業後も砂鉄を利用した川崎製鉄久慈工場は昭和42（1967）年まで操業されたほか、八戸市では下北半島の海岸砂鉄を原料とした電気炉や高周波炉による製鉄が昭和52年まで操業された。

大島高任の高炉製鉄成功後、鉄鉱石利用の高炉が大橋・橋野・栗林・砂子渡（以上釜石市）・佐比内（遠野市）に展開し、仙台藩の高炉が文久山・京津畠（以上大東町）にも操業された。釜石地区はその後官営になり、大規模な製鉄所として出発したが失敗し、民営化した発展した。文久山の系譜は栗木鉄山（住田町・1885～1920）として、また和賀地方の赤鉄鉱を使用した和賀仙人製鉄所（旧和賀町・1900～1920）が近代産業として日本の産業や地域経済に貢献した。

新沼鐵夫は、橋野高炉の発掘を企画し、実現させた富士製鉄職員であり、実家は釜石で「てつや」という旅館を経営していた。当時の所長が新沼氏の業績を高く評価し、製鉄実験や遺跡調査等を精力的に行い、磁鉄鉱の転石の一種である餅鉄を使って日本刀の原材料研究に打ち込んだが、思い半ばで倒れた。

菊池春雄氏は、貞任山が遠野に2つあり、製鉄に関連していることに興味を持ち、製鉄遺跡の踏査を始めたようだ。教員の定年前に退職し、夫人に生活を支えてもらって製鉄遺跡踏査を行ったといわれている。遺跡の種類や時期による違いなども検討したようだが、東日流外三郡誌に大きな影響を受け、独自の製鉄史を展開した。調査カードによると1988年12月の山田町の遺跡から始まり、1993年7月22日の山田町山ノ内Ⅱ遺跡の現地説明会まで、500以上のカードが作成されている。岩手県内が中心であるが、隣接する宮城県・秋田県・青森県にも多く足を運び、その精力的な調査足跡には驚嘆する。岩手県内だけでも396箇所を踏査あるいは情報収集している。後半は調査の間があき、ほぼ終了という感があり、また、体調を悪くした様子が現れているようでもある。

千葉房夫氏は東磐井の町村史をまとめるという理念のもと仙台藩領の製鉄史の研究に打ち込んだ。主に文献調査であるが晴耕雨読で膨大な資料を残した。

芦文八郎は芦東山先生の末裔として、文久山鉄山を築いた芦文十郎の事跡や祖先が広く東磐井の鉄山を経営した記録や史跡の調査を行いまとめている。国語の教師を退職後、芦東山先生記念館の館長をし、大東町の文化財調査を行っている。

第4章 製鉄遺跡調査のまとめ

今回、岩手県教育委員会が行った製鉄関連遺跡の悉皆調査は、生産遺跡として非常に重要であるが、人里離れた山中に存在することが多く、把握は難しい面があるが、早急に基礎資料の蓄積が求められているという状況に対応して行われたものである。

鉄の生産遺跡に限らないが、人類の生活痕跡はそのまま保存されることは少ない。立地条件の良い居住域は繰り返し利用され、古い遺跡の上に新しい生活が営まれる。また、特別の条件で立地する遺跡でも、部材がリサイクルするために移動することがある。不幸にして人目に触れないまま自然災害や開発の波にのまれ壊滅する場合もある。

古代から近世までの製鉄関連遺跡は、炉床や炉壁あるいは炉の地下部分と排滓場、建物痕跡などと、建物としては工具や羽口・鉄砧石・排滓などが残る。排滓の一部は、鉄材不足の時期に鉄分回収のために搬出された所もある。また林道建設や道路補修の骨材として利用されたこともあり、本来あった場所から移動している場合もある。そのため確認される遺物の量や種類・出土状況を吟味した上で遺跡の設定をする必要がある。

近代高炉は切石や耐火煉瓦などで構築されているが、それだけに建築資材としての利用価値が高く、選び出したものも少なくない。建物の門や土台などになり、記録や伝承の残る場合もあるが、運び出したときの遺跡情報の記憶は、代替わりした時点で途絶えること多く調査が困難になっている。

また、これまでに多くの研究者によって県内の製鉄関連遺跡が調査されているが、遺跡登録のシステム上、市町村あるいは県の遺跡地図や台帳にそのすべてが掲載されているとはいえない。今回、多くの方々の協力を得て3年間で県内限無く調査を行い、その結果を集約するように努力したが、諸々の制約もあり必ずしも全ての遺跡を網羅していないと思われる。

調査の結果、過疎地だけでなく、人為的な地形の改変や自然の荒廃などが進み、実態が不明な遺跡もあることが明らかになった。逆に、新たに発見された遺跡もある。中でも下閉伊地方の遺跡数の増加は群を抜いており、古代から鉄生産の中心地であったことが明確になったようである。

製鉄関連遺跡を含めた生産遺跡については、時代にもよるが原料採取から生産、そして廃棄、場合によっては再利用などいろんな行程がある。どの作業工程の遺跡が分布調査で確認できるのか、時期や場所により把握が困難な問題でもある。特に砂鉄採集地の鉄穴流の跡などは広大で全体の状況確認が難しい。近世製鉄に関連し、たとえば室根村教育委員会では、遺跡調査と文献資料の研究成果を組み合わせ、鉄穴流遺跡も地域の重要な歴史遺産として把握している。

今回の調査で現地確認できなかった地区でも、市町村教育委員会で発行した諸調査報告書や先人の調査記録に残る遺跡で確実性が高いものはこの報告書には参考資料として採用している。今後も新たに加わる遺跡が増加する可能性はあるが、隨時その資料も組み込んで調査研究を進めて頂き、遺跡の保存・活用に役立てて頂ければ幸いである。

第11表 岩手県内製鉄遺跡関連文献一覧表（1）

| NO. | 著 者 | 刊行年 | 論文名・書名 | 雑誌名・シリーズ名 | 巻数・号数 | 発 行 所 |
|-----|--------------|------|----------------------------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 | 浅井重二 | 1964 | 綿沼の民俗文化 | | | 開拓堂 |
| 2 | 浅井重二 | 1980 | 鉄製農具と樹木の研究 | | | 法政大学出版局 |
| 3 | 齊美八郎 | 1983 | 越後上田金 | 講談社日本技術小社会史 | 第5巻 | 日本評論社 |
| 4 | 齊美八郎 | 1988 | 仙台藩作式高炉のはじめ・文久山 | | | 齊美先生記念館 |
| 5 | 芦又八郎 | 1991 | 大東町の歴文化 | | | |
| 6 | 内村義功 | 1985 | たたら製鉄 | 季刊考古学 | 第13号 | 雄山閣出版 |
| 7 | 船田賢一 | 1978 | 歴の語る日本の歴史上 下 | そしあで文書1・2 | | そしあで書房 |
| 8 | 船田賢一 | 1982 | 日本人と鉄 | | | 有斐閣 |
| 9 | 桜橋 順 | 1973 | 文久山遺跡第二次調査報告 | | | 岩手県教育委員会 |
| 10 | 森坂 伸洋 | 1968 | 一関市霞草製鉄遺跡発掘結果 | | | 一関市教育委員会 |
| 11 | 伊藤清司 | 1949 | 近安藍山經營における高炉の意義（草稿） | 岩手史研究 | 4号 | 岩手史学会 |
| 12 | 岩手県産業文化財センター | 1960 | 粗粒道路整備調査報告書 | 岩手県文化振興事業団理蔵文化財調査報告書 | 第96集 | (財)岩手県文化振興事業団理蔵文化財センター |
| 13 | 岩手県産業文化財センター | 1966 | 沼尻日置跡等概査報告書 | 岩手県文化振興事業団理蔵文化財調査報告書 | 第97集 | (財)岩手県文化振興事業団理蔵文化財センター |
| 14 | 岩手県産業文化財センター | 1988 | 残石鳥居工事跡調査報告書 | 岩手県文化振興事業団理蔵文化財調査報告書 | 第129集 | (財)岩手県文化振興事業団理蔵文化財センター |
| 15 | 岩手県産業文化財センター | 1989 | 夏木遺跡発掘調査報告書 | 岩手県文化振興事業団理蔵文化財調査報告書 | 第134集 | (財)岩手県文化振興事業団理蔵文化財センター |
| 16 | 岩手県産業文化財センター | 2004 | 利の堂遺跡発掘調査報告書 | 岩手県文化振興事業団理蔵文化財調査報告書 | 第425集 | (財)岩手県文化振興事業団理蔵文化財センター |
| 17 | 岩手県産業文化財センター | 2004 | 中平入道跡第2次発掘調査報告書 | 岩手県文化振興事業団理蔵文化財調査報告書 | 第443集 | (財)岩手県文化振興事業団理蔵文化財センター |
| 18 | 岩手県立博物館 | 1990 | 志の歴文化 | | | 岩手県文化振興事業団 |
| 19 | 梅木卓二 | 1980 | 瀬戸内気候型鐵器製造史 | | | 雄山閣出版 |
| 20 | 梅木卓二 | 1994 | 氣仙地方の製鉄 | みちのくの熟一仙台藩例报鉄器の歴史と科学 | | 梅木卓二技術センター |
| 21 | 岡田廣吉 | 1978 | 岩手県芦野町小学校所蔵の水車式製鉄炉の種類について | 日本工業会誌 | 94 | |
| 22 | 岡田廣吉 | 1981 | 幕末の高炉用吹き成と在来製鉄法への展開 | 産業考古学論文特集号 | | |
| 23 | 岡田廣吉 | 1983 | 釜石熱風山地域の鍛錬（鍛錬）製造法 | 日本鉄史論集 | | たたら研究会 |
| 24 | 岡田廣吉 | 1983 | ザンギの研究 | 地学研究34 (-12) | | 日本地学研究会 |
| 25 | 岡田廣吉 | 1986 | 幕末から明治の高炉遺跡 | 日本の産業遺産 | | 玉川大学出版 |
| 26 | 岡田廣吉 | 1987 | ヒューリンによる高炉の紹介と釜石鉄山 | 鉄と鋼第73年 | | |
| 27 | 岡田廣吉 | 1988 | 釜石鐵山の開発－「縣民省令革報告」を中心として | | | 昭和63年度資源・農林開発研究会秋期大会 |
| 28 | 岡田廣吉 | 1988 | 南首領の「鐵山」と「鉄鉱山」について | | | |
| 29 | 岡田廣吉 | 1989 | 岩手県釜石市内松川流域の大漢高炉一再論－ | | | 新刊書入荷案・叢書学会 |
| 30 | 岡田廣吉 | | 仙台領の高炉製鉄 | 仙台郷土史研究 | 四巻二号 | |
| 31 | 岡田廣吉・加藤清一 | 1972 | 岩手県白山武山產高炉鉄鉱について | たたら研究 | 16号 | たたら研究会 |
| 32 | 岡田廣吉・加藤清一 | 1972 | いわゆる「餅鉄」について | たたら研究 | 16号 | たたら研究会 |
| 33 | 岡田廣吉・内曾生介 | 1987 | 佐世内鉄鉱山の発掘調査 | 金属性-2 | | |
| 34 | 岡田廣吉ほか | 1989 | 陸中郡東条鐵山開採史 | たたら研究 | 34号 | たたら研究会 |
| 35 | 加藤 幸 | 1978 | 宮古市半島遺跡発掘調査報告 | | | 宮古市教育委員会 |
| 36 | 鍛田裕二 | 1988 | 青ヶ丘上遺跡 | 宮古市埋蔵文化財調査報告書 | 第14集 | 宮古市教育委員会 |
| 37 | 高橋信雄ほか | 1988 | 五城熱山跡－第一開発部調査報告書－ | | | 縣央町教育委員会 |
| 38 | 佐々木清文ほか | 1992 | 五城熱山跡－第二開発部調査報告書－ | | | 縣央町教育委員会 |
| 39 | 本吉達輔 | 1997 | 鶴来町遺跡分布調査報告書1 (大字小鶴来地区) | | | 鶴来町教育委員会 |
| 40 | 鶴来町教育委員会 | 2001 | 鶴来町遺跡地図 | 鶴来町文化財調査報告書 | 第15集 | 鶴来町教育委員会 |
| 41 | 鶴来町文化財委員会 | 1975 | | 鶴来町誌 | | 鶴来町 |
| 42 | 川内石造ほか | 1990 | 山形村遺跡分布調査報告書1 | 山形村埋蔵文化財調査報告書 | 第1集 | 山形村教育委員会 |
| 43 | 川内石造ほか | 1993 | 山形村遺跡分布調査報告書2 | 山形村埋蔵文化財調査報告書 | 第2集 | 山形村教育委員会 |
| 44 | 川内石造ほか | 1992 | 山形村遺跡分布調査報告書3 | 山形村埋蔵文化財調査報告書 | 第3集 | 山形村教育委員会 |
| 45 | 鶴 光弘 | 2003 | 近畿たたら製鉄の歴史 | | | 丸善ブックス |
| 46 | 菊池泰男・萩原・鶴 | 1985 | 岩手における製鉄遺跡調査中間報告 | たたら研究会資料 | | たたら研究会 |
| 47 | 雄田龍郎 | 1973 | 改定歴の考古学 | | | 雄山閣出版 |
| 48 | 雄田龍郎 | 1988 | 縣の歴史 | | | 雄山閣出版 |
| 49 | 小眞義男 | 1981 | 付記製鉄と地質との関係、火成岩類概説 | 北上川流域地質説明書 | | |
| 50 | 足 勇郎 | 1952 | ヤマガ洞遺跡概報 | 蘆北郷土文化資料 | 第3集 | 土壤会 |

第12表 岩手県内製鉄遺跡関連文献一覧表（2）

| NO | 著者 | 刊行年 | 論文名・書名 | 雑誌名・シリーズ名 | 巻数・号数 | 著者 | 刊行会 |
|-----|--------------|------|--------------------------------|-----------------------|-------|------------------------------|------------|
| 51 | 斎藤 茜 | 1983 | 八戸の鐵の歴史 | 八戸地域史 | 第21号 | 八戸歴史研究会 | |
| 52 | 斎藤 茜 | 1984 | 八戸藩日記の鉄開拓記事 | たらら研究 | 195号 | たらら研究会 | |
| 53 | 斎藤 茜 | 1985 | 八戸藩日記の鉄開拓記事(二) | たらら研究 | 27号 | たらら研究会 | |
| 54 | 斎藤 茜 | 1987 | 八戸藩日記の鉄開拓記事(三) | たらら研究 | 28号 | たらら研究会 | |
| 55 | 斎藤 茜 | 1988 | 八戸藩日記の鉄開拓記事(四) | たらら研究 | 29号 | たらら研究会 | |
| 56 | 斎藤 茜 | 1990 | 鐵の社会史 | | | | 雄山閣出版 |
| 57 | 佐々木晃 | 1965 | わが豪麗三平伝 | | | | 民衆社 |
| 58 | 佐藤源郎 | 1964 | 砂鉄鉱石論 | 東洋学報 | 第1集 | 通産省地下資源開発評議会船山部会 | |
| 59 | 佐藤英二郎 | 1963 | 仙台藩製鉄史 | 経済学研究 | 57号 | 経済学会 | |
| 60 | 西鶴栄吉・黒沢千穂子 | 1985 | 大槌地質年表 | | | | 川口印刷 |
| 61 | 西鶴栄吉ほか | 1990 | | 大槌町史 | 上巻 | 大槌町 | |
| 62 | 菅原秀幸 | 1986 | 南浦鉄業史 | | | | 岩手山坂 |
| 63 | 杉原清一 | 1989 | たらら鉄床礦の移動について | たらら研究 | 27号 | たらら研究会 | |
| 64 | 千賀町立図書委員会 | 1993 | | 千賀町史 | 第3巻 | 千賀町 | |
| 65 | 高田一徳 | 1989 | 高越鉱床免耕調查報告書 | 一戸町文化財調査報告書 | 第22集 | 一戸町教育委員会 | |
| 66 | 高橋吉宗 | 1964 | 北上山系製鉄史についての一考察 | たらら研究 | 13号 | たらら研究会 | |
| 67 | 武田母男 | 1984 | 宮古市道路分布調査報告書 | 宮古市埋蔵文化財調査報告書 | 第4集 | 宮古市教育委員会 | |
| 68 | 武田母男 | 1986 | 宮古市道路分布調査報告書4 | 宮古市埋蔵文化財調査報告書 | 第8集 | 宮古市教育委員会 | |
| 69 | 武田母男 | 1986 | 宮古市道路分布調査報告書 | 宮古市埋蔵文化財調査報告書 | 第9集 | 宮古市教育委員会 | |
| 70 | 田村栄一郎 | 1987 | 「みちのくの鉄跡」、今や「む」と | | | | 久慈砂錆の会 |
| 71 | 千葉房夫 | 1954 | 日高白蘿頭東磐井郡東山を中心にして | 東北鉄業史 | | | |
| 72 | 千葉房夫 | 1961 | 岩手県東磐井郡の製鉄業 | たらら研究 | 6号 | たらら研究会 | |
| 73 | 東京工業大学製鉄史研究会 | 1982 | 古代日本の鐵と社會 | | | | 平凡社叢書 |
| 74 | 新井龍夫 | 1970 | 小中國の製鉄歴史上卷 | 盛岡市文化財調査報告書 | 第7集 | 盛岡市教育委員会 | |
| 75 | 新井龍夫 | 1983 | 古代製鉄の発達・加工技術について | 日本製鉄史集成 | | | たらら研究会 |
| 76 | 新井戸留恵 | 1949 | 岩手における私鉄一般と岩手における鉄跡(一) | 岩手史学研究 | 4号 | 岩手史学会 | |
| 77 | 日本民俗文化研究所編 | 1973 | 日本常生生活資料叢書 | | 第8巻 | 三一書院 | |
| 78 | 野崎 勝 | 1977 | 仙台藩の製鉄と佐藤十郎左衛門 | 金城博物館紀要 | 第2号 | 社団法人金属学会付属金属博物館 | |
| 79 | 野崎 勝 | 1988 | 東道・北切の鐵文化 | 東北文化研究所紀要 | 第22号 | 東北学院大学東北文化研究所 | |
| 80 | 新井一郎ほか | 1983 | 陸中国下閉伊郡岩屋村草野家文書(上) | 日本文化研究所研究報告 | 第12集 | 日本文化研究所 | |
| 81 | 藤沢町教育委員会 | 1992 | 藤沢の遺跡 | | | | 藤沢町 |
| 82 | 藤沢町文化財調査委員会編 | 1986 | 大體のキリシタンと製鉄 | | | | 藤沢町文化財振興協会 |
| 83 | 三上 順ほか | 1983 | 東北鉄貧自動車道開保埋蔵文化財調査報告書 | 岩手県文化財調査報告書 | 第57集 | 岩手県教育委員会 | |
| 84 | 佐藤昌和 | 1984 | 中平人跡跡第3次発掘調査報告書 | 水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書 | 第18集 | (財)水沢市埋蔵文化財事業団水沢市埋蔵文化財調査センター | |
| 85 | 舟井義郎 | 1961 | 近畿東北地方における製鉄跡 | たらら研究 | 11号 | たらら研究会 | |
| 86 | 室根村教育委員会 | 1995 | 室根の鉄山 | | | | 室根村 |
| 87 | 森 真兵衛・板橋 雄 | 1950 | 橋野高伊遺跡 | | | | 盛岡市教育委員会 |
| 88 | 森 真兵衛・板橋 雄 | 1957 | 近代鉄重要の成立—盛岡製鉄所前史— | | | | (株)新日本製鐵 |
| 89 | 森 真兵衛・板橋 雄 | 1960 | 制鉄所老舗調査報告書 | | | | 盛岡市教育委員会 |
| 90 | 森治一郎 | 1974 | 日本古代文化の研究・鉄 | | | | 社会思想社 |
| 91 | 八重樋合ほか | 1979 | 東北鉄貧自動車道開保埋蔵文化財調査報告書 | 岩手県土肥町調査報告書 | 第32集 | 岩手県教育委員会 | |
| 92 | 吉田 英ほか | 1982 | 東北鉄貧自動車道開保埋蔵文化財調査報告書 | 岩手新文化財調査報告書 | 第68集 | 岩手県教育委員会 | |
| 93 | 山崎一草 | 1958 | 横野高伊町の史料整理になるまで | 岩手縣上文化資料 | 第11集 | 土曜会 | |
| 94 | 佐々木健・川内泰子 | 2001 | 山田町内道路評議会分布調査報告書Ⅱ (豊見地区) | 山田町埋蔵文化財調査報告書 | 第5集 | 山田町教育委員会 | |
| 95 | 佐々木健・川内泰子 | 2002 | 山田町内道路評議会分布調査報告書Ⅲ (山田・轟谷地区) | 山田町埋蔵文化財調査報告書 | 第7集 | 山田町教育委員会 | |
| 96 | 陸前高田市編集委員会 | 2000 | | 陸前高田市史 | 第十巻 | 陸前高田市 | |
| 97 | 田口勇・尾崎保博 | 1994 | 「みちのくの鉄」 | | | | ㈱アグリ技術センター |
| 98 | 湯田勝彦 | 1994 | 藤沢町ドウメイ鉄製鉄道跡の発掘調査 | 「みちのくの鉄」仙台藩例里製鉄の歴史と科学 | | | ㈱アグリ技術センター |
| 99 | 藤田勝彦ほか | 1978 | ドウメイ鉄製鉄道跡発掘調査報告書 | | | | 藤沢町教育委員会 |
| 100 | 江刺恒久 | 1927 | 萬ヶ島土記 | 南田著書 | 第一冊 | 南田著書刊行會 | |



岩脇焗屋・全景



山口山焗屋(1)・遠景(北→)



沢内焗屋・近景



室根山焗屋・全景(東→)



坂本焗屋・全景(東→)



坂本焗屋・鉄滓採集地点



白堀焗屋・全景(南→)



大陽鍛冶場全景(西→)



佐野洞屋・近景



吉が沢砂鉄山・開田地(西→)



沢山不動遺跡・近景



払川中流遺跡・全景(東→)



根井沢日影Ⅰ遺跡・全景(南→)



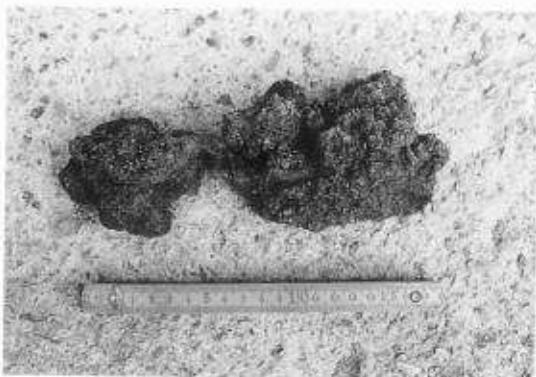
芦毛渡鉄山・排滓場(北西→)



橡沢山洞屋・出土遺物



湯清畠鍛冶跡・出土遺跡



門脇沢遺跡・出土遺物(鉄滓)



三十刈遺跡・出土遺物(鉄滓)



渋梨の沢遺跡・出土遺物(鉄滓)



沼内遺跡・出土遺物(鉄滓)



源水遺跡・出土遺物(鉄滓)



屋敷遺跡・出土遺物(羽口)



沢山遺跡・出土遺物(鉄滓)



夏本遺跡・出土遺物(鉄滓)



きづア沼遺跡・出土遺物(鉄滓)



カチ沼の沢遺跡・出土遺物(鉄滓)



カジヤ前遺跡・出土遺物(鉄滓)



鬼打遺跡・出土遺物(羽口)



山岸沢遺跡・出土遺物(鉄滓)



高清水遺跡・出土遺物(鉄滓)



張山遺跡・出土遺物(鉄滓)



上の山鉄山・出土遺物(鉄滓)

岩手県文化財調査報告書第122集

岩手の製鉄遺跡

— 岩手県内重要遺跡詳細分布調査報告書IV —

発行年月日 平成18年3月31日

発 行 岩手県教育委員会
028-8570 盛岡市内丸10-1

編 集 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課

印 刷 川嶋印刷株式会社
